



サステナビリティレポート
2019



〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方
編集方針
会社情報
コーポレートミッション
トップコミットメント
サステナビリティへの取り組みのあゆみ
森永乳業のCSR
7つの重要取組課題
●健康・栄養
●環境
●人権
●供給
●次世代育成
●人財育成
●コーポレート・ガバナンス
データ集
第三者保証
GRIスタンダード対照表

本PDFのご利用方法

← 左のナビゲーションをクリックすることで、該当のページに移動することができます

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方	03
編集方針	04
会社情報	05
コーポレートミッション	10
トップコミットメント	11
サステナビリティへの取り組みのあゆみ	12
森永乳業のCSR	13
7つの重要取組課題	17
●健康・栄養	
基本的な考え方	23
体制	23
KPI	23
森永乳業の栄養機能性素材	24
健康寿命延伸への寄与	26
乳幼児の健やかな成長への貢献	27
公衆衛生の向上	30
●環境	
基本的な考え方	31
体制	32
KPI	32
環境リスクの認識	33
環境法規制の遵守	33
環境マネジメントを推進する仕組み	33
グループ全体への環境活動の拡大	34

気候変動	35
資源循環	36
水資源	38
サプライチェーンでの環境配慮	39
環境配慮型容器包装の促進	40
●人権	
基本的な考え方	41
体制	42
KPI	42
人権方針の浸透	42
労働安全衛生の推進	43
ステークホルダー・エンゲージメント	46
サプライヤー	46
外国人従業員に対する雇用調査	47
ダイバーシティ&インクルージョン	47
働き方改革	49
公平公正な雇用	50
労使の対話	50
●供給	
基本的な考え方	51
体制	52
KPI	52
お取引先との品質の取り組み	52
社内での品質の取り組み	57

お客さまへの対応	59
非常時の供給体制の確立	62
●次世代育成	
基本的な考え方	64
体制	64
KPI	64
森永乳業の次世代育成活動	64
次世代育成の環境を整える	66
●人財育成	
基本的な考え方	67
体制	67
KPI	68
事業を支える人財を育成するための制度	68
健康経営の実践	72
●コーポレート・ガバナンス	
コーポレート・ガバナンス	74
コンプライアンス	74
情報セキュリティ	76
データ集	78
第三者保証	82
GRIスタンダード対照表	83

〈目次〉

> サステナビリティに関する情報開示の考え方

- 編集方針
- 会社情報
- コーポレートミッション
- トップコミットメント
- サステナビリティへの取り組みのあゆみ
- 森永乳業のCSR
- 7つの重要取組課題
 - 健康・栄養
 - 環境
 - 人権
 - 供給
 - 次世代育成
 - 人財育成
 - コーポレート・ガバナンス

- データ集
- 第三者保証
- GRIスタンダード対照表

サステナビリティに関する情報開示の考え方

基本的な考え方

森永乳業は、「CSRは事業活動そのもの」という考えのもと、持続可能な社会の実現に向けて事業活動を推進しています。その中でもステークホルダーである、お客さま・お取引先・地域社会の皆さま・株主投資家、従業員などのコミュニケーションは、世の中の変化を知り、社会に対して森永乳業がどのような価値を提供していけるかの、道しるべとして重要だと考えています。

コミュニケーションの方法として、統合報告書ならびにサステナビリティレポート、ウェブサイトを通じて、森永乳業の財務・非財務情報の開示を行っています。情報開示を基に、ステークホルダーの皆さまとの継続的な対話・評価を行い、当社の事業活動に活かしていきます。

開示の形式

統合報告書

株主・投資家さま向けに、2019年度より統合報告書を発行いたします。

業績や経営戦略などの財務情報と、環境・社会・ガバナンスといった非財務情報がどのように相関し、社会に対して価値協創できているかのストーリーを示しています。



WEB

[▶ https://www.morinagamilk.co.jp/ir/library/annual.html](https://www.morinagamilk.co.jp/ir/library/annual.html)

サステナビリティレポート(本レポート)

調査機関さま向けに、2018年度よりサステナビリティレポートの内容を、GRIスタンダードに沿った内容にしています。

主に、環境・社会・ガバナンスの取り組み、KPIを中心に開示します。



ウェブサイト

森永乳業では、財務情報をIRページ、非財務情報(環境・社会・ガバナンス)をCSRページにて公開しています。ウェブの特性を活かして、随時最新の情報に更新し、ステークホルダーの皆さまが必要とし、満足していただける情報提供に努めています。



WEB

[▶ https://www.morinagamilk.co.jp/](https://www.morinagamilk.co.jp/)

参考としたガイドライン

以下のガイドラインを参考にサステナビリティの取り組みを含む統合的な情報開示を行っています。

- ・国際統合報告フレームワーク
- ・価値協創ガイダンス
- ・SASBスタンダード
- ・GRIスタンダード
- ・国連グローバル・コンパクト
- ・ISO26000

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

> 編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- 供給
- 次世代育成
- 人財育成
- コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

編集方針

森永乳業では「環境報告書」の発行を2000年に開始し、2008年からは「CSR報告書」、2017年からは持続可能な社会の実現に向けて「サステナビリティレポート」として発行してきました。

2019年は、ウェブ上のデータの公開に変更し、GRIスタンダードを参照して、グローバルな視点から求められる情報開示を行うこととしました。

報告対象範囲

森永乳業株式会社および国内外連結子会社32社により構成された森永乳業グループ全体を報告対象組織としています。

「森永乳業グループ」と記載している場合は、主に国内の森永乳業グループを対象としており、「森永乳業」と記載している場合は、森永乳業単体を対象としています。

報告期間

2018年度(2018年4月1日～2019年3月31日)の活動を中心に、一部に過去の経緯や発行時期までに行った活動、将来の見通し・予定などについて記載しています。

参照ガイドライン

この報告書は、GRIスタンダードを参照して作成しています。詳細については「GRIスタンダード対照表」(→ P.83)をご参照ください。

発行日

2019年9月 / 2019年10月改訂(P.14, 35, 39)

次回発行予定: 2020年9月。年1回発行。

発行部署および連絡先

森永乳業株式会社 コミュニケーション本部 CSR推進部

〒108-8384 東京都港区芝5-33-1

TEL: 03-3798-0129

FAX: 03-5442-3691

第三者保証

2018年度のエネルギー使用量、二酸化炭素(CO₂)排出量に関しては、第三者保証を受審しています。

詳細については「第三者保証」(→ P.82)をご参照ください。

免責事項

過去と現在の事実だけでなく、公開日時点における計画や見通し、経営方針・経営戦略に基づいた将来予測が含まれています。諸与件の変化によって、業績などの将来の事業活動の結果や事象が予測とは異なったものとなる可能性がありますことをご了解いただきますようお願いいたします。

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

＜会社情報＞

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- 供給
- 次世代育成
- 人財育成
- コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

会社情報

会社概要

会社名 : 森永乳業株式会社
(MORINAGA MILK INDUSTRY CO.,LTD.)

本社所在地 : 〒108-8384 東京都港区芝五丁目33番1号

代表者 : 代表取締役社長 宮原 道夫
代表取締役副社長 野口 純一

創業 : 1917年(大正6年)9月1日

設立 : 1949年(昭和24年)4月13日

資本金 : 21,731百万円(2019年3月31日現在)

従業員数(単体): 3,247名(2019年3月31日現在)
(連結): 6,157名(2019年3月31日現在)

事業内容 : 牛乳、乳製品、アイスクリーム、飲料、その他の食品などの
製造・販売 他

URL : <https://www.morinagamilk.co.jp/>

事業所(2019年3月31日現在):
工場・市乳センター 15カ所(佐呂間工場、別海工場、盛岡工場、福島工場、利根工場、東京工場、東京多摩工場・大和工場・東日本市乳センター、松本工場、富士工場、中京工場、近畿工場、神戸工場・西日本市乳センター)
支社・支店・商品センター・管理センター 6カ所(東北支店、首都圏支社、管理センター、商品センター、中部支社、西日本支社)
研究・情報センター 1カ所(座間市)

国内連結子会社

森永乳業販売株式会社	株式会社クリニコ
株式会社ナポリアイスクリーム	株式会社東京デリー
森永乳業北海道株式会社	森永乳業九州株式会社
エムケーチーズ株式会社	株式会社シェフォーレ
株式会社フリジポート	株式会社森乳サンワールド
森永酪農販売株式会社	森永エンジニアリング株式会社
株式会社トーワテクノ	株式会社サンフコ
株式会社リザンコーポレーション	北海道保証牛乳株式会社
エム・エム・プロパティ・ファンディング株式会社	日本製乳株式会社
十勝浦幌森永乳業株式会社	富士森永乳業株式会社
東北森永乳業株式会社	東洋発酵乳株式会社
横浜森永乳業株式会社	広島森永乳業株式会社
森永北陸乳業株式会社	沖縄森永乳業株式会社
熊本森永乳業株式会社	

主な海外現地法人・合併会社

Morinaga Nutritional Foods, Inc.
MILEI GmbH
Morinaga Milk Industry (Shanghai) Co., Ltd.
Morinaga Nutritional Foods (Asia Pacific) Pte. Ltd.
PT. Kalbe Morinaga Indonesia

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

▶ 会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- 供給
- 次世代育成
- 人財育成
- コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

商品カテゴリー

経営理念「乳で培った技術を活かし、私たちならではの商品をお届けすること、健康で幸せな生活に貢献し豊かな社会をつくる」のもと、さまざまな商品・サービスを展開しています。

森永乳業は1917年に「日本煉乳株式会社」として創業して以来、乳の技術を活かした商品を数多く生み出してきました。

1969年には、腸内フローラの改善による整腸効果が期待される「ビフィズス菌 BB536」の発見や、1960年代から長い時間をかけて研究してきた、乳児を守る重要な成分ラクトフェリンなど、乳を基にした栄養機能性素材を数多く研究しています。

「森永ビヒダスヨーグルト」はビフィズス菌BB536を配合したヨーグルトとして1978年に発売され、いまでも変わらずお客さまの健康を守っています。

また、乳児を守る重要な成分とされるラクトフェリンを配合した、世界初の育児用ミルク「森永BF-L ドライミルク」を発売しました。

優れた開発力や技術を活かした、パイオニア的商品が多いことも特長です。

1961年に日本初のコーヒー用粉末クリーム「クリープ」を発売しました。クリープは、インスタントコーヒーが定着し、日本にコーヒー文化が広がって以来、「クリープを入れないコーヒーなんて」というキャッチコピーができるほどの人気商品となりました。それを支えたのは、独自の製造技術と「100%牛乳成分由来」という他社にまねできない商品特長であり、当社がつくった「コーヒー用粉末クリーム市場」をいまでも変わらず牽引しています。

また、1985年に日本初となる、ロングライフ製法による樹脂カップ入りの「チルドカップ飲料」を発売しました。スタイリッシュで持ち運びしやすい容器と飲み切るのにちょうどいい容量が人気を呼びました。1993年には、当社が自ら開拓した「チルドカップ飲料市場」に「マウントレニア カフェラッテ」を投入。外で飲むコーヒーは缶コーヒーや喫茶店のイメージが強かった中、エスプレッソとミルクのベストバランスを追求した商品は、いまでもチルドカップ飲料のトップブランドとして長く愛されています。

これからも「健康」と「おいしさ」を追求した商品の開発を目指していきます。



〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

＜会社情報＞

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- 供給
- 次世代育成
- 人財育成
- コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

商品カテゴリー

<p>牛乳類 「森永のおいしい牛乳」「まきばの空」など</p> 	<p>飲料 チルドカップコーヒー「マウントレーニア カフェラッテ」やチルドカップ紅茶「リプトン」など</p> 	<p>ヨーグルト 「ビヒダスプレーンヨーグルト」「ラクトフェリンヨーグルト」「トリプルヨーグルト」など</p> 	<p>デザート 「森永の焼プリン」「森永牛乳プリン」など</p> 	<p>業務用商品 外食産業等向けの商品</p> 
<p>アイスクリーム 「ピノ」「MOW(モウ)」「PARM(パルム)」など</p> 	<p>クリープ・れん乳・その他食品 「クリープ」「森永ミルク・加糖れん乳」「森永絹ごしとうふ」など</p> 	<p>チーズ・バター 「クラフト スライスチーズ」「森永北海道バター」など</p> 	<p>育児用食品 育児用ミルク「E赤ちゃん」「チルミル」、特殊ミルク「ニュー MA-1」、幼児用食品「やさいジュレ」など</p> 	<p>海外用商品 世界中でさまざまな商品を供給しています。</p>  
<p>ヘルスケア・健康食品 大人のための粉ミルク「ミルク生活」、ビフィズス菌を活用したサプリメントなど</p> 	<p>流動食・介護食 流動食・嚥下食・栄養補助食品など(株式会社クリニコ)</p> 	<p>宅配商品 「森永カルダス」「腸活ミルク」など</p> 	<p>微酸性電解水生成装置 工場や店舗など食品を扱う場所を高い衛生レベルに保つ微酸性電解水生成装置です。</p> 	

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

〉 会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- 供給
- 次世代育成
- 人財育成
- コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

提携ブランド



Kraft

1970年にチーズおよびチーズ関連商品で技術提携。
KRAFTはKraft Foodsの商標です。



Lipton

1984年に業務提携。
チルド紅茶飲料などの商品を販売。
リプトンはユニリーバの商標です。

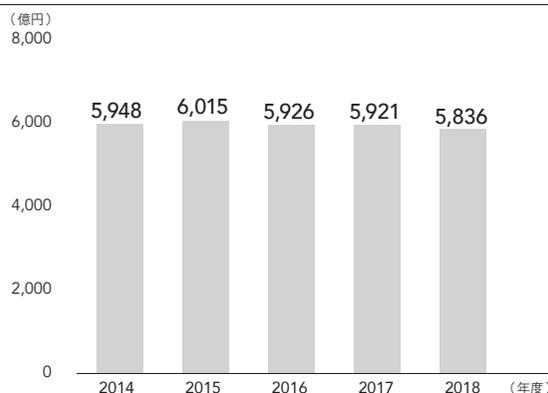


Sunkist

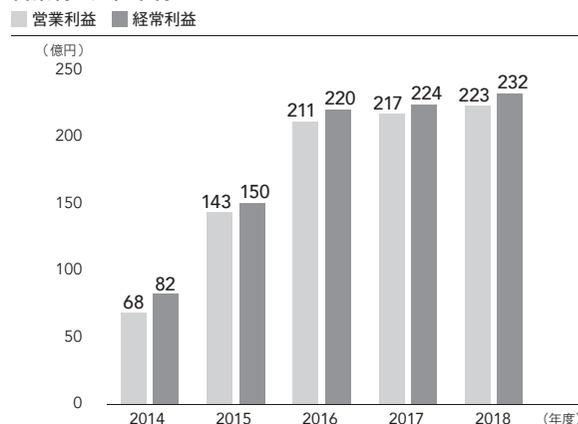
1971年に商標使用許諾契約を締結。
果汁飲料などの商品を販売。
サンキストはSunkist Growers, Inc., U.S.A.の登録商標です。

財務ハイライト

売上高



営業利益／経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益／1株当たり当期純利益



事業セグメント別 (2018年度)

事業セグメント	売上高	営業利益
機能性・食品素材事業 (B to B事業)	969億円	58億円
国際事業	289億円	16億円
健康・栄養事業	491億円	31億円
B to C事業	3,107億円	105億円

※セグメント名は旧中期経営計画のものです。現中期経営計画のセグメントとはか
い離があります。

株式の状況 (2019年3月31日現在)

発行可能株式総数：144,000,000株

発行済株式の総数：49,458,374株 (自己株式351,669株を除く)

株主数：26,718名

大株主の状況 (2019年3月31日現在)

株主名	持株数	持株比率
森永製菓株式会社	5,249千株	10.61%
株式会社みずほ銀行	2,445千株	4.94%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	2,016千株	4.08%
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	1,854千株	3.75%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	1,746千株	3.53%
株式会社三菱UFJ銀行	1,388千株	2.81%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口9)	1,341千株	2.71%
株式会社SMBC信託銀行 (株式会社三井住友銀行退職給付信託口)	1,328千株	2.69%
森永乳業従業員持株会	969千株	1.96%
三菱UFJ信託銀行株式会社	923千株	1.87%

※持株比率は発行済株式の総数から自己株式を控除した数に基づき算出しています。

株主分布状況 (2019年3月31日現在)



※小数点第二位以下を四捨五入しています。

その他 2.7%

WEB

業績情報に関する詳細はIRサイトへ
▶ <https://www.morinagamilk.co.jp/ir/>

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

＜ コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- 供給
- 次世代育成
- 人財育成
- コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

コーポレートミッション

コーポレートスローガン

かがやく“笑顔”のために

コーポレートスローガンに込めた想い

私たち森永乳業グループがお客さまにお届けしたい価値である「健康と幸せ」の結果として、社会に提供していきたいものを“笑顔”という言葉で表現しました。

「日々の生活や、家族や仲間との団らんを通じて、内面から自然とあふれてくる“笑顔”を生み出していきたい」

そんな私たちの想いをかがやく“笑顔”のためにという言葉に込めました。

経営理念

乳で培った技術を活かし

私たちならではの商品をお届けすることで

健康で幸せな生活に貢献し豊かな社会をつくる

経営理念に込めた想い

お客さまのかがやく“笑顔”のために、私たちは創業から培ってきた力を活かし、商品としての「乳」だけにこだわらず、独自性のある様々な商品やサービスをお届けしてまいります。

それにより、心とからだの両面からお客さまの健康を支え、幸せな生活に貢献することで、笑顔あふれる豊かな社会をつくります。

行動指針

私たちの8つの問いかけ

1. お客さまに寄り添い 感動を共有できていますか
2. 感謝の気持ちを持っていますか 伝えていますか
3. 全ての品質に自信が持てますか
4. 本物の安全・安心を追い続けていますか
5. 常に挑戦し続けていますか
6. 「チーム森永」の輪 築いていますか
7. 今 自分も仲間も活き活きしていますか
8. 夢を語り合い 未来へ一歩踏み出していますか

行動指針の役割

コーポレートスローガンと経営理念を実現するために、森永乳業グループに所属する一人ひとりが行動において心がけるべき指針を策定しました。

森永乳業グループの各種方針

REPORT

人権方針(▶P.41) / 安全衛生基本方針(▶P.43) / 環境方針(▶P.31) / 調達方針(▶P.51) / 品質方針(▶P.51)

WEB

▶ <https://www.morinagamilk.co.jp/corporate/vision/>

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- 供給
- 次世代育成
- 人財育成
- コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

トップコミットメント



森永乳業株式会社
代表取締役社長

宮原 道夫

森永乳業は、2019年4月に発表した中期経営計画において、10年後の企業像を「森永乳業グループ10年ビジョン」で示し、その中で「サステナブルな社会の実現に貢献し続ける企業」を目指すことを示しました。

また、100周年の節目に掲げたコーポレートスローガン「かがやく“笑顔”のために」に基づいて定めた「7つの重要取組課題」に対し、2019年には重要取組課題それぞれの「活動の方向性」と「KPI」を設定しました。今後は目標達成に向けた具体的なロードマップを描き、取り組みを進めていくことになります。

「7つの重要取組課題」のひとつである「健康・栄養」に関しては、特にビフィズス菌やラクトフェリン、ペプチドなど、当社の独自の素材が世界的に注目されています。当社の強みであるこれらの栄養機能性素材を活用した商品を社会に提供するとともに、その機能についてお客さまに知っていただくコミュニケーションに力を入れ、お客さまの健康に貢献いたします。

「環境」に関しては、気候変動や食品ロス削減、プラスチック容器への対応が今日の重要なテーマとなっています。こうした課題に、具体的な目標値を定め、サプライチェーン全体を俯瞰する視点をもって取り組んでまいります。

2018年4月には、「人権の保護」「不当な労働の排除」「環境への対応」「腐敗の防止」を掲げる国連グローバル・コンパクトに署名しました。これを受け、2018年11月には「人権方針」を策定、公表しました。当社グループだけでなく、サプライチェーン全体での人権尊重の取り組みを推進します。



近年、持続可能な開発目標（SDGs）を含め、社会に共通の課題があることが広く認知されてきました。森永乳業グループは、こうした課題に対して積極的に取り組み、ステークホルダーの「かがやく“笑顔”」づくりに貢献します。

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

＜サステナビリティへの取り組みのあゆみ＞

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- 供給
- 次世代育成
- 人財育成
- コーポレート・ガバナンス

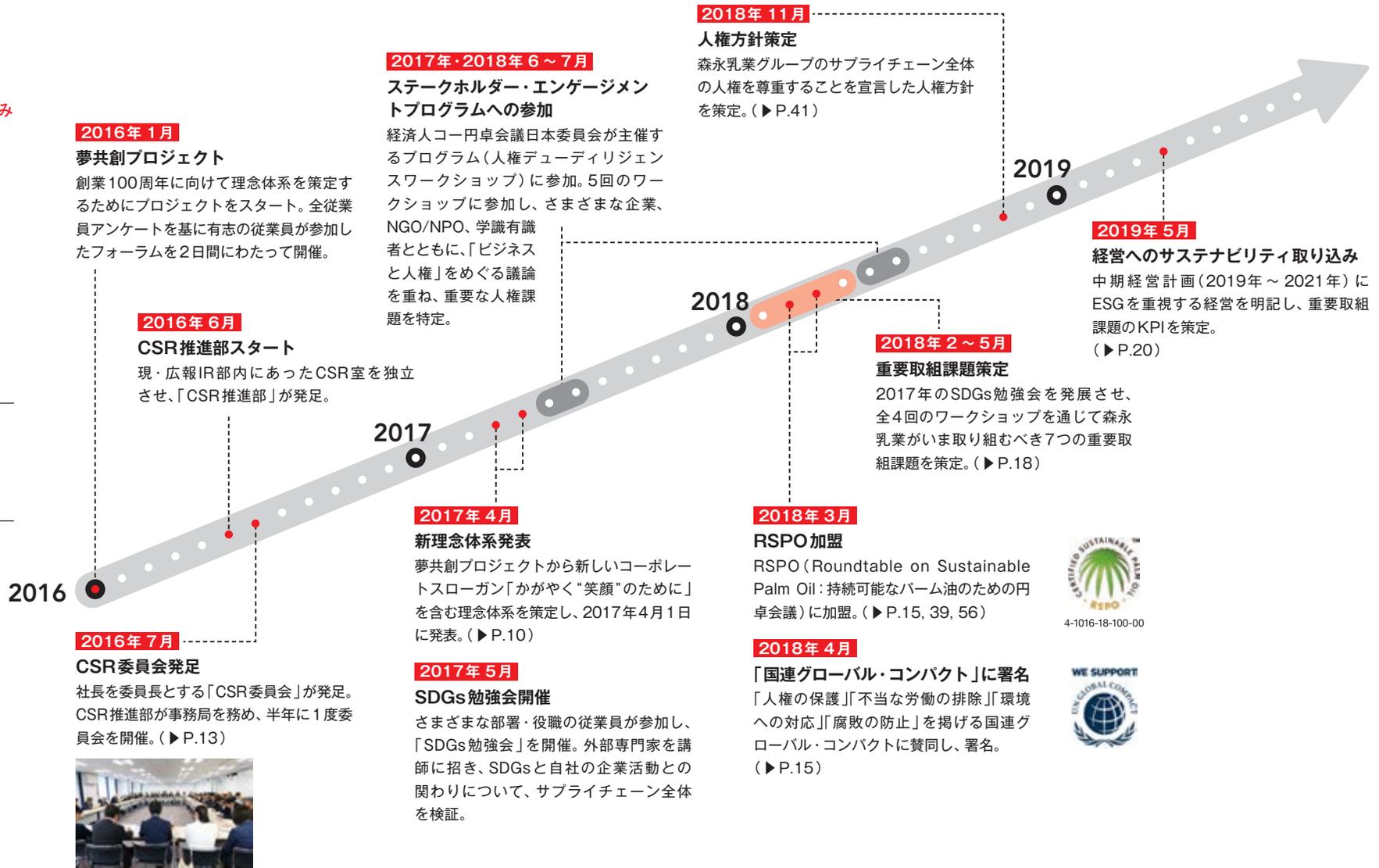
データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業は創業100周年に合わせて新理念体系の策定を行い、「持続可能な社会の実現にむけて」を合言葉にサステナビリティ実現に取り組んできました。近年のサステナビリティに関する森永乳業の取り組みは、以下の通りです。



〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

> 方針・考え方

> 体制

ステークホルダーとコミュニケーション

外部イニシアティブ・団体への加盟

社外からの評価・表彰

7つの重要取組課題

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- 供給
- 次世代育成
- 人財育成
- コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

森永乳業のCSR

方針・考え方

CSRの考え方

森永乳業グループでは、CSRは経営理念を実現するためのすべての実務だと考えています。全従業員が自分ごととして実務に取り組むことで、「笑顔あふれる豊かな社会づくり」に貢献していきます。

体制

CSR推進体制

森永乳業は、社長を委員長とするCSR委員会のもと、グループ全体でCSR活動を推進しています。2016年には、全社横断的機能を果たす専門部署として、CSR推進部を設置し、CSR活動の整備、各部署における活動の横串機能を強化、CSRに関する経営課題に全社レベルで取り組む体制を構築しています。社内への十分な情報発信と共有をはかることで、CSRの考え方を全社に浸透させていきます。

CSR委員会は、取締役会の機能を補強するために設置され、ESG（環境・社会・ガバナンス）の観点からサステナブルな社会を実現するために取り組むべき検討項目を洗い出し、対応、進捗、確認を含む議論をしています。

CSR委員会

社長を委員長とし、役員、関係部署の部長および委員長が指名する者を委員として構成し、事務局はCSR推進部が務めています。定例委員会は原則として半年に1回開催しています。

CSR推進部

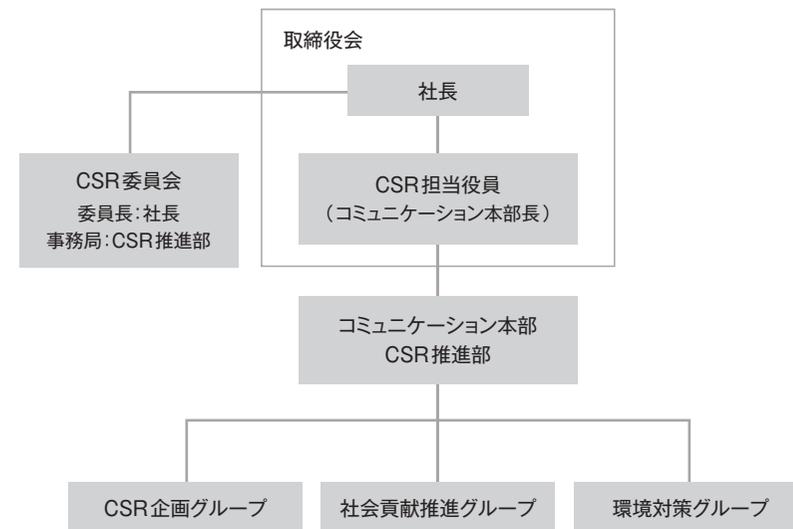
CSR企画グループ、社会貢献推進グループ、環境対策グループで構成されます。

CSR企画グループ：ESG（非財務）情報の発信、企業文化・組織風土改善施策の立案、実施および推進

社会貢献推進グループ：工場見学や食育などの社会貢献活動の推進

環境対策グループ：全社的な環境対策の推進、ISO14001環境マネジメントシステムの運用・管理

CSR推進体制



〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

方針・考え方
体制

＜ ステークホルダーとコミュニケーション

外部イニシアティブ・団体への加盟
社外からの評価・表彰

7つの重要取組課題

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- 供給
- 次世代育成
- 人財育成
- コーポレート・ガバナンス

データ集

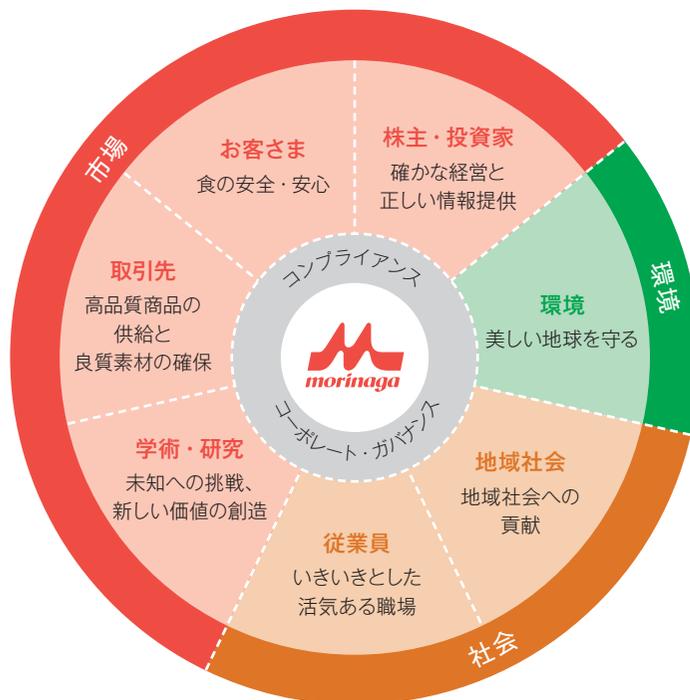
第三者保証

GRIスタンダード対照表

ステークホルダーとコミュニケーション

共感の輪

森永乳業は、7つのステークホルダーに共感の輪を広げることが企業活動の基本とし、それぞれのステークホルダーとの関係において取り組むべきテーマを掲げています。



コミュニケーションの方法

森永乳業は各ステークホルダーについて、以下の方法を使用してコミュニケーションを行っています。

ステークホルダー	コミュニケーション方法と実績
お客さま	①お客さま相談室 ②顧客満足度アンケート調査 ③エンゼル110番 ④森と食の探検隊などの社会貢献活動
株主・投資家	①株主総会 議決権行使数：420,112 ②個人投資家説明会 開催数：4回 決算説明会 開催数：2回 ③IRサイトでの情報発信
取引先	①CSR調達アンケート ②品質向上勉強会・物流勉強会 ③調達先説明会
学術・研究	共同研究・学会発表
従業員	①生き生きサーベイ（従業員満足度調査） ②キャリア調査 ③夢共創フォーラムを通じての対話
地域社会	①工場見学 2018年度来場者数：3万名 ②環境清掃活動や催事への参加 2018年度参加者数：12,758名
環境	①認証原材料の使用 ②環境業界団体の協力と協働 ③工場での周辺清掃

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

方針・考え方

体制

ステークホルダーとコミュニケーション

> 外部イニシアティブ・団体への加盟

> 社外からの評価・表彰

7つの重要取組課題

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- 供給
- 次世代育成
- 人財育成
- コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

外部イニシアティブ・団体への加盟

森永乳業はサステナブルな社会の実現のため、さまざまなステークホルダーと対話・協働しています。

グローバルでは、2018年4月に国連の提唱する人権の保護、不当な労働の排除、環境への対応、そして腐敗の防止に関わる10の原則に賛同し、「国連グローバル・コンパクト」に署名しました。



また、原材料として使用している「パーム油」「パーム核油」においては、調達方針に基づき、2018年3月にRSPO (Roundtable on Sustainable Palm Oil: 持続可能なパーム油のための円卓会議) に加盟しました。また、2019年4月には、「持続可能なパーム油ネットワーク (JaSPON)」に参加し、理事に就任しました。これからも引き続き、持続可能なパーム油の購入を行っていきます。



日本国内においては、牛乳乳製品の品質・生産技術の向上、酪農乳業の発展などに寄与するため、一般社団法人日本乳業協会ならびに全国牛乳容器環境協議会にて2018年度に会長職を務め、一般社団法人Jミルクにて理事を務めています。

社外からの評価・表彰

格付け評価

森永乳業は、持続可能な社会の実現に向けた活動を推進している企業グループとして、さまざまな外部機関より高く評価されています。

日本政策投資銀行より「DBJ環境」最高ランクの格付けを取得（2019）

株式会社日本政策投資銀行（以下、DBJ）の融資メニューである「DBJ環境格付」において、環境への取り組みに優れた企業に与えられる最高ランクの格付けを取得しました。

「SNAM サステナビリティインデックス」の構成銘柄に選定（2018）

2012年8月から運用が開始された「SNAMサステナブル運用」は、ESG（環境・社会・ガバナンス）の評価が高い企業に幅広く投資する、年金基金・機関投資家向けの運用プロダクトです。

森永乳業は2018年に初めて構成銘柄に選ばれました。

日本政策投資銀行より「DBJ BCM 格付」の格付けを取得（2017）

株式会社日本政策投資銀行（以下、DBJ）が防災および事業継続への取り組みが優れている企業に与える「DBJ BCM 格付」を取得しました。

森永乳業は2017年に初めて取得しました。

日本政策投資銀行より「DBJ 健康経営格付」最高ランクの格付けを取得（2016）

株式会社日本政策投資銀行（以下、DBJ）の融資メニューである「DBJ 健康経営格付」において、従業員の健康配慮への取り組みに優れた企業に与えられる最高ランクの格付けを取得しました。

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

方針・考え方

体制

ステークホルダーとコミュニケーション

外部イニシアティブ・団体への加盟

> **社外からの評価・表彰**

7つの重要取組課題

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- 供給
- 次世代育成
- 人財育成
- コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

表彰

森永乳業は、商品の品質や研究活動、社会活動について、さまざまな外部機関より表彰をいただいています。

「濃密ギリシャヨーグルト パルテノ プレーン砂糖不使用/プレーン加糖」が、「iTQi (国際味覚審査機構) 2018」で「優秀味覚賞“二ツ星”」を受賞

食品や飲料品の味覚と品質を国際的に評価するコンテストにおいて、「濃密ギリシャヨーグルト パルテノ プレーン砂糖不使用/プレーン加糖」が“特記に値する”と認められた商品に贈られる優秀味覚賞“二ツ星”を受賞しました。



「アロエステロール」の研究開発の成果である、「アロエベラ由来植物ステロールの新規保健機能研究と機能性食品への応用」が、「日本栄養・食糧学会」で「平成30年度技術賞」を受賞しました

15年におよぶ当社の研究の中で、「アロエステロール」には抗肥満、抗糖尿病などの作用に加え、皮膚機能の改善効果があることを確認しています。また、肌の健康に貢献できるような、ヨーグルトなどの「アロエステロール」を配合した機能性食品への応用も進めています。

「森永リトルエンゼル育成 森と食の探検隊」が、文部科学省主催「青少年の体験活動推進企業表彰」で「審査委員会奨励賞」を受賞

「体験活動は人づくりの原点」として、子どもたちの「生き抜く力」を育む企業の社会貢献活動を表彰するものです。

「長期保存可能な豆腐の開発及びおからの飼料化」が、一般社団法人日本有機資源協会主催「第5回食品産業もったいない大賞」(協賛：農林水産省、後援：環境省・消費者庁)で「審査委員会委員長賞」を受賞

無菌充填技術により豆腐の長期保存を可能にしたことで、海外での販売・災害時の備蓄品としての活用など新たな市場を創造しており、その点を高く評価いただきました。

また豆腐製造時に出た「おから」を有効活用するため、「おから」に乳酸菌を混ぜ発酵させることで風味良好なサイレージ飼料をつくり、関係会社の森永酪農販売が販売しています。

「クラフト 無垢 大人の熟成チェダー味」と「クラフト 無垢 大人の熟成ゴータ味」が、「iTQi (国際味覚審査機構) 2018」で「優秀味覚賞“三ツ星”」と「優秀味覚賞“二ツ星”」を受賞しました

食品や飲料品の味覚と品質を国際的に評価するコンテストにおいて、「クラフト 無垢 大人の熟成チェダー味」が“極めて優秀”と認められた商品に贈られる最高レベルの優秀味覚賞“三ツ星”を、また、「クラフト 無垢 大人の熟成ゴータ味」が“特記に値する”と認められた商品に贈られる優秀味覚賞“二ツ星”を受賞しました。



「アニュアルレポート」が、「International ARC Awards 2018」の Traditional Annual Report部門で「金賞」を受賞

世界最大規模のアニュアルレポートコンペティションである「International ARC Awards 2018」の Traditional Annual Report部門にて、Gold (金賞) を受賞。当社が初めて発行した2015年度版に続き、3年連続での受賞となりました。

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

7つの重要取組課題

重要取組課題の策定

取り組み目標の設定

今後の課題解決に向けて

●健康・栄養

●環境

●人権

●供給

●次世代育成

●人財育成

●コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

7つの重要取組課題

7つの重要取組課題

「かがやく“笑顔”のために」

このコーポレートスローガンに基づき、森永乳業は7つの重要取組課題を策定しました。次の100年に向けて、サステナブル(持続可能)な社会をつくるため、そして人々の健康に貢献する企業でありつづけるための指針となります。

●健康・栄養

「かがやく“笑顔”」を実現する機能性とおいしさを兼ね備えた商品を開発・販売し、健康・栄養をお届けします。

- ・「栄養価の高い商品」「嗜好性の高い商品」に対する社会のニーズは高く、また、中長期的には高齢社会が加速することは避けられません。森永乳業独自の研究開発力で、心身ともに健康な社会生活の実現に貢献することをめざします。
- ・人口減少・高齢化が進む中、商品力だけでなくライフスタイルを変革する技術やサービスの創造・提供をめざします。

●環境

省エネルギー、廃棄物削減に取り組みながら安全・安心な商品を製造し、サステナブルな社会づくりに貢献します。

- ・「気候変動」「森林」などに与える影響を考慮した企業活動を実践します。
- ・限りある資源を有効に活用するためにも、食品ロスの削減に取り組むことを急務とします。

●人権

人権に配慮した事業活動を行い、多様性を尊重し、あらゆる人々が能力を十分に発揮できる環境をつくります。

- ・持続可能な社会形成のために、「人」は特に重要な経営資源だと考えています。すべての人の「かがやく“笑顔”」を実現するために、ダイバーシティ(多様性)の推進をはじめ、さまざまな人権課題を社外関係者とともに協力して取り組んでいきます。



●供給

安全・安心を重視した原材料調達と製造を経て、高品質な商品を安定的にお届けします。

- ・将来的な乳原料の不足に備え、新たな乳原料を使いこなせるよう研究所や工場などと協働しながら、配合設計の研究を重ねています。
- ・安全は、当社の中でも最も重要な取組項目です。現在も行っている安全への取り組みを、引き続き実施していきます。



●次世代育成

サステナブルな社会づくりに貢献する子どもたちの健やかな成長を応援します。

- ・子どもたちの明るい未来のために、森永乳業は心身の成長やキャリア教育、そして子育てを支援する活動を行っています。



●人財育成

「かがやく“笑顔”」を実現する人財の育成に力を入れていきます。

- ・新入社員から経営層まで幅広く人財を育成することは、企業の持続的な成長につながります。一人ひとりの適性を活かし、能力をのばすことのできる制度構築をめざします。



●コーポレート・ガバナンス

持続的な成長と企業価値の向上の実現に向けて、実効性の高いガバナンス体制の整備および充実に継続的に取り組みます。

- ・ステークホルダーとの対話、積極的な情報開示を通して、適切なコミュニケーションをはかっていきます。
- ・経営層からの継続的なメッセージとともに、ルールの整備、従業員の意識の醸成、サプライヤーとの公正な取引など、内部統制の構築に取り組んでいます。



〈目次〉

- サステナビリティに関する情報開示の考え方
- 編集方針
- 会社情報
- コーポレートミッション
- トップコミットメント
- サステナビリティへの取り組みのあゆみ
- 森永乳業のCSR
- 7つの重要取組課題
 - 7つの重要取組課題
 - 重要取組課題の策定
 - 取り組み目標の設定
 - 今後の課題解決に向けて
 - 健康・栄養
 - 環境
 - 人権
 - 供給
 - 次世代育成
 - 人財育成
 - コーポレート・ガバナンス
- データ集
- 第三者保証
- GRIスタンダード対照表

重要取組課題の策定

「かがやく“笑顔”」をめざして求められる7つの課題を策定

森永乳業は、2017年4月、新コーポレートスローガンを含むグループ理念体系を策定し、発表しました。

2018年、次のステップとして行ったのが、重要取組課題の策定です。

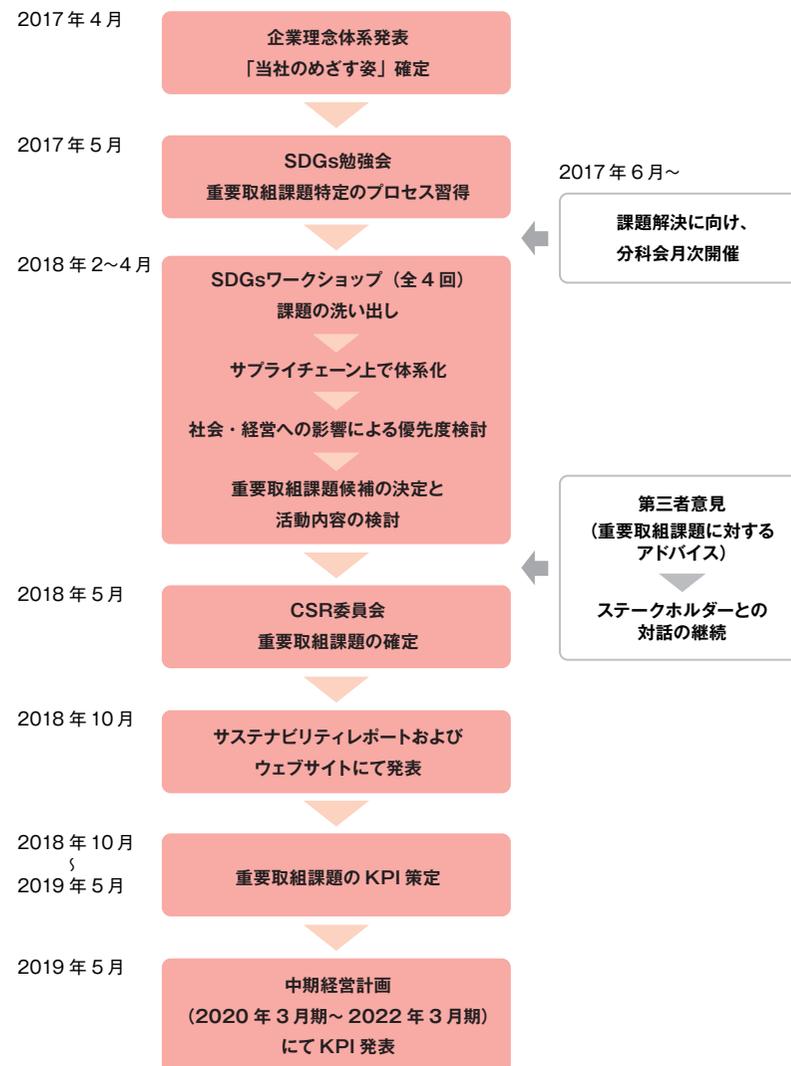
重要取組課題は、私たちの大きな目標である「かがやく“笑顔”あふれる豊かな社会の実現」をめざすために特に優先的に取り組むべき項目です。

策定にあたっては、計4回にわたるワークショップを開催。さまざまな部署から約30名の従業員が参加し、取り組むべき課題を抽出しました。そして協議を重ねて7つの大きな課題を策定し、CSR委員会で承認されました。

持続可能な社会への貢献をめざして

策定にあたっては、行動指針はもちろんのこと、GRIガイドライン、ISO26000、国連が提唱するSDGsコンパスなどを参考にしました。策定した重要取組課題への取り組みを通じ、森永乳業が企業市民として持続可能な社会の実現に貢献できると、私たちは考えています。

重要取組課題策定の流れ



〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

7つの重要取組課題

重要取組課題の策定

取り組み目標の設定

今後の課題解決に向けて

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- 供給
- 次世代育成
- 人財育成
- コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

サプライチェーンでの課題抽出

原材料の調達から製造、販売、廃棄に至るまで、森永乳業の活動は多岐にわたります。7つの重要取組課題を策定した際、サプライチェーン全体で課題解決のために当社が行う具体的な取り組みを決め、その中で特に重要だと思われる項目を特定しました。

各部署・部門が連携し、それぞれの課題に取り組んでいます。

サプライチェーンにおける重要取組課題と具体的な取り組み



WEB → 詳細はCSRサイトへ
▶ <https://www.morinagamilk.co.jp/csr/materiality/>

持続可能な開発目標 (SDGs)

SDGs (Sustainable Development Goals) は、国連が定めた持続的な開発に関する17の目標と169のターゲット。2015年に採択され、2030年までに達成することをめざしています。「誰一人として取り残さない (Leave no one behind)」を基本とし、経済格差、持続可能な消費や生産、気候変動対策など、世界が抱える問題を解決するために、各国政府やNGOだけでなく、民間企業もまた日々の活動を通して、取り組んでいくことが求められています。森永乳業は、このSDGsの達成に寄与することをめざしています。



〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

7つの重要取組課題

重要取組課題の策定

取り組み目標の設定

今後の課題解決に向けて

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- 供給
- 次世代育成
- 人財育成
- コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

取り組み目標の設定

2019年度から新しい3カ年の中期経営計画がはじまりました。中期経営計画では、新たな基本方針の中に「経営理念実現に向けてESGを重視する経営の実践」を盛り込みました。この基本方針のもと、7つの重要取組課題の考えを示すとともに、それぞれの課題に対する取り組み目標(KPI[※])を設定しました。

※ KPI (Key Performance Indicator)
活動の進捗状況や達成度を客観的に評価・管理するための数値指標。

健康・栄養

基本的な考え方

「かがやく“笑顔”」を実現する機能性とおいしさを兼ね備えた商品を開発・販売し、健康・栄養をお届けします。

活動の方向性	KPI
健康寿命延伸に対する貢献	栄養機能性素材を取り入れた商品の市場投入 健康維持に寄与する栄養機能性素材についての情報発信
乳幼児の健やかな成長への貢献	ビフィズス菌(M-16V)の提供。国内外で120以上の施設での提供継続



環境

基本的な考え方

省エネルギー、廃棄物削減に組み込みながら安全・安心な商品を製造し、サステナブルな社会づくりに貢献します。



活動の方向性	KPI
生産部門を中心としていた環境活動を、連結対象会社全部門に拡大	ISO14001 認証事業所： 2030年度までに連結対象の全事業所で取得 2021年度までにグループ全体でスコープ1、スコープ2を把握
生産における環境負荷削減	CO ₂ 排出量原単位削減： 2021年度までに2013年度比8%削減 2030年度までに2013年度比20%削減 2050年度までに2013年度比80%削減 食品廃棄物発生量原単位削減： 2021年度までに2013年度比30%削減 産業廃棄物発生量原単位削減： 2021年度までに2013年度比33%削減 埋立廃棄物量削減： 2021年度までに年間排出量300t未満 2030年度までにゼロ 用水使用量削減： 2021年度までに年間使用量2013年度比9%削減
サプライチェーン全体の環境負荷削減	2021年度までにスコープ3の15中6カテゴリ算定
環境に配慮した容器包装の使用促進	容器包装リサイクル法対象プラスチック容器包装の重量： 2013年度比10%減

〈目次〉

- サステナビリティに関する情報開示の考え方
- 編集方針
- 会社情報
- コーポレートミッション
- トップコミットメント
- サステナビリティへの取り組みのあゆみ
- 森永乳業のCSR
- 7つの重要取組課題
 - 7つの重要取組課題
 - 重要取組課題の策定
- > 取り組み目標の設定
 - 今後の課題解決に向けて
 - 健康・栄養
 - 環境
 - 人権
 - 供給
 - 次世代育成
 - 人財育成
 - コーポレート・ガバナンス
- データ集
- 第三者保証
- GRIスタンダード対照表

人権



基本的な考え方

人権に配慮した事業活動を行い、多様性を尊重し、あらゆる人々が能力を充分に発揮できる環境をつくります。

活動の方向性	KPI
ステークホルダーとの対話による人権課題の特定と対策	ステークホルダーとの対話実施
サプライヤーによる人権侵害事案の把握	CSR調達アンケートによる実態把握
自社経営に影響を及ぼす原材料ならびに納入先の特定	重要サプライヤーのリスト化
当社グループ(協力会社含む)の外国人従業員への対応	当社グループの外国人従業員の労働環境整備
ダイバーシティ&インクルージョンの推進	【2027年目標】 在宅・サテライト勤務、年休取得率、女性採用比率、女性管理職数、産休取得率、男性育休取得率、介護離職者数

供給



基本的な考え方

安全・安心を重視した原材料調達と製造を経て、高品質な商品を安定的にお届けします。

活動の方向性	KPI
原料リスクに応じた効率的なサプライヤーマネジメント	原料リスク等によりサプライヤーの管理レベルを評価する仕組みの強化
安全かつ高品質な商品提供のための体制づくり	FSSC22000を2020年度中に当社グループ全29工場取得
主要原材料の供給リスク対応	主要原材料の複数社購買、地域分散購買 RSPO 認証パーム油の使用拡大

次世代育成



基本的な考え方

サステナブルな社会づくりに貢献する子どもたちの健やかな成長を応援します。

活動の方向性	KPI
健康で豊かな生活の基礎力を獲得するための食文化や栄養を学ぶ場の提供(食育講座、キッズニア)	2019年から3年間の延べ参加者数: 30万人
自然の恵みと、それを活かす技術・研究を学ぶ場の提供(工場見学、森と食の探検隊、キャリア教育)	同上
次世代を育成する環境の整備	エンゼル110番での継続的な育児相談の実施。2020年度で延べ100万人の相談を受け付け

人財育成



基本的な考え方

「かがやく“笑顔”」を実現する人財の育成に力を入れていきます。

活動の方向性	KPI
経営理念の浸透	従業員公募型フォーラムの毎年開催
ダイバーシティ推進による、従業員一人ひとりの自律的な成長促進	女性リーダー研修 仕事と子育ての両立を促す研修 ブレナレッジ研修の継続的な実施と、若手従業員の人財部による面談実施
グローバルなビジネス環境で活躍できる人財の育成	グローバル人財育成プログラムの推進
健康経営の実践を通じた人財の育成	健康診断の2次検診・再検査受診率の向上: 80% (2023年) メンタルヘルス教育の受講率: 100% (2023年)

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

7つの重要取組課題
重要取組課題の策定

> **取り組み目標の設定**

> **今後の課題解決に向けて**

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- 供給
- 次世代育成
- 人財育成
- コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

コーポレート・ガバナンス

基本的な考え方

持続的な成長と企業価値の向上の実現に向けて、実効性の高いガバナンス体制の整備および充実に継続的に取り組みます。

活動の方向性	KPI
取締役会における、多様な価値観に基づいた、透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定	取締役会評価における評価点およびコメントの内容(取締役会の多様性、審議内容)
マネジメント体制の強化	各種定例委員会(人事報酬委員会、内部統制委員会、CSR委員会)の充実

今後の課題解決に向けて

森永乳業は2018年度に「重要取組課題」を策定し、2019年度に各重要取組課題のKPIを設定しました。2019年度はKPI達成のため、重要取組課題ごとに進捗報告会を設け、「KPI推進リーダー」を中心として進捗を管理していきます。

また、KPIは世界的な潮流、ステークホルダーとの対話を通じて、適宜議論の俎上にあげ、検討していきます。

各重要取組課題の中で当社としてのリスク認識ならびに世界的な関心の高さから特に注視している課題は、気候変動、海洋プラスチック、サプライチェーン上の人権の尊重(人権デューデリジェンスの実施)です。いずれもKPIとして設定しており、引き続き確認していきます。

今後も社会との共感の輪を大切に、各ステークホルダーとの対話を通じて、課題を認識、解決していきます。



〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

● 健康・栄養

> 基本的な考え方

> 体制

> KPI

森永乳業の栄養機能性素材

健康寿命延伸への寄与

乳幼児の健やかな成長への貢献

公衆衛生の向上

● 環境

● 人権

● 供給

● 次世代育成

● 人材育成

● コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

健康・栄養

基本的な考え方

「かがやく“笑顔”」を実現する機能性とおいしさを兼ね備えた商品を開発・販売し、健康・栄養をお届けします。

森永乳業は、健康寿命の延伸や乳幼児が健やかに成長するために、健康・栄養に寄与する商品の開発・販売を中核事業と認識しています。経営理念の実現が健康・栄養のゴールであり、行動指針は従業員一人ひとりがとるべきアクションであると考えています。

健康・栄養は、「お客さまの健やかな“笑顔”あふれる幸せな生活に貢献したい」という想いが起点です。赤ちゃんの健康のため、母乳から広がったビフィズス菌やラクトフェリンの研究など、当社が長年研究を続けている栄養機能性素材がもつ有用性や可能性を探索してきました。

育児用ミルクや特殊ミルクをはじめ、ヨーグルト、介護食・流動食などのさまざまな商品は、人々の健康と笑顔に役立っています。

そして、これからは日本のみならず、世界の人々の健康と栄養に寄与することを目指し、挑戦を続けていきます。

体制

KPIの進捗、確認、報告は年に2回のCSR委員会（委員長：社長）にて行います。また、「重要取組課題：健康・栄養」の責任者を関係本部の本部長が担い、KPIの推進責任者を関係部署の部長が担い、PDCAサイクルを回していきます。また、健康・栄養は、中核事業そのものとの認識から、研究所、マーケティング部門、営業部門、生産部門が部門を横断して連携し、推進していきます。

KPI

活動の方向性	KPI
健康寿命延伸に対する貢献	栄養機能性素材を取り入れた商品の市場投入 健康維持に寄与する栄養機能性素材についての情報発信
乳幼児の健やかな成長への貢献	ビフィズス菌(M-16V)の提供。国内外で120以上の施設での提供継続

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

● **健康・栄養**

基本的な考え方

体制

KPI

▶ **森永乳業の栄養機能性素材**

健康寿命延伸への寄与

乳幼児の健やかな成長への貢献

公衆衛生の向上

● 環境

● 人権

● 供給

● 次世代育成

● 人財育成

● コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

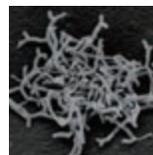
森永乳業の栄養機能性素材

森永乳業は50年以上にわたり、健康維持に関わる素材の研究を行ってきました。

その結果、乳児からお年寄りまで幅広い世代の方々の健康に寄与できることがわかりました。

「ビフィズス菌」

森永乳業のビフィズス菌利用研究は1969年にはじまり、現在までに、赤ちゃんの健康維持から、「ビヒダス」への応用、菌末の世界的供給までも可能にしてきました。



ビフィズス菌入り乳飲料「森永ビヒダス」を1977年に発売、21世紀には、「プロバイオティクス」という概念のもと、乳酸菌やビフィズス菌の具体的な作用や作用メカニズムなどについて多くの研究が行われるようになりました。森永乳業は早くからビフィズス菌に着目し、ビフィズス菌BB536をはじめ、さまざまな研究を行ってきており、日本におけるビフィズス菌のパイオニアを自負しています。

また、一部のビフィズス菌を乾燥させて粉状にした「ビフィズス菌末」は、サプリメントなどに多く使用されています。生きた菌を生きたまま粉末状態にし、室温で長期間安定化させる技術が必要であり、いまでも森永乳業にとって大きな強みとなっています。

現在は、アメリカをはじめ、ヨーロッパ、東南アジアなど、世界のさまざまな地域で森永乳業のビフィズス菌が活躍しています。赤ちゃんからお年寄りまで、世界中の人々の健康に貢献することをめざしています。

◆代表的なビフィズス菌

「ビフィズス菌BB536」は、幅広い年代に活用でき、腸内フローラ改善による、優れた整腸作用など、さまざまな健康作用が期待されています。

「ビフィズス菌B-3」は、抗肥満作用について着目して発見されたビフィズス菌です。

「ビフィズス菌M-16V」は、乳児の腸内フローラの正常化を促進する機能に着目したビフィズス菌で、腸の機能が未発達になりがちな低出生体重児の赤ちゃんに投与することで、ビフィズス菌の定着を早めるとともに、腸の正常な発達を促します。

「ビフィズス菌A1」は、軽度認知障害が疑われる方の認知機能を改善する可能性があるビフィズス菌で、現在も研究を進めています。

WEB

森永乳業のビフィズス菌研究

▶ https://www.morinagamilk.co.jp/learn_enjoy/research/story/bifidus/

「ラクトフェリン」

森永乳業では1960年代前半よりラクトフェリン研究に着手しました。ラクトフェリンは、乳(ラクト)中の鉄(フェリン)結合物質であり、母乳の特に初乳に多く含まれ、生まれただけの乳児を守っていると考えられています。

そして1986年、世界で初めてラクトフェリン配合の育児用ミルク「森永BF-L ドライミルク」を販売しました。現在では育児用ミルクにとどまらずラクトフェリン入りのヨーグルトやサプリメントを販売し、赤ちゃんから高齢者に至るまでその対象を広げています。



WEB

森永乳業のラクトフェリン研究

▶ https://www.morinagamilk.co.jp/learn_enjoy/research/story/lactoferrin/

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

● 健康・栄養

基本的な考え方

体制

KPI

▶ 森永乳業の栄養機能性素材

健康寿命延伸への寄与

乳幼児の健やかな成長への貢献

公衆衛生の向上

● 環境

● 人権

● 供給

● 次世代育成

● 人財育成

● コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

Topics

高品質なラクトフェリンを製造する MILEI 社

ドイツのロイトキルヒ市に位置する「MILEI GmbH(ミライ社)」は、1975年に生産を開始して以来、約40年の歴史があり、現在は欧州、アジアにおいて高品質なホエイ蛋白濃縮物、乳糖などの乳原料製品を世界的な食品メーカーなどに供給しております。特にラクトフェリンは、高品質で純度が高いものを製造するノウハウを持っており、多数のユーザーから、高い評価を得ています。今後、増産体制を整え、供給力を拡大し、「世界最大規模のサプライヤーのひとつ」としての役割を果たしていきます。



「ペプチド」

牛乳には良質なたんぱく質が含まれており、育児用ミルクなどに使用されていますが、牛乳アレルギーのあるおさまは利用できませんでした。そこで、酵素によって消化させた「ペプチド」(乳たんぱく質分解物)を開発しました。

1977年にペプチドを配合した日本で初めてのアレルギー疾患用ミルク「MA-1」を発売しました。さらに、半世紀以上にわたる育児用ミルク開発の技術・知識・経験を重ね、融合し、1994年にはミルクのアレルゲン性に配慮した「森永ペプチドミルクE赤ちゃん」も発売しました。

また近年では「MKP®(メチオニン-リシン-プロリン)」という、カゼイン由来



のトリペプチドで特許を取得しました。血圧が高めの方を対象とした臨床試験で、その血圧降下作用が確認されています。

WEB

森永乳業のペプチド研究

▶ https://www.morinagamilk.co.jp/learn_enjoy/research/story/peptide/

「ラクチュロース」

ラクチュロースは、牛乳に含まれる乳糖を原料としてつくられる糖類です。ラクチュロースはビフィズス菌を増やす役割があると研究を続け、1960年、森永乳業はラクチュロースを配合した育児用ミルク「森永Gドライミルク」を発売しました。



WEB

森永乳業のラクチュロース研究

▶ https://www.morinagamilk.co.jp/learn_enjoy/research/story/lactulose/

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

● **健康・栄養**

基本的な考え方

体制

KPI

森永乳業の栄養機能性素材

> **健康寿命延伸への寄与**

乳幼児の健やかな成長への貢献

公衆衛生の向上

● **環境**

● **人権**

● **供給**

● **次世代育成**

● **人財育成**

● **コーポレート・ガバナンス**

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

健康寿命延伸への寄与

森永乳業では、「人生100年時代」に向けて、健康寿命の延伸をテーマに商品の研究・開発を進めています。ただ長生きするだけではなく、健康でハツラツとした人生を送るために、栄養機能性素材を活かした商品を研究・開発し、お客さまに提供していきます。

「トリプルヨーグルト」

血圧・血糖値・中性脂肪に関する3つの機能性を表示したヨーグルトです。トリペプチドMKP[®]が高めの血圧（収縮期血圧）を下げ、難消化性デキストリン（食物繊維）が食後の血糖値・中性脂肪の上昇を穏やかにします。



「ミルク生活」

ビフィズス菌BB536、ラクトフェリン、シールド乳酸菌などの栄養機能性素材を配合した、大人向けの粉ミルクです。栄養素がバランスよく含まれ、手軽に摂ることができることと好評です。



「森永乳業のサプリメント」

機能性表示食品であるビフィズス菌BB536、ビフィズス菌B-3、ラクトフェリンなど、栄養機能性素材を手軽に摂取できます。



「医療食・介護食」

森永乳業グループでは、高齢や病気の方も食の喜びを感じることで、「Quality of Life（生活の質）」を維持できるよう、おいしさ、栄養価、安全性、食べやすさなどに細やかに配慮した医療食・介護食の研究開発に取り組んでいます。

医療・介護現場の声を基に、森永乳業グループの株式会社クリニコと、森永乳業の健康栄養科学研究所が連携して、流動食、栄養補助食品、ゼリー食品、嚥下困難者向けのとろみ調整食品などの医療食・介護食を開発・販売しています。



〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

● **健康・栄養**

基本的な考え方

体制

KPI

森永乳業の栄養機能性素材

> **健康寿命延伸への寄与**

> **乳幼児の健やかな成長への貢献**

公衆衛生の向上

● 環境

● 人権

● 供給

● 次世代育成

● 人財育成

● コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

栄養機能性素材に関する情報発信

森永乳業グループは、栄養機能性に関する研究成果をはじめとするさまざまな情報を、お客さまはもちろん、お取引先をはじめとしたさまざまなステークホルダーに向けて発信しています。

【シンポジウムや展示会】 (国内)

2018年度は16を超える学会において、発表を行いました。その内、第72回日本栄養・食糧学会での「アロエベラ由来植物ステロールの新規保健機能研究と機能性食品への応用」発表では、平成30年度日本栄養・食糧学会技術賞を受賞しました。

また、2019年2月には順天堂大学「腸内フローラ研究講座」公開シンポジウムを開催しました。シンポジウムでは、脳と腸の関係について、大腸疾患と腸内細菌叢の関係などの講演が開催され、110名を超える方が聴講されました。



公開シンポジウムの様子

(海外)

海外でのシンポジウムや展示会には年に20回程度と、積極的に参加しており、海外のパートナー会社とも協力して栄養機能性素材をアピールしています。

2019年2月11日～15日にデンマークで開催された「Probiota学会」に出席しました。本学会はプロバイオティクスのパイオニア企業が集まり、最新の研究成果を紹介し合う場で、森永乳業はヒト常在のビフィズス菌を用いた研究を発表しました。

毎年ヨーロッパとアジアで開催されている、食品・機能性原料・革新的技術に関して発信する展示会「Vitafoods」では、森永乳業のビフィズス菌について講演しています。

2018年11月に、インドネシアでのパートナーであるSANGHIANG PERKASA (SHP) 社と共同で、小児科医向けのラクトフェリンに関するシンポジウムを開催しました。

シンポジウムでは、主催者であるインドネシア小児科学会のアマン会長から、「同国で深刻な課題である感染症に対してラクトフェリンが果たす役割は大きい」と期待が示されました。



乳幼児の健やかな成長への貢献

森永乳業は、乳幼児の健やかな成長・発達に貢献したいという思いから、1920年代より育児ミルクの研究・開発を行うとともに、より母乳に近づけるべく、たんぱく質や脂質、炭水化物、ビタミン、ミネラルといった栄養成分やラクトフェリンなどを配合した育児用ミルクの研究に取り組んできました。近年、日本国内はもちろんのこと、海外の子どもたちの栄養に寄与するため、アジアを中心に育児用ミルク事業を展開しています。

これからも、母乳に備わる「育む力」と「守る力」に関する長年の研究・開発を続けていきます。

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

- **健康・栄養**
 - 基本的な考え方
 - 体制
 - KPI
 - 森永乳業の栄養機能性素材
 - 健康寿命延伸への寄与
- > 乳幼児の健やかな成長への貢献
 - 公衆衛生の向上
 - 環境
 - 人権
 - 供給
 - 次世代育成
 - 人財育成
 - コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

アジアで栄養インフラ構築に貢献

東南アジアを中心とした新興国では、急速な人口増加・都市化が進んでいます。都市部に人口が集中するほど、安全で高品質な食料・食品を供給する「栄養インフラ」の構築が重要な課題となります。その課題解決の一端を担うことは、私たち食品企業の社会的使命ともいえます。

森永乳業では、育児用ミルクの供給を重要な「栄養インフラ」の一環と捉えています。日本をはじめ、インドネシアなどの海外製造拠点で育児用ミルクを製造し、インドネシア、パキスタン、マレーシア、ベトナムなどを中心に展開しています。世界の子どもたちが健やかに成長できる環境づくりへの貢献をめざしています。

育児用ミルクの海外への展開



低出生体重児へのビフィズス菌 M-16V の提供

通常、健康で生まれた赤ちゃんの腸内フローラは、90%以上がビフィズス菌です。しかし、出生時の体重が1,500g未満の極低出生体重児または超低出生体重児は、腸管が未発達でビフィズス菌の定着が遅れ、大腸菌や黄色ブドウ球菌などの悪い菌がふえてしまいます。森永乳業では、大学病院と共同研究を進め、独自に開発したビフィズス菌 M-16V を、極低出生体重児または超低出生体重児に投与することで、ビフィズス菌優位な腸内細菌叢をより早く形成し、新生児に発症すると危険な壊死性腸炎（NEC）や敗血症を予防できることがわかってきました。



現在ではNICU（新生児集中治療室）や小児科など、全国120以上の施設に提供されており、多くの赤ちゃんの健全な成長を支えています。また、ビフィズス菌 M-16V による低出生体重児への効果は、学会や論文を通じて海外にも伝わり、2012年よりオーストラリアのNICUでも使用されています。さらに近年では、ニュージーランド、シンガポールのNICUでも使用が始まりました。森永乳業では、引き続き世界中の赤ちゃんやお子さまの健全な成長を支えていきたいと考えています。

ビフィズス菌 M-16V の提供実績



	2014	2015	2016	2017	2018
国内(包)	116,000	152,000	171,000	197,000	210,000
海外(包)	26,000	31,000	43,000	62,000	75,000

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

● 健康・栄養

基本的な考え方

体制

KPI

森永乳業の栄養機能性素材

健康寿命延伸への寄与

> 乳幼児の健やかな成長への貢献

公衆衛生の向上

● 環境

● 人権

● 供給

● 次世代育成

● 人財育成

● コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

特殊ミルク

森永乳業では、育児用ミルクを製造・販売する会社として、日本国内向けにミルクアレルギーなどをお持ちのお子さまが安心して飲んでいただける、育児用ミルクや、先天性代謝異常症などの疾患に個別に対応した特殊ミルクを販売しています。

市販の特殊ミルク

ミルクアレルギーや乳糖不耐症、胃食道逆流症、低出生体重児のお子さま向けの特殊ミルクを提供しています。



市販の特殊ミルク

商品名	特徴
森永ニュー MA-1	たんぱく質を高度に酵素消化したミルクアレルギー用のミルク
森永 MA-mi	アレルギー性を低減しながら、「栄養バランス」「風味」「溶け」を改善したミルクアレルギー用のミルク
森永ノンラクト	乳糖不耐症、下痢をしているお子さま用の無乳糖ミルク
森永 AR ミルク	天然由来のトロミ成分（ローカストビーンガム）を配合し、ミルクの粘度を高くして、胃食道逆流症のお子さまにも飲みやすいミルク
森永 GP-P	低出生体重児用のミルク

先天性代謝異常症等のお子さま用のミルク

先天性代謝異常症等のお子さまの栄養補給に欠かすことのできない特殊ミルクを、安全開発委員会*の指導のもと、医療機関に提供しています。

先天性代謝異常症等は、重篤な疾患ですが、新生児の早期に発見し、食事療法などをはじめれば、多くのお子さまが健康に成長



できます。そこで、先天性代謝異常症等のお子さまのそれぞれの疾患に合わせてミルクからたんぱく質を取り除いたり、リン濃度を低くするなどの特別な処理を行う必要があります。このような特別なミルクには、高度な製造技術が求められるため、森永乳業が長年培ってきた、乳幼児栄養に関する知識と経験が大いに活かされています。2018年度は年間約5,500缶を提供しました。

*安全開発委員会

先天性代謝異常症のお子さまの治療に使用される特殊ミルクを改良開発し、安定的に提供するため、昭和55年に厚生省（当時）の指導と公費の助成のもとに「特殊ミルク共同安全開発事業」が立ち上がりました。この事業では、特殊ミルクに必要とされる一定の基準を制定し、その品質、成分、使用法などを定めるとともに、特殊ミルクの改良および開発や安定供給を行っています。同時に、この事業を円滑に運営する機構として、学識研究者と乳業会社の所長等からなる「安全開発委員会」が発足しました。

先天性代謝異常症等のお子さま用の特殊ミルクの種類

分類	主な適応症	記号	品名
蛋白質・アミノ酸代謝異常	フェニルケトン尿症	MP-11	低フェニルアラニンペプチド粉末
電解質代謝異常	副腎皮質機能不全	MM-2	低カリウム乳
	心、腎疾患	MP-2	低蛋白質低塩乳
	特発性高カルシウム血症	MM-4	低カルシウム乳
吸収障害	・副甲状腺機能低下症 ・偽性副甲状腺機能低下症 ・腎疾患	MM-5	低リン乳
	脂質吸収障害症	ML-1	低脂肪乳
その他	・嚢胞性線維症 ・シトリン欠損症	ML-3	蛋白質加水分解MCT乳

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

● **健康・栄養**

基本的な考え方

体制

KPI

森永乳業の栄養機能性素材

健康寿命延伸への寄与

> 乳幼児の健やかな成長への貢献

> 公衆衛生の向上

● 環境

● 人権

● 供給

● 次世代育成

● 人財育成

● コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

母乳添加用粉末

母乳添加用粉末は、極低出生体重児のために、母乳の栄養分を強化することを目的としており、森永乳業では「HMS-1」「HMS-2」を扱っています。

体重1,500g未満の小さな赤ちゃんは、消化吸収機能などの体の機能も未発達で合併症なども起こしやすい状態です。そのため、十分な栄養摂取により体の機能を早く発達させなければなりません。しかし、このような赤ちゃんは母乳だけではカロリーやさまざまな栄養素が相対的に不足してしまいます。そこで、HMS-1および2は、お母さんの母乳だけでは不足してしまうたんぱく質、カルシウムやリンなどの微量元素を強化する他、熱量も高めることで、赤ちゃんのより早い成長を促すことができます。2018年度は約1万5千箱（HMS-1）、約1万2千箱（HMS-2）の合計2万7千箱を販売しました。

※ HMS-1は100包/箱、HMS-2は60包/箱



公衆衛生の向上

ピュアスターでの健康への寄与

微酸性電解水生成装置「ピュアスター」は、高い殺菌効力と安全性をめざして森永乳業が開発した衛生管理装置です。約20年前に販売を開始し、2019年3月末までに約6,000件以上の販売実績があります。

「ピュアスター」が生成する微酸性電解水は、一般に殺菌に使われている消毒用アルコールや次亜塩素酸ナトリウムとは異なり、肌への影響が少なく、しかも誤って口に入っても安全であることが確認されています。さまざまなウイルスや食中毒菌・病原菌への殺菌効果が実証されており、食品加工をはじめ、衛生管理を必要とするいろいろな現場で有効です。

すでにお使いいただいているお客さまからも「殺菌料なのに水道水のように気軽に使え、現場での衛生管理に欠かせなくなっている」とご好評をいただいています。

森永乳業がめざすのは、長年培ってきた衛生管理の技術を社会へ還元し、人々の健康的な生活を守ること。現在もさまざまな使い方の開発を繰り返し、新たな貢献を生み出す努力を続けています。



微酸性電解水生成装置
「ピュアスターミュークリーンII」



機器の洗浄をはじめとして、さまざまな用途で使用できます

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

● 健康・栄養

● 環境

▶ 基本的な考え方

体制

KPI

環境リスクの認識

環境法規制の遵守

環境マネジメントを推進する仕組み

グループ全体への環境活動の拡大

気候変動

資源循環

水資源

サプライチェーンでの環境配慮

環境配慮型容器包装の促進

● 人権

● 供給

● 次世代育成

● 人財育成

● コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

環境

基本的な考え方

省エネルギー、廃棄物削減に取り組みながら安全・安心な商品を製造し、サステナブルな社会づくりに貢献します。

森永乳業の商品は、乳をはじめ、コーヒー豆、茶葉、アロエなど、原材料の多くが自然の恵みである農産物からできています。これらの農産物を育ててきた自然に感謝するとともに、これからも環境を守りつづけていくことは、私たちが事業を継続していくために不可欠と考えています。

そのためには、気候変動への対応、食品ロスや産業廃棄物の削減への取り組み、プラスチック容器への対応が欠かせません。また、お取引先とも密にコミュニケーションをとりながら、自社だけではなく、サプライチェーン全体での取り組みとして、サステナブルな社会づくりに貢献してまいります。

現在、森永乳業の本社、研究所、直系工場および生産関係会社では、以下の環境方針に従い、ISO14001環境マネジメントシステムに基づいて活動しています。

森永乳業グループ 環境方針

＜基本理念＞

森永乳業グループは「乳で培った技術を活かし、私たちならではの商品をお届けすることで、健康で幸せな生活に貢献し豊かな社会をつくる」ことを目指す企業として、環境保護や汚染の予防など持続可能な社会づくりに貢献します。

＜基本方針＞

1. 活動、製品及びサービスなど、ライフサイクル全体を通じた環境保護と汚染の予防について目標を設定し、活動を行います。また、目標の定期的な見直しなどにより環境マネジメントシステムの継続的改善を行います。
2. 環境法令や環境に関するコミットメントの遵守を適切に管理します。
3. 事業活動が環境に与える影響だけでなく環境が当社の事業活動に与える影響を評価し対応します。

4. 環境管理重点課題として、次の事項に取り組みます。

- (1) 地球温暖化防止のため、温室効果ガスの排出抑制を推進します。
- (2) 限りある資源の有効活用のため、資源効率・エネルギー効率に配慮した事業活動を推進します。
- (3) 循環型社会形成に向けて、廃棄物の3R（発生抑制、再使用、再生利用）及び適正処理を推進します。
- (4) 製品開発を含めた環境に関連する新技術開発を推進します。
- (5) 環境に関する正しい情報を発信し、社会的信頼の向上に努めます。
- (6) 社会と地域との共生に努めます。

5. この方針は、全ての従業員に周知し、社外にも公表します。

改訂：2019年4月1日

森永乳業株式会社

社長 宮原 道夫



(目次)

サステナビリティに関する情報開示の考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

●健康・栄養

●環境

基本的な考え方

> 体制

> KPI

環境リスクの認識

環境法規制の遵守

環境マネジメントを推進する仕組み

グループ全体への環境活動の拡大

気候変動

資源循環

水資源

サプライチェーンでの環境配慮

環境配慮型容器包装の促進

●人権

●供給

●次世代育成

●人財育成

●コーポレート・ガバナンス

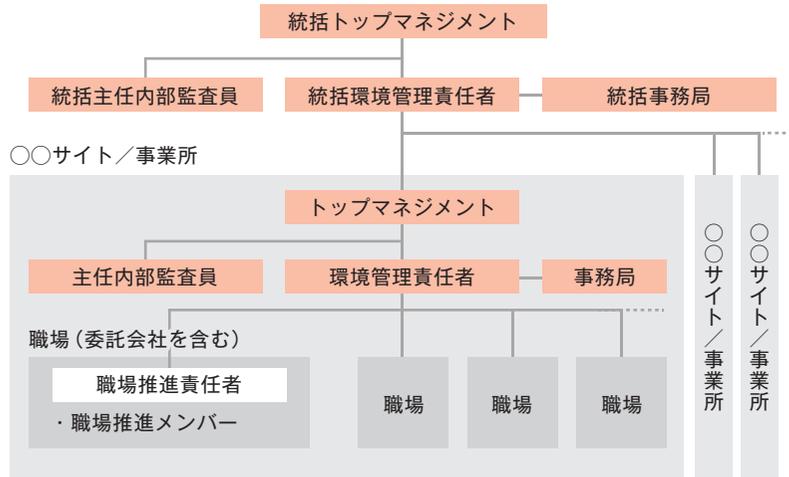
データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

体制

ISO14001 環境マネジメント体制



KPIの進捗、確認、報告は年2回のCSR委員会(委員長:社長)にて行います。また、「重要取組課題:環境」の責任者を関係本部の本部長が担い、KPI推進責任者を関係部署の部長が担い、PDCAサイクルを回していきます。また、環境はISO14001環境マネジメントシステムに則り、統括トップマネジメントを筆頭に各サイト/事業所に至るまでマネジメント体制を確立しています。

KPI

2019年に発表した中期経営計画にて「ESGを重視した経営」を発信し、7つの重要課題のひとつである環境についてもKPIを設定しました。森永乳業では、中期経営計画が発信される以前より、環境への貢献を目的に、「環境対策中期計画」を独自に策定し、環境への配慮を進めてきました。今後は、環境対策中期計画を中期経営計画のKPIに代え、進捗を管理・公開していきます。

活動の方向性	KPI
生産部門を中心としていた環境活動を、連結対象会社全部門に拡大	ISO14001 認証事業所: 2030年度までに連結対象の全事業所で取得 2021年度までにグループ全体でスコープ1、スコープ2を把握
生産における環境負荷削減	CO ₂ 排出量原単位削減: 2021年度までに2013年度比8%削減 2030年度までに2013年度比20%削減 2050年度までに2013年度比80%削減 食品廃棄物発生量原単位削減: 2021年度までに2013年度比30%削減 産業廃棄物発生量原単位削減: 2021年度までに2013年度比33%削減 埋立廃棄物量削減: 2021年度までに年間排出量300t未満 2030年度までにゼロ 用水使用量削減: 2021年度までに年間使用量2013年度比9%削減
サプライチェーン全体の環境負荷削減	2021年度までにスコープ3の15中6カテゴリ算定
環境に配慮した容器包装の使用促進	容器包装リサイクル法対象プラスチック容器包装の重量: 2013年度比10%削減

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

●健康・栄養

●環境

基本的な考え方

体制

KPI

> 環境リスクの認識

> 環境法規制の遵守

> 環境マネジメントを推進する仕組み

グループ全体への環境活動の拡大

気候変動

資源循環

水資源

サプライチェーンでの環境配慮

環境配慮型容器包装の促進

●人権

●供給

●次世代育成

●人財育成

●コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

環境リスクの認識

森永乳業グループの事業は食品を基盤としていることもあり、地球温暖化の進行による農産物原料の入手のしやすさや、お客さまの嗜好の変化、台風等の気象災害等による生産・物流等への影響、規制の強化などさまざまな面で事業活動に影響があると考えています。

2019年度、環境方針に「事業活動が環境に与える影響だけでなく環境が当社の事業活動に与える影響を評価し対応します。」という一文を加え、環境が当社事業継続に与える影響の評価とその対策を進めていくこととしました。

その第一歩として、サプライチェーン全体でのリスクと機会を洗い出し、その重要度の一次評価を行いました。今後、これらのリスクと機会についてシナリオ分析を行い、財務的影響の評価を進めていきます。

環境法規制の遵守

排水処理やボイラーなど環境汚染の原因となる可能性のある設備については、設備ごとに法令で定められた遵守すべき事項をまとめ、チェックリストにより法令遵守の確認をしています。また、これらの法令については改正情報を年1回確認するとともに、業界団体等を通じた情報をスムーズに獲得できる体制を整えています。

2018年度は環境関連法規制などに関する重大な違反はありませんでした。

環境マネジメントを推進する仕組み

環境影響評価と環境目標

森永乳業グループでは、事業活動に関連して発生する環境負荷の大きさと、地球温暖化等の環境変動による事業活動に与えるリスクと機会を評価し、環境目標となるKPIを設定しています。

これらの取り組みについては、各事業所単位で自事業所の目標に落とし込み、「実行計画表」を用いて月毎に進捗を管理しています。

環境教育

森永乳業グループでは、ISO14001の教育として認識教育と力量教育を実施しています。認識教育はISO14001認証事業所に所属する全従業員を対象にe-ラーニングを実施しており、力量教育は各事業所の環境担当者が集まる研修の他、事業所単位での講習会を実施し環境についての知識と意識の向上をはかっています。また、専門的な知識が必要な担当者の資格取得の推奨や、外部の講習の受講推進も行っています。

環境監査

森永乳業では、環境目標への取り組み、環境法令の遵守確認、環境教育の実施が適正に行われているかどうかを内部監査で確認しています。監査は、事業所内の監査員が行う内部監査と、他事業所の監査員によって行う統括内部監査を行っています。

内部監査員は独自の「内部監査員制度」を採用し、その力量によって1級から4級までの内部監査員等級を認定しており、3級以上が内部監査、1級認定者が統括内部監査の監査資格をもちます。2018年度は3級認定のためのセミナーを18回実施し115名が修了しました。また、1～4級の認定者総数は2,546名でした。

他事業所の監査員によって行う統括内部監査を、2018年度に19事業所で実施しました。

外部審査

環境マネジメントシステムは外部の審査機関による、年に1回の審査により、ISO14001適合のマルチサイト認証を受けています。

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

●健康・栄養

●環境

基本的な考え方

体制

KPI

環境リスクの認識

環境法規制の遵守

環境マネジメントを推進する仕組み

▶ グループ全体への環境活動の拡大

気候変動

資源循環

水資源

サプライチェーンでの環境配慮

環境配慮型容器包装の促進

●人権

●供給

●次世代育成

●人財育成

●コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

グループ全体への環境活動の拡大

環境マネジメントシステム

森永乳業グループでは、本社研究所をはじめ工場、グループ会社でISO14001:2015マルチサイトの認証を取得しています。今後は、製造事業所のみならず、営業事業所を含めた、全事業所でのISO14001の取得を目指してまいります。

ISO14001:2015認証取得サイト

認証登録範囲：牛乳、乳製品、アイスクリーム、飲料、その他の食品の製造および研究開発

●本社／研究情報センターサイト

本社（プラザビル）〒108-8384 東京都港区芝5-33-1

本社（目黒ビル）〒153-8657 東京都目黒区目黒4-4-22

本社（芝浦DFビル）〒108-0023 東京都港区芝浦3-13-8

研究情報センター 〒252-8583 神奈川県座間市東原5-1-83

●佐呂間工場 〒093-0504 北海道常呂郡佐呂間町字西富123

●別海工場 〒088-2572 北海道野付郡別海町西春別清川町18

●盛岡工場 〒020-0133 岩手県盛岡市青山2-3-14

●福島工場 〒960-8154 福島県福島市伏拝字清水内5

●利根工場 〒303-0043 茨城県常総市内守谷町4013-1

●東京工場 〒124-8577 東京都葛飾区奥戸1-29-1

●多摩サイト

東京多摩工場 〒207-0021 東京都東大和市立野4-515

大和工場 〒207-0021 東京都東大和市立野4-601

東日本市乳センター 〒207-0021 東京都東大和市立野4-540

装置開発センター 〒207-0021 東京都東大和市立野4-515

●松本工場 〒390-0837 長野県松本市鎌田2-1-4

●富士工場 〒418-0046 静岡県富士宮市中里東町639

●中京工場 〒483-8256 愛知県江南市中奈良町一ツ目1

●近畿工場 〒663-8242 兵庫県西宮市津門飯田町2-95

●神戸サイト

神戸工場 〒657-0854 兵庫県神戸市灘区摩耶埠頭3番

西日本市乳センター 〒657-0854 兵庫県神戸市灘区摩耶埠頭3番

●横浜森永乳業 〒252-1125 神奈川県綾瀬市吉岡東3-6-1

●北海道保証牛乳 〒047-0264 北海道小樽市桂岡町3番8号

●十勝浦幌森永乳業 〒089-5607 北海道十勝郡浦幌町字材木町1

●東北森永乳業秋田工場 〒018-3596 秋田県大館市岩瀬字上軽石野38-1

●東北森永乳業仙台工場 〒983-0001 宮城県仙台市宮城野区港1-1-9

●日本製乳 〒999-2176 山形県東置賜郡高島町大字糠野目字高野壺694-1

●シェフォーレ 〒276-0022 千葉県八千代市上高野1355-31

●エムケーチーズ 〒252-1116 神奈川県綾瀬市落台北1-1-1

●富士森永乳業 〒411-0933 静岡県駿東郡長泉町納米里18

●東洋醗酵乳 〒458-0919 愛知県名古屋市緑区桶狭間神明1518番地

●森永北陸乳業富山工場 〒930-0916 富山県富山市向新庄町8-3-45

●森永北陸乳業福井工場 〒910-0805 福井県福井市高木2丁目601

●広島森永乳業 〒731-0211 広島県広島市安佐北区三入1-19-7

●熊本森永乳業 〒861-8011 熊本県熊本市東区鹿帰瀬町431-1

●フリジポート熊本工場 〒861-1312 熊本県菊池市森北仁田畑1812番地の24

●沖縄森永乳業 〒903-0105 沖縄県中頭郡西原町字東崎4番地15

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

●健康・栄養

●環境

基本的な考え方

体制

KPI

環境リスクの認識

環境法規制の遵守

環境マネジメントを推進する仕組み

グループ全体への環境活動の拡大

▶ 気候変動

資源循環

水資源

サプライチェーンでの環境配慮

環境配慮型容器包装の促進

●人権

●供給

●次世代育成

●人財育成

●コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

気候変動

CO₂ 排出量削減

森永乳業グループでは、地球温暖化対策としてCO₂削減の取り組みを進めています。2018年度の生産におけるCO₂排出量は341千トン。高効率冷凍機への更新、空調設備・排水処理ポンプ等のインバータ化など、各工場でさまざまな取り組みを行いました。北海道の工場では、重油から天然ガスへ転換するための取り組みを進めています。

また、流通においても物流協力会社とさまざまな取り組みを行っています。2015年から2018年までにトラック輸送から鉄道・船舶へ輸送手段を切り替える「モーダルシフト」を8件、配送コースの見直し・削減により、チルド日配の配送コースにて35.5コースの削減を実施、他社との共同配送を9件実施しました。物流協力会社のグリーン経営認証取得は4割を超え、低公害車の導入は7割を超えています。

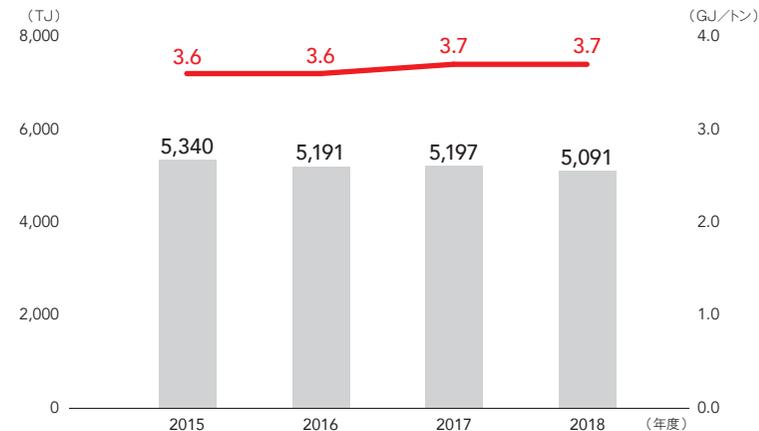
バイオマスの活用

森永乳業神戸工場では、コーヒー飲料製造時に排出されるコーヒーかすなどを、エネルギー化し工場内で使用しています。バイオマスエネルギー*は、カーボンニュートラルなエネルギーなので、CO₂排出量削減にも貢献しています。

*バイオマスエネルギー
植物などの有機物を原料としたエネルギーの総称。化石燃料に代わる新たなエネルギー源として期待されています。

エネルギー使用量と原単位

■ エネルギー使用量 ■ エネルギー原単位

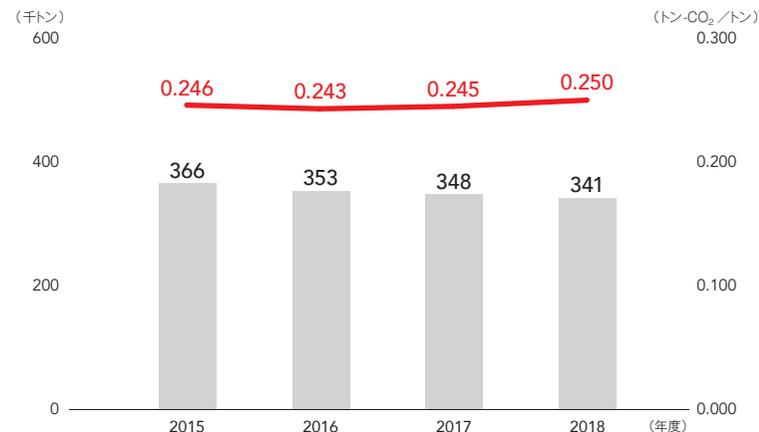


※ ISO14001を取得している直系・グループ会社の工場の数値です

※ 原単位とは、1年間の使用量または排出量を生産量で除したものです
原単位= 1年間の使用量・排出量 (GJ) / 1年間の生産量 (トン)

CO₂ 排出量と原単位

■ CO₂ 排出量 ■ CO₂ 排出量原単位



※ ISO14001を取得している直系・グループ会社の工場の数値です

※ 原単位とは、1年間の使用量または排出量を生産量で除したものです
原単位= 1年間の使用量・排出量 / 1年間の生産量 (トン)

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

●健康・栄養

●環境

基本的な考え方

体制

KPI

環境リスクの認識

環境法規制の遵守

環境マネジメントを推進する仕組み

グループ全体への環境活動の拡大

気候変動

> 資源循環

水資源

サプライチェーンでの環境配慮

環境配慮型容器包装の促進

●人権

●供給

●次世代育成

●人財育成

●コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

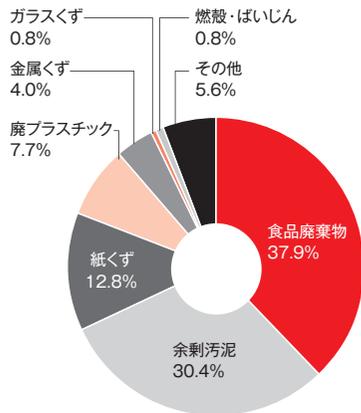
資源循環

廃棄物削減の取り組み

工場の産業廃棄物には、コーヒー・紅茶の抽出かすなどの食品廃棄物のほかに、紙くずや廃プラスチック、金属くず、排水処理場から発生する余剰汚泥などがあります。2018年度は食品廃棄物が最も多く38%、次いで余剰汚泥が30%とこの2種類だけで全体の68%を占めました。

2018年度は排水処理管理方法の変更や一部の工場で排水処理場の酸素供給方法を変更することで曝気効率を高め、年間500トンの余剰汚泥を削減しました。

2018年度 種類別廃棄物排出量の割合



※ ISO14001を取得している直系・グループ会社の工場の数値です

種類別廃棄物排出量*

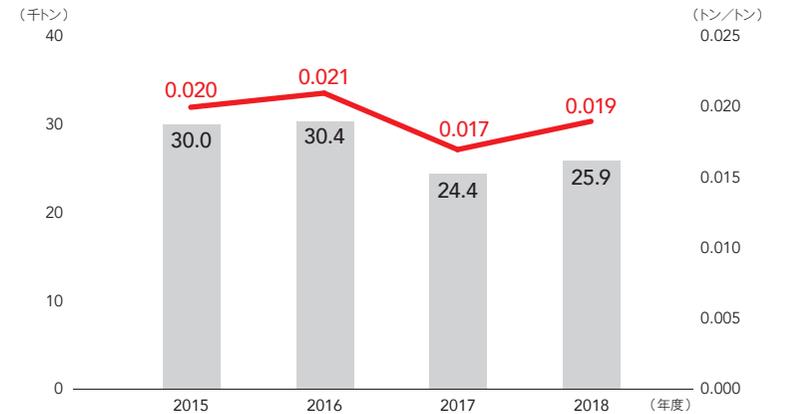
種類	排出量 (トン)
合計	37,500
食品廃棄物	14,200
余剰汚泥	11,400
紙くず	4,800
廃プラスチック	2,900
金属くず	1,500
ガラスくず	300
燃殻・ばいじん	300
その他	2,100

※ 外部委託処理したものを集計

産業廃棄物排出量*と原単位

■ 産業廃棄物排出量 ■ 産業廃棄物排出量原単位

* マニフェストを発行する廃棄物の量



※ ISO14001を取得している直系・グループ会社の工場の数値です

※ 産業廃棄物排出量原単位:

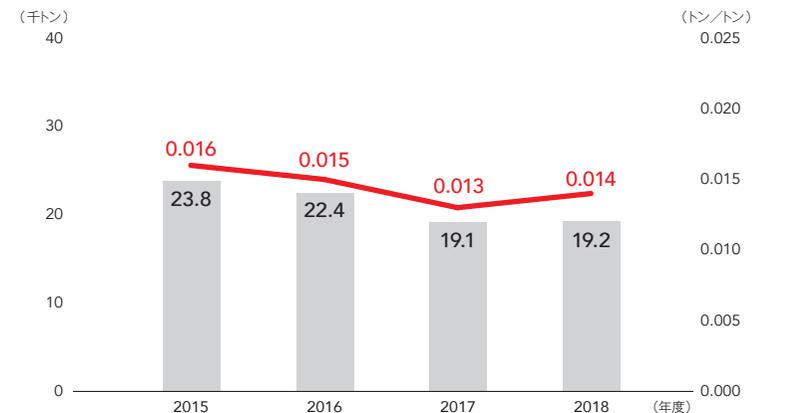
年間で排出した産業廃棄物の重量(トン)を年間生産量(トン)で除した数値

※ 2018年度の集計方法と整合させるため、過去の実績値(2015~2017)を再集計し、修正しました

食品廃棄物発生量*と原単位

■ 食品廃棄物発生量 ■ 食品廃棄物発生量原単位

* 産業廃棄物、有価物、場内処理した動植物性残渣の量



※ ISO14001を取得している直系・グループ会社の工場の数値です

※ 食品廃棄物発生量原単位:

年間で排出した食品廃棄物の重量(トン)を年間生産量(トン)で除した数値

※ 2018年度の集計方法と整合させるため、過去の実績値(2015~2017)を再集計し、修正しました

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

●健康・栄養

●環境

基本的な考え方

体制

KPI

環境リスクの認識

環境法規制の遵守

環境マネジメントを推進する仕組み

グループ全体への環境活動の拡大

気候変動

▶ 資源循環

水資源

サプライチェーンでの環境配慮

環境配慮型容器包装の促進

●人権

●供給

●次世代育成

●人財育成

●コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

食品ロス削減

ロングライフ商品

森永乳業グループの商品の中には、栄養価が高いため、一般に腐敗しやすいとされるものでも賞味いただける期間が1ヵ月以上あるものがあります。これらのは多くは、無菌の状態で作成した、当社独自のロングライフ製法により実現された商品です。ロングライフ製法とは食品の殺菌と容器の殺菌を別々に行い、保存料や防腐剤を使用せず、「おいしさ」と「長持ち」を両立させることができる技術です。

ロングライフ商品は賞味できる期間が長いので、計画的な使用を考慮ことができ、廃棄率が下がることが期待されます。また、リサイクル保存*という考え方にに基づき、災害時の備蓄にも適しています。

*非常時に備えて食品を買い置きたときに、長期保存できる食料を定期的にチェックし、賞味期限が切れる前に普段の食事等で消費し、その後新しい保存食を補うことで備蓄のサイクルを回す考え方。

ロングライフ製法を用いた商品の例



森永牛乳



森永牛乳プリン



絹ごしとうふ



クリミールCZ-Hi

食品リサイクル

工場が発生する食品廃棄物の発生抑制、リサイクルを推進しています。2013年度から2018年度までの6年間で、約6,000トンの食品廃棄物を削減しました。その中で、東京都内にある当社の工場では、豆腐製造時に出るおからの100%を、飼料として再利用しています。

おからに乳酸菌を混ぜて発酵させることで風味良好なサイレージ飼料をつくることができ、それをグループ会社の森永酪農販売が酪農家に販売していま

す。東京都内にある当社の工場では、この飼料を給餌している乳牛からの生乳を使用して、乳製品をつくっています。

この取り組みは2017年度、「第5回食品産業もったいない大賞」にて審査委員会委員長賞を受賞しました。

おからの飼料化サイクルのイメージ



↑
豆乳

大豆からおからを分離
豆腐の製造工程で、
大豆を豆乳とおからに分離します。

→
おから



専用設備で乳酸発酵
おからに乳酸菌を混ぜ密封した状態で
保管することで、乳酸発酵させます。

↓

乳製品を製造
飼料を食べた牛の乳を原料として、
乳製品を製造しています。



←



酪農飼料として販売
でき上がった飼料は、酪農家に販売し
ます。

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

● 健康・栄養

● 環境

基本的な考え方

体制

KPI

環境リスクの認識

環境法規制の遵守

環境マネジメントを推進する仕組み

グループ全体への環境活動の拡大

気候変動

資源循環

> 水資源

サプライチェーンでの環境配慮

環境配慮型容器包装の促進

● 人権

● 供給

● 次世代育成

● 人財育成

● コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

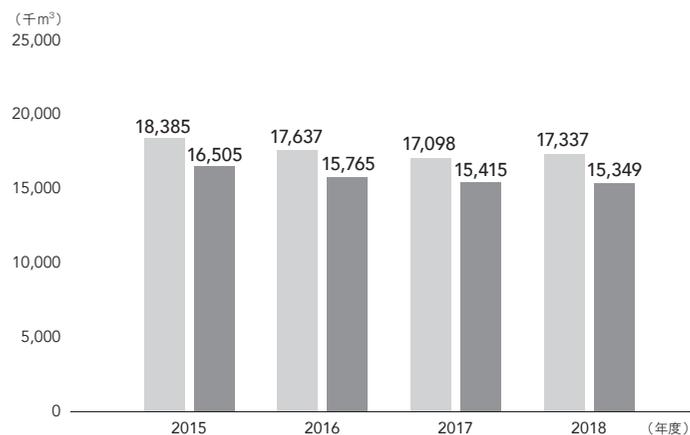
GRIスタンダード対照表

水資源

森永乳業グループの各工場は、水資源のより効率的な活用を目指して改善を積み重ねるとともに、排水処理技術の開発・改良を重ね、水質保全に取り組んでいます。水使用量削減のため、一度使用した水を再度洗浄水として使用する用水リサイクルを行っています。

用水使用量と排水量

■ 用水使用量 ■ 排水量



※ ISO14001を取得している直系・グループ会社の工場の数値です

排水処理の高度化

使用後の排水をきれいに自然に還すために、すべての工場に排水処理施設を備えています。排水処理場では「活性汚泥」と呼ばれる微生物が排水の汚れである栄養成分を食べて取り除き、その活性汚泥を重力で分離した処理水を放流しています。一部の工場では、活性汚泥の分離に膜を使用するMBR（膜分離活性汚泥法）を導入しています。膜分離のため、これまで以上に清澄度が高い処理水が得られています。

森永乳業東京工場は2013年度に排水処理の効率化のため、ファインバブル設備を導入しました。排水処理の前処理として、直径数十マイクロメートル以下の微細な気泡（ファインバブル）を吹き込むことで、これまで分解が困難だった油脂成分の処理を安定して行えるようになりました。これにより、生産量に大きな変化がないにもかかわらず、2018年度は余剰汚泥発生量を2012年度比で63%削減できました。

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

●健康・栄養

●環境

基本的な考え方

体制

KPI

環境リスクの認識

環境法規制の遵守

環境マネジメントを推進する仕組み

グループ全体への環境活動の拡大

気候変動

資源循環

水資源

▶ サプライチェーンでの環境配慮

環境配慮型容器包装の促進

●人権

●供給

●次世代育成

●人財育成

●コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

サプライチェーンでの環境配慮

生物多様性への取り組み

森永乳業は、2018年3月、RSPO^{※1}に加盟しました。パーム油は、生産の際に大規模な森林伐採を行うため、生物多様性の喪失など自然環境面への影響、さらには農場での労働上の人権問題が発生する可能性も指摘されていました。森永乳業は、2018年以降、ブックアンドクレーム^{※2}でのパーム油の購入を推進し、2019年度よりブックアンドクレームで100%カバーします。

コーヒー、紅茶などの飲料に関しては、現在「マウントレニア ディープエスプレッソ」など一部の商品にレインフォレスト・アライアンス認証^{※3}の原材料を使用しています。

また、紙については「MOW(モウ)」の紙スリーブや、「ピノ」「PARM(パルム)」などアイスクリーム商品の包装箱でFSC[®]認証^{※4}のものを使用しています。アイスクリーム商品では、切り替え可能な紙材について、2020年までにFSC[®]認証紙に移行することを目標としています。

※1 RSPO

Roundtable on Sustainable Palm Oil (持続可能なパーム油のための円卓会議)。パーム油の生産が、熱帯林の保全や、そこに生息する生物の多様性、森林に依存する人々の暮らしに深刻な悪影響を及ぼすことのないよう、一定の基準を満たす農場で生産されたパーム油を認証しています。

※2 ブックアンドクレーム

パーム油の生産者が、認証パーム油の生産量に基づいて認証クレジット(証書)を発行。エンドユーザーはその認証クレジットを購入することで、認証パーム油の生産者を支援する仕組みです。

※3 レインフォレスト・アライアンス認証

非営利団体レインフォレスト・アライアンス(Rainforest Alliance)による認証。地球環境保護と人々の持続可能な生活を確保するために、森林や生態系の保護、土壌や水資源の保全、労働環境の向上や生活保障など、厳しい基準を満たした農園にのみ与えられます。

※4 FSC[®]認証

森を守る国際的な認証制度。環境保全の視点から適切で、社会的な利益にかなない、経済的にも持続可能な森林管理のもとで生産された森林資源を使用していることを、FSC[®](Forest Stewardship Council:森林管理協議会)の基準で、第三者の認証機関が審査・認証したものにだけ付けることができます。

REPORT

▶ 詳細はP.56「環境や人権に配慮した調達」参照

物流時のCO₂排出量削減

森永乳業では、輸送によって生じる環境負荷を軽減するため、複数の企業が同一の車両に相乗りする共同配送や、トラック輸送から鉄道・船舶へ輸送手段を切り替えるモーダルシフト、同業他社との共同配送などの取り組みを行っています。2015年から2018年までに、モーダルシフトを8件、配送コースの見直し・削減により、チルド日配の配送コースで35.5コースの削減を実施、他社との共同配送を9件実施しました。

また、物流協力会社のグリーン経営認証取得は4割を超え、低公害車の導入は7割を超えており、引き続きCO₂排出量削減を進めていきます。

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

●健康・栄養

●環境

基本的な考え方

体制

KPI

環境リスクの認識

環境法規制の遵守

環境マネジメントを推進する仕組み

グループ全体への環境活動の拡大

気候変動

資源循環

水資源

サプライチェーンでの環境配慮

> 環境配慮型容器包装の促進

●人権

●供給

●次世代育成

●人財育成

●コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

環境配慮型容器包装の促進

プラスチック容器への対応

森永乳業グループでは多くのプラスチック容器を使用しています。プラスチック容器による海洋などの環境汚染については重要な社会課題と捉えています。その一方でプラスチック容器は賞味期限の延長や使用時の利便性に寄与することから、環境汚染を極力抑えつつ、機能を最大限に利用する賢い使い方をすることが肝要と考えています。

その基本的な考え方として森永乳業では、環境に配慮した容器包装の設計ガイドライン「エコパッケージガイド」を制定しています。このガイドラインは、商品の企画・開発段階から3R（リデュース・リユース・リサイクル）、安全性と使いやすさに配慮した容器包装の開発・改良のもととなっています。2005年に制定したガイドを2018年に全面改定するとともに、容器包装環境確認書*により、新製品発売に際しJIS Z0130-2（包装システムの最適化）に基づいたチェックを実施することとしました。これにより、容器包装の各パーツの役割や削減する余地はないかなど、適切な環境配慮ができていくかについて確認しています。

2018年度より、社内でプラスチック容器問題への対策を検討する「CSR委員会プラスチック対策分科会」を発足させ、プラスチック容器の使用量削減やバイオマスプラスチックの採用などの検討を進めています。

社外との協体制として、プラスチック問題への取り組みをより効果的に進めるため、各種業界団体に加え経済産業省が立ち上げた「クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス（CLOMA）」や環境省の「プラスチック・スマート」フォーラムにも参加しています。

当社の環境に配慮した容器包装の改善事例については、当社のウェブサイト上で公開している他、食品産業センター、日本乳業協会、全国清涼飲料連合会などの加盟団体の事例集や農林水産省の「プラスチック資源循環アクション宣言」、環境省の「プラスチック・スマート」、経団連の「SDGsに資するプラスチック関連取組事例集」へ提供も行っています。

新しい中期経営計画においては「容器包装リサイクル法対象のプラスチック容器を2021年に2013年度比10%削減する」ことを目標として掲げており、取り組みを進めています。

*容器包装環境確認書

商品の開発に際し、容器包装の環境配慮設計に関する森永乳業独自のチェックリストのこと。「廃棄時の減容化」や「包装形態の単純化・簡素化」など11項目をチェックする。すべてにチェックがつかない場合はその理由、課題の共有を行い、次回の開発の際に活かす仕組みとして機能させています。

3Rに配慮した容器包装

森永乳業は3Rに配慮した容器包装の設計・改良を推進しています。2019年は、「ビヒダスヨーグルト」の4連パックを輸送する段ボールの形状を見直し、段ボール使用量を約8%削減しました。



この部分の幅を狭くした。

お客さまのご意見を反映

「お客さま相談室」に寄せられた貴重なご意見やご指摘を活かした多数の改良事例は、当社ウェブサイトでもご紹介しています。

WEB

お客さまの声を活かしました

▶ <https://www.morinagamilk.co.jp/customer/voice/>



〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

● 健康・栄養

● 環境

● 人権

> 基本的な考え方

体制

KPI

人権方針の浸透

労働安全衛生の推進

ステークホルダー・エンゲージメント

サプライヤー

外国人従業員に対する雇用調査

ダイバーシティ&インクルージョン

働き方改革

公平公正な雇用

労使の対話

● 供給

● 次世代育成

● 人財育成

● コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

人権

基本的な考え方

人権に配慮した事業活動を行い、多様性を尊重し、あらゆる人々が能力を十分に発揮できる環境をつくります。

森永乳業は、国連「ビジネスと人権の指導原則」を尊重し、サプライチェーン全体で人権を尊重していくことをめざしています。そのために取り組むべき事項として、人権デューデリジエンス^{*}の実施の準備を進めており、2021年度までの実施を目指しています。当社は原材料の調達から製造、販売に至るまでの過程において、「かがやく笑顔」を実現するための環境整備に力を入れていきます。その第一歩として、2017年より経済人コーポラ卓会議日本委員会が運営する「ステークホルダー・エンゲージメントプログラム」に参加し、サプライチェーン上の人権課題の洗い出しをはじめました。さらに2018年4月には国連グローバル・コンパクトに署名、8月には経済人コーポラ卓会議日本委員会主催の海外有識者とのステークホルダー・エンゲージメントに参加し、人権方針策定に向けて意見をいただき、11月に「森永乳業グループ人権方針」を策定しました。この人権方針を、社内のみならずお取引先さまなどステークホルダーの皆さまにも周知していきます。また社内ではダイバーシティを尊重し、制度・環境を整備しています。これからもサプライチェーン全体での人権の尊重をめざして企業活動を行ってまいります。

^{*}人権デューデリジエンス

企業が、人権に関連する悪影響を認識、防止、対処するためのプロセス。人権に関する方針の策定、企業活動が人権に与える影響の評価、パフォーマンスの追跡や開示などを行う。

森永乳業グループ 人権方針

（基本理念）

森永乳業グループは「乳で培った技術を活かし、私たちならではの商品をお届けすることで、健康で幸せな生活に貢献し豊かな社会をつくる」ことを目指す企業として、すべての人の健康で幸せな生活のために、すべての人が持つ基本的権利である人権とダイバーシティを尊重します。

（位置づけ）

森永乳業グループは、「国際人権章典」や「国連グローバル・コンパクト」による企業行動規範など、人権に関する国際規範を尊重し、国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」に基づき、森永乳業グループ 人権方針を定め、人権尊重の取り組みを推進していきます。また、本方針は森永乳業グループの経営理念、行動指針に基づき、人権尊重の取り組みについての約束を示すものです。

（適用範囲）

本方針は、森永乳業グループのすべての役員と社員に適用します。森永乳業グループは、当社グループの商品やサービスに関係するすべてのビジネスパートナーに対して本方針を支持することを期待し、また、サプライヤーに対しては遵守することを期待します。

（基本方針）

1. 私たちは、個人の基本的権利と個性や多様性を尊重し、その人種、性別、年齢、宗教、言語、国籍、性的指向、性自認、障がいの有無等に基づくあらゆる差別およびハラスメントを行いません。また、人権侵害が発覚した場合は、当事者のプライバシーを守りつつ、速やかに再発防止を含めた適切な対応をとります。
2. 私たちは、一切の強制労働、児童労働を行いません。
3. 私たちは、社員の心身ともに健康で、安全かつ安心して働くことができる職場環境をつくります。
4. 私たちは、結社の自由と団体交渉に関する、社員の基本的権利を尊重します。
5. 私たちは、日本国はもとより、事業活動を行うそれぞれの国または地域における法と規制を遵守します。
6. 私たちは、自らの役員と社員に対し、適切に教育を行います。
7. 私たちは、多様な個性を持つすべての人が互いの考え方や立場などを尊重しあい、その持てる能力を十分に発揮できる働きがいのある生き活きとした企業文化・組織風土の実現に努めます。
8. この方針は、すべての役員と社員に周知し、社外にも公表します。

2018年11月2日

森永乳業株式会社

社長 宮原 道夫

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

●健康・栄養

●環境

●人権

基本的な考え方

> 体制

> KPI

> 人権方針の浸透

労働安全衛生の推進

ステークホルダー・エンゲージメント

サプライヤー

外国人従業員に対する雇用調査

ダイバーシティ&インクルージョン

働き方改革

公平公正な雇用

労使の対話

●供給

●次世代育成

●人財育成

●コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

体制

KPIの進捗、確認、報告は年に2回のCSR委員会（委員長：社長）にて行います。また、「重要取組課題：人権」の責任者を関係本部の本部長が担い、KPIの推進責任者を関係部署の部長が担い、PDCAサイクルを回していきます。また、森永乳業グループでは、人権は全部門全部署で取り組むべきことと考えており、現在、全社課題として取り組むべく、体制の整備を進めています。

KPI

活動の方向性	KPI
ステークホルダーとの対話による人権課題の特定と対策	ステークホルダーとの対話実施
サプライヤーによる人権侵害事案の把握	CSR調達アンケートによる実態把握
自社経営に影響を及ぼす原材料ならびに納入先の特定	重要サプライヤーのリスト化
当社グループ（協力会社含む）の外国人従業員への対応	当社グループの外国人従業員の労働環境整備
ダイバーシティ&インクルージョンの推進	【2027年目標】 在宅・サテライト勤務、有給休暇取得率、女性採用比率、女性管理職数、産休取得率、男性育休取得率、介護離職者数

人権方針の浸透

人権方針に関する研修

森永乳業グループでは、2018年11月に策定したグループ人権方針を従業員に周知・理解してもらうべく、2019年より「コンプライアンス研修」にて人権方針の研修を実施します。コンプライアンス担当が直接、事業所やグループ会社に出向き、研修を行います。詳細は、次年度のサステナビリティレポートにて報告します。

コンプライアンス相談窓口

「森乳ヘルプライン（内部通報制度）」

森永乳業グループでは、ハラスメントについても人権問題ととらえ、コンプライアンス相談窓口「森乳ヘルプライン」への相談による解決を図っています。



▶詳細はP.76「コンプライアンス」参照

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

● 健康・栄養

● 環境

● 人権

基本的な考え方

体制

KPI

人権方針の浸透

➤ 労働安全衛生の推進

ステークホルダー・エンゲージメント

サプライヤー

外国人従業員に対する雇用調査

ダイバーシティ&インクルージョン

働き方改革

公平公正な雇用

労使の対話

● 供給

● 次世代育成

● 人財育成

● コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

労働安全衛生の推進

森永乳業グループは、労働安全衛生を企業活動の最も重要な基盤のひとつと捉え、従業員はもちろん、事業所内で働くすべての人たちに対して、「安全衛生基本方針」を制定しています。その基本方針に基づき、安全で健康に業務が遂行できるよう、労働災害ゼロを目標に、安全衛生教育や危険源（危険箇所）の特定と評価を行い、それを低減、除去するための活動を推進しています。

森永乳業グループ 安全衛生基本方針

森永乳業グループは、安全衛生は企業経営と企業存立の基盤であり、従業員の協力の下に安全衛生を確保することが経営者の最も重要な責務であると認識し、安全で働きやすい職場環境を確保するよう活動します。

<基本方針>

1. 安全衛生活動を従業員全員で取り組み、「安全第一」、「労災ゼロ」を目指して行動します。
2. 「決められたルールを必ず守る」風土や環境づくりを進め、安全衛生法並びに関係法令や社内規定を遵守します。
3. 心身共に働きやすい労働環境づくりを推進し、産業医と連携して定期健康診断や健康指導を行い従業員の健康づくりと健康増進を図ります。
4. 特に生産部門については以下の安全衛生活動に取り組みます。
 - ① リスクアセスメントによる潜在的な危険性や有害性の除去と低減対策の実施
 - ② 定常、非定常作業における作業標準の整備と従業員への周知及びルール遵守
 - ③ 労働災害の情報共有による再発防止と類似災害の防止活動の推進
特に、「挟まれ巻込まれ」、「転倒」、「火傷」型事故の完全撲滅に向けた、過去の災害教訓に基づく再発防止策の実施

④ 継続的な安全衛生水準の向上に向けた、安全衛生監査（本監査と内部監査）の実施

⑤ 安全知識と安全意識の向上に向けた、安全衛生教育・訓練の実施

⑥ 従業員全員による「ご安全に！」活動の推進

2017年8月1日

森永乳業株式会社

社長 宮原 道夫

〈目次〉

- サステナビリティに関する情報開示の考え方
- 編集方針
- 会社情報
- コーポレートミッション
- トップコミットメント
- サステナビリティへの取り組みのあゆみ
- 森永乳業のCSR
- 7つの重要取組課題
 - 健康・栄養
 - 環境
 - **人権**
 - 基本的な考え方
 - 体制
 - KPI
 - 人権方針の浸透
 - > 労働安全衛生の推進
 - ステークホルダー・エンゲージメント
 - サプライヤー
 - 外国人従業員に対する雇用調査
 - ダイバーシティ&インクルージョン
 - 働き方改革
 - 公平公正な雇用
 - 労使の対話
 - 供給
 - 次世代育成
 - 人財育成
 - コーポレート・ガバナンス

データ集
 第三者保証
 GRIスタンダード対照表

従業員の休業災害・重大災害被災者数

森永乳業グループ内で労働災害が発生した場合には、即時本社に情報が入り、発生原因や対応策などについての支援指導と、必要に応じて現地指導を行っています。災害情報については、速報や月次報告の形式で、生産部門の全事業所に情報を共有して類似災害の防止と安全化対策を水平展開するようにしています。

労働災害度率

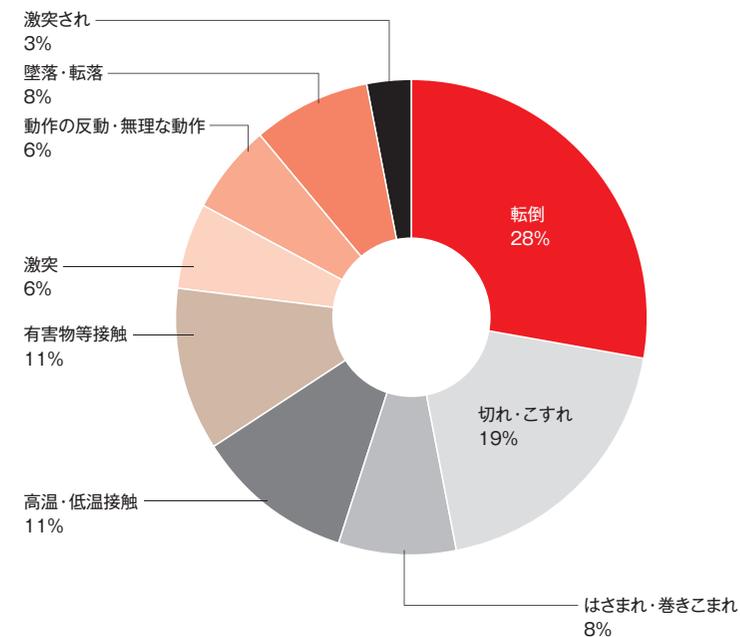


※グループ会社は除く

労働災害の型別発生状況

近年、森永乳業グループでは転倒による労働災害が最も多く、2018年度は全体の28%に相当します。次いで、「切れ・こすれ」が7件で19%、「有害物等接触」、「高温・低温接触」がともに11%となっています。

労働災害の型別割合 (2018年度)



〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

●健康・栄養

●環境

●人権

基本的な考え方

体制

KPI

人権方針の浸透

▶ 労働安全衛生の推進

ステークホルダー・エンゲージメント

サプライヤー

外国人従業員に対する雇用調査

ダイバーシティ&インクルージョン

働き方改革

公平公正な雇用

労使の対話

●供給

●次世代育成

●人財育成

●コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

労働安全の事故防止マネジメント

安全衛生監査の実施

森永乳業グループでは、安全衛生に関する監査チェックリスト(全166項目)を用いて、生産部門の事業所ごとに、書類や製造現場の内部監査を半期に1回の頻度で実施し、労働災害の未然防止と法令遵守、安全衛生活動のレベルアップに努めています。また、本社安全衛生担当による本監査を少なくとも3年以内の頻度で全事業所に対して行っており、2019年度は12事業所を実施する予定です。さらに、外部専門機関による安全点検を実施し、安全衛生活動に社外の目を取り入れた活動を行っており、2019年度は16事業所を実施する計画です。

各事業所の内部安全衛生監査の監査員については、グループ内でアセッサー制度を設けており、監査員の育成についても本社研修を受講させ、知識レベルの向上と監査において注意すべき事項や評価基準のすり合わせを実施しています。

新設備での安全確保

新工場の稼働前や新規設備の導入時、建築構造物や製造工程の大幅な変更時に設備安全点検を実施しています。過去の災害事例を教訓とした対策がなされていることや、法令を遵守していることを中心とした事前点検を行い、確実に安全な操業を開始できるかを確認しています。

安全衛生推進活動

「ご安全に！」活動

森永乳業グループでは「ご安全に！」活動を推進しています。

「ご安全に！」活動とは、安全と健康はすべてに優先されるべき価値である、との認識から、「おはようございます」や「お疲れさまでした」などの挨拶の代わりに「ご安全に！」という言葉を交わす活動です。その言葉の根底にある思いは、相手や仲間に対して、今日も一日安全を最優先して作業を行い、出勤し

た姿で無事に作業を終えて帰宅するように安全第一で働きましょう、という思いやりの心を持った声掛け活動です。また、自分自身に対しても、絶対に怪我をしない、させない、という安全宣言をかねて、「ご安全に！」活動を推進しています。

従業員への安全衛生教育

1. 危険体感機による安全教育

はさまれや巻き込まれ、圧縮空気や液体の封入圧力、感電などの危険を体感できる機械5台2セットを、生産部門の事業所に順次貸し出し、危険を体感して安全教育に活用しています(2019年度は、生産部門の21事業所で危険体感教育を実施する予定)。

2. 安全DVDの視聴教育として、全6タイトルを生産系事業所に順次回覧して、安全教育を実施しています。

3. 労働災害の事故の型別に基本的な安全遵守事項をまとめ、全編8科目を社内ネットワークで配信し、各事業所での安全教育に活用しています。

4. 本社安全担当が独自に作成したe-ラーニングを開講して、2カ月に1回の頻度で全7回を配信し、工場で働く全従業員に対して実施しています。

5. 類似災害防止を目的として、労働災害の型別にテーマを定めて月に1回程度の頻度で、各事業所にリスクアセスメント評価を実施させて、本社の安全衛生担当が添削・指導を実施して能力向上を図っています。

6. 入社4・5年目の従業員を対象にリスクアセスメント演習を行っており、全7回の課題について添削、指導を実施しています。

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

●健康・栄養

●環境

●人権

基本的な考え方

体制

KPI

人権方針の浸透

労働安全衛生の推進

> **ステークホルダー・エンゲージメント**

> **サプライヤー**

外国人従業員に対する雇用調査

ダイバーシティ&インクルージョン

働き方改革

公平公正な雇用

労使の対話

●供給

●次世代育成

●人財育成

●コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

ステークホルダー・エンゲージメント

森永乳業は人権デューデリジェンスに取り組むために、経済人コー円卓会議日本委員会が運営する「ステークホルダー・エンゲージメントプログラム」に2017年、2018年に参加し、サプライチェーン上の人権課題の特定に力を入れています。

さらに2018年には「ビジネスとヒューマンライツに関する国際会議in東京」に出席し、ビジネスと人権に関するグローバルトレンドや、他社事例を学びました。

さらに、海外有識者である、リヴィオ・サランドレア氏(国連開発計画(UNDP) Bangkok Regional Hub ビジネスと人権に関する地域プログラムマネージャー兼チーフアドバイザー)、ブヴァン・セルヴァナサン氏(ブルーナンバー財団CEO)と個別ダイアログを実施し、森永乳業グループ人権方針策定に向けて方針案に対してご意見をいただき、2018年11月にご意見を踏まえた人権方針を策定しました。



「ビジネスとヒューマンライツに関する国際会議in東京」出席者



同 ダイアログの様様

サプライヤー

森永乳業は、サプライチェーン全体で人権尊重を行うべく、サプライヤーなどのお取引先さまを含めて対応を行っています。

原材料では、RSPO 認証パーム油、レインフォレストアライアンス認証のコーヒー豆の購入を推進しています。

また、サプライヤー向けの調達アンケートを定期的実施し、お取引先さまに調達方針の共有と、人権に関する調査を行っています。

REPORT

▶詳細はP.51「供給」参照

CSR 調達アンケート(2016年実施)

森永乳業グループでは、原材料の生産・加工現場での労働環境について、CSR 調達アンケートなどにより定期的に調査を行っています(2016年、そして2019年に調査を予定しています)。2016年の調査では、人権をはじめ、コンプライアンス、環境管理、地域社会との関係、情報セキュリティなどの26項目を質問しており、200社(回収率:100%)から回答を得ました。その中で、特に人権という観点では児童労働の有無を調査しました。

質問内容: 児童労働をさせていませんか。臨時的な使用がある場合は、その概要について回答理由記入欄に記入してください。

回答:

1. させていない	99%
2. 臨時的にさせていることがある	1%
3. させている	0%
4. わからない	0%
5. その他	0%

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

● 健康・栄養

● 環境

● **人権**

基本的な考え方

体制

KPI

人権方針の浸透

労働安全衛生の推進

ステークホルダー・エンゲージメント

> サプライヤー

> 外国人従業員に対する雇用調査

> ダイバーシティ&インクルージョン

働き方改革

公平公正な雇用

労使の対話

● 供給

● 次世代育成

● 人材育成

● コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

物流協力会社との取り組み

昨今の物流を担うドライバーの長時間労働を解消すべく、森永乳業は物流協力会社と協働してドライバーの労働時間削減に取り組んでいます。

【具体的な取り組み】

- ・バレット輸送の推進
- ・モーダルシフトによる鉄道・海上輸送への切り替え
- ・グループ内および同業他社との共同配送の実施
- ・現業務内容精査、取引条件の見直し・改善、荷積み荷下ろし時の検品業務の見直し等
- ・休憩時間確保のための所要時間短縮（待機時間削減、時間指定緩和等）

外国人従業員に対する雇用調査

森永乳業グループの事業所では、外国人従業員と、日本籍であっても母国語が日本語以外の従業員が働いています。

外国人従業員の雇用状況確認と労働環境の整備を目的として、「外国人従業員に対する雇用調査」を全事業所と全グループ会社を対象に計画しています。

結果は次年度のサステナビリティレポートにて報告を予定しています。

ダイバーシティ&インクルージョン

森永乳業グループでは、多様性を認めるだけでなく、それぞれの従業員が個性や能力を十分に発揮しながら、互いの違いを受容し、企業活動を推進することが大切だと考えています。そこで森永乳業は、「ダイバーシティ&インクルージョン宣言」を発信し、全社一丸となってさまざまな施策を行っています。

【森永乳業 ダイバーシティ&インクルージョン宣言】

私たちは、

- ・社員の多様性を尊重し、すべての社員が強みを最大限に発揮できる職場づくりに取り組みます。
- ・ワークもライフも、社員の「笑顔」と「生き生き」を応援します。
- ・一人ひとりが笑顔で生き生き働くことで、私たちならではの価値を社会にお届けし続けます。

取り組みと実績

ダイバーシティ&インクルージョンの推進

「ダイバーシティ&インクルージョン」を全従業員が正しく理解し実現するために、全国の事業所でダイバーシティ&インクルージョンに関する説明会を実施しました。2017年からは当社を含む食品企業が共同で「ダイバーシティフォーラム」を1年に1回開催しています。有識者の講演やトークセッションを行い、当社からは毎年約100名以上が参加しています。

また、2007年に「次世代育成委員会」として、子どもを持つ女性従業員の声を聞く機会を設けました。この委員会から男女関係なく取得できる「短時間勤務」や「学校行事休暇」の制度が生まれています。このような女性活躍推進を、近年はダイバーシティ推進の一環としてとらえ、「働きやすさ」だけでなく、能力を十分に発揮できる「働きがい」のある職場環境をめざして、多様な働き方を志向できる制度の構築などを進めています。

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方
 編集方針
 会社情報
 コーポレートミッション
 トップコミットメント
 サステナビリティへの取り組みのあゆみ
 森永乳業のCSR
 7つの重要取組課題

- 健康・栄養
- 環境
- **人権**
 - 基本的な考え方
 - 体制
 - KPI
 - 人権方針の浸透
 - 労働安全衛生の推進
 - ステークホルダー・エンゲージメント
 - サプライヤー
 - 外国人従業員に対する雇用調査
- > **ダイバーシティ&インクルージョン**
 - 働き方改革
 - 公平公正な雇用
 - 労使の対話
- 供給
- 次世代育成
- 人財育成
- コーポレート・ガバナンス

データ集
 第三者保証
 GRIスタンダード対照表

女性活躍推進

森永乳業では、ダイバーシティ推進の一環として女性の活躍を推進しています。「女性リーダー研修」や「仕事×子育てパワーアップセミナー」などの研修を実施し、自らの一層の成長をめざす従業員や、仕事と子育てを両立している従業員の支援をしています。また、育児休業から復職した後もより一層活躍してもらうための仕組みやツールを検討しています。現在は「女性活躍推進法」の第1期行動計画に取り組んでいます。

女性活躍推進の目標指標と実績（森永乳業のみ）

	2017	2018	2027目標
新卒採用時の女性比率 [*] (%)	40.0	44.9	50
女性管理職数 (名)	38	42	100

※事務営業職と研究開発職の合計

育児支援制度

森永乳業では、子育て支援策の充実をはかっています。現在は短時間勤務制度や育児による時差勤務制度等を利用しながら仕事と子育ての両立をはかっている従業員が、さまざまな部門で活躍しています。また、男性の育児参加への意識を高めるため、「配偶者出産休暇」を2015年より導入しています。配偶者出産休暇と育児休業を組み合わせる男性も増えてきています。



森永乳業では2008年、2010年、2012年、子育てをサポートしている事業主としての認定を東京労働局長より受け、「次世代認定マーク（愛称：くるみん）」を取得しました。現在は第6期行動計画に取り組んでいます。

- ・2018年度配偶者出産休暇取得率：76.5%（124名取得）
- ・2018年度男性育児休業取得率：16.7%（27名取得）

介護支援制度

近年は家族の介護をしながら働く従業員が増えてきています。これを受けて2017年に、介護休業の法律を上回る通算185日まで3回にわけて取得できるようにしました。また、遠方に住む家族の介護に携わる従業員は、帰省にかかる旅費の負担が大きいという考えから、帰省旅費の一部を会社が補助する「介護帰省補助」を2018年に新設しました。仕事と介護の両立を目指す従業員を支援しています。

介護による離職者数（森永乳業のみ）

	2016	2017	2018	2027目標
離職者数 (名)	6	4	0	0

障がい者雇用

森永乳業では、新卒・キャリア採用を問わず、多様なバックグラウンドを持った方を採用しています。障がいのある従業員もそれぞれの個性を活かせる部署で、自身の能力を発揮しています。

障がい者雇用者数と雇用率（森永乳業のみ）

	2015	2016	2017	2018
障がい者雇用者数 (名)	84	84	89	94
障がい者雇用率 (%)	2.18	2.14	2.22	2.20

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

●健康・栄養

●環境

●人権

基本的な考え方

体制

KPI

人権方針の浸透

労働安全衛生の推進

ステークホルダー・エンゲージメント

サプライヤー

外国人従業員に対する雇用調査

ダイバーシティ&インクルージョン

> 働き方改革

公平公正な雇用

労使の対話

●供給

●次世代育成

●人財育成

●コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

働き方改革

ワークライフバランス

2017年に「ワークスタイル変革委員会」を立ち上げ、多様な背景を持つすべての従業員がそれぞれの能力を十分に発揮できるよう、インフラ環境や諸制度の整備を進めています。

「ノー残業デー」「マイ・ホリデー制度」「インターバル制度」といった制度を導入し、働き方を見直すことで業務にメリハリをつけています。

定時に仕事を終わることを従業員に意識づけるために、本社を含む各事業所で「ノー残業デー」を設定しています。

また、「マイ・ホリデー制度」を導入し、2019年度より5日間の有給休暇の連続取得予定日を上司に届け出ることによって職場内でのフォロー体制を取りやすくし、従業員が安心して有給休暇を取得できるようにする取り組みを行っています。これによって有給休暇取得率は近年上昇しており、2018年度は64.9%となりました。2027年度有給休暇取得率85%を目標に、引き続き取り組みを進めていきます。

そして、従業員の心身の健康確保の観点から法令化に先駆けて2014年より全事業所で「インターバル制度」(時間外勤務などを含んだ勤務終了時から翌日の勤務開始時まで、一定時間のインターバルを保障することにより従業員の休息時間を確保する制度)を導入しています。従業員の健康な生活を後押しするとともに、過重労働の防止に取り組んでいます。

また、長時間労働が問題となっているトラック運転手に対しても、物流協力会社と連携して労働時間の削減に努めています。

REPORT

▶ 詳細はP.47「物流協力会社との取り組み」、P.54「供給」参照

柔軟な働き方を推進する制度

森永乳業では、「在宅勤務・サテライト勤務制度」「時差勤務制度」や「フレックスタイム制度」を導入することで、柔軟な働き方を推進しています。

時間資源の有効活用による業務生産性の向上および仕事と私生活の両立のため、2017年より育児や介護等の事由がなくても取得可能な「在宅勤務・サテライト勤務制度」を導入しています。働き方を見直し生産性の高い業務を遂行できるよう取り組んでいます。2019年7月時点で延べ約240名が活用しています。

森永乳業本社では、始業時刻を7:00～10:00の間(終業時刻は15:30～18:30の間)において、個人別に設定することができる「時差勤務制度」を2015年6月より実施しています。

研究・情報センターでは「フレックスタイム制度」によって、仕事を効率的に遂行する意識の向上をはかっています。

治療と仕事の両立支援制度

2018年には「治療と仕事の両立」に着目し、継続的な治療が必要な従業員が安心して働きつづけられるよう、「短時間勤務」「短日勤務」「時差勤務」という3つの制度を導入しました。

短時間勤務制度：1日の労働時間を最大2時間短縮できる制度

短日勤務制度：有給休暇を使わずに週4日勤務を可能にする制度

時差勤務制度：労働時間を短縮せずに、前後に2時間までずらすことができる制度

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

● 健康・栄養

● 環境

● 人権

基本的な考え方

体制

KPI

人権方針の浸透

労働安全衛生の推進

ステークホルダー・エンゲージメント

サプライヤー

外国人従業員に対する雇用調査

ダイバーシティ&インクルージョン

働き方改革

> 公平公正な雇用

> 労使の対話

● 供給

● 次世代育成

● 人材育成

● コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

公平公正な雇用

森永乳業では、契約従業員の人事制度を2016年4月より改定し、有期の契約従業員が一定の経験を積んだ場合について、無期の雇用契約に変更できることとしました。また、雇用期間の定めのないいわゆる正規従業員への登用制度を導入しており、2016年の制度導入以降の累計で20名の契約従業員を登用しました。各雇用区分における責任範囲、期待役割を明瞭にして、多様な従業員が活躍できるように努めています。

また、さまざまなライフプランやキャリアプランを理由に退職した従業員の中には、将来再び森永乳業で力を発揮したいとの希望を持つ人も少なくありません。そうした要望に応えるとともに、在職中に蓄積した経験やスキル、他社で活躍した経験の有効活用をはかるために、退職従業員のリターンジョブ制度を設けています。この制度の対象となるのは、森永乳業での正規従業員としての勤務経験が3年以上で、原則として退職事由は問いません。これまでに8名がリターンジョブ制度を利用して復職し、活躍されています。

労使の対話

森永乳業では、労使との対話の場として、全森永労働組合を組織しています。ユニオンショップ制度を採用し、管理職を除く全正規従業員は100%加入しています。

会社と組合は相互の理解と協力をはかるため、経営協議会を開催することを労働協約に定めており、経営陣と組合代表者が出席する総合経営協議会を年に2回開催している他、事業所と組合支部間においても事業所経営協議会を開催しています。

また、「安全対策労使会議」「労働時間対策労使会議」をそれぞれ年に2回開催し、職場の労働安全衛生の維持向上に努めており、賃金の引き上げと賞与に関する協議、賃金以外の労働条件の改善に向けた協議も実施しています。

さらに、各種の社内規程の改定時等には組合に事前提案を行い、協議を経て改定を実施するなど、全森永労働組合と密にコミュニケーションをとっています。



〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

●健康・栄養

●環境

●人権

●**供給**

> 基本的な考え方

体制

KPI

お取引先との品質の取り組み

社内での品質の取り組み

お客さまへの対応

非常時の供給体制の確立

●次世代育成

●人財育成

●コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

供給

基本的な考え方

安全・安心を重視した原材料調達と製造を経て、高品質な商品を安定的にお届けします。

森永乳業グループは、1.商品開発、2.原料調達、3.製造、4.流通・販売の各サプライチェーンにおいて、お客さまに安全で安心、高品質な商品を届けるにはどうしたらいいかを、つねに考えています。その考えの基となるものが、「森永乳業グループ品質方針」です。

品質方針では製造現場のみならず、サプライチェーンすべてにおける品質の考え方を示しています。

また、原材料の調達では「森永乳業グループ調達方針」の考えの基、サプライチェーン上の環境・人権に配慮した調達を実施しています。

森永乳業グループ 品質方針

森永乳業グループは牛乳、乳製品、アイスクリーム、飲料等の食品を製造、販売する食品企業として「乳で培った技術を活かし、私たちならではの商品をお届けすることで、健康で幸せな生活に貢献し豊かな社会をつくる」ことを目指しており、**お客さまの声に真摯に耳を傾け、安全性と品質の確保に努め、安全で高品質な商品・サービスを提供します。**

<品質方針>

1. 商品開発、原料調達、製造、物流、販売の各過程で品質管理を徹底し、商品の安全性と品質を確保します。

そのために次の事項に取り組みます。

- ①企画・研究・開発では、商品の安全性と品質を確保する設計とする。
- ②設備・技術・原材料の選定では、潜在的危害を考慮し、安全性と品質に対する影響を検討する。
- ③業務区分ごとに品質管理の責任者を明確にし、商品の安全性と品質を確保する措置をとる。

2. 法令、基準を遵守し、社会に貢献します。

3. お客さまの立場に立って、解りやすく正確な情報を提供します。

4. 一人ひとりが知識・技能に磨きをかけ、品質レベルの維持・向上に努めます。

2017年9月

森永乳業株式会社

社長 宮原 道夫

森永乳業グループ 調達方針

森永乳業グループは、お客さまへ高品質で美味しく、安全・安心な商品をお届けするために、お取引先さまとともに、法令や社会規範を遵守し、人権や環境などの社会的責任に配慮した調達活動を行います。またすべてのお取引先さまと、公平、公正、透明な取引関係を実践します。

<調達方針>

1. 法令、社会規範を遵守し、人権、環境、生物多様性、労働安全衛生などに配慮することを重視した公正な取引に努めます。

2. 森永乳業グループがお客さまに提供する商品の質や価値の向上につなげるため、原材料の品質、安全、技術力、価格、納期などの領域において、お取引先さまとの協働関係を重視します。

3. 調達活動を行うにあたり、すべてのお取引先さまに公平、公正、透明な取引の機会を提供し、その取引を実践します。

なお、本方針における「調達」は、商品に使用する原料、包装材料の調達のみならず、設備、機器をはじめ全ての経営資源の調達やそれらの保守・管理サービスなども含めた各種取引についても対象とします。

2017年9月

森永乳業株式会社

社長 宮原 道夫

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- **供給**

基本的な考え方

- > 体制
- > KPI
- > **お取引先との品質の取り組み**

社内での品質の取り組み
 お客さまへの対応
 非常時の供給体制の確立

- 次世代育成
- 人財育成
- コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

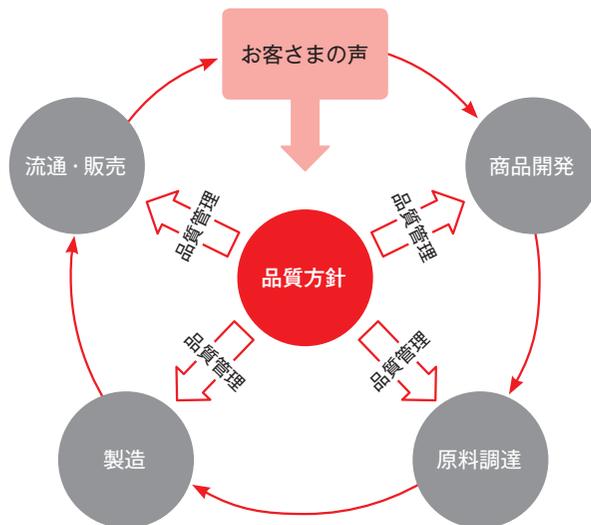
体制

KPIの進捗、確認、報告は年に2回のCSR委員会（委員長：社長）にて行います。また、「重要取組課題：供給」の責任者を関係本部の本部長が担い、KPIの推進責任者を関係部署の部長が担い、PDCAサイクルを回していきます。

森永乳業は、「品質方針」に基づき、1.商品開発、2.原料調達、3.製造、4.流通・販売の各フードチェーンにおいて、「品質ルール」*を規定しています。この「品質ルール」に基づく品質管理を組織的に実行するため、品質保証体制を確立しています。この体制を推進することで、取り扱うすべての商品の品質と安全性を確保しています。

*品質ルールにおいては、法令・業界自主基準等を遵守することはもちろんのこと、業界水準を上回る基準を社内で設定しています。

森永乳業グループの品質保証体制



KPI

活動の方向性	KPI
原料リスクに応じた効率的なサプライヤーマネジメント	原料リスク等によりサプライヤーの管理レベルを評価する仕組みの強化
安全かつ高品質な商品提供のための体制づくり	FSSC22000を2020年度中に当社グループ全29工場取得
主要原材料の供給リスク対応	主要原材料の複数社購買、地域分散購買 RSPO 認証パーム油の使用拡大

お取引先との品質の取り組み

お取引先とともに品質レベルを高める

森永乳業は、原料乳をはじめとするさまざまな原料や容器包装の調達、原材料や商品の物流などに関わる多くのお取引先とともに事業活動を行っています。これらのお取引先には、お客さまへ、高品質、安全・安心でおいしく価値のある商品をお届けするために、「森永乳業グループ 調達方針」(前掲)を示して、理解と協力をお願いするとともに、相互に情報を共有し、連携を深めるよう努めています。

原材料のお取引先とは、品質保証書を取り交わし、使用している原料の情報(配合、起源原料、起源原料原産国、食品添加物使用の有無、アレルギー、遺伝子組み換えなど)、容器包装の材質の安全性、使用上の安全性、法的規格基準の適合性(残留農薬の基準適合など)、お取引先の製造工程における品質管理状況などを確認しています。

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方
 編集方針
 会社情報
 コーポレートミッション
 トップコミットメント
 サステナビリティへの取り組みのあゆみ
 森永乳業のCSR
 7つの重要取組課題

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- **供給**
 - 基本的な考え方
 - 体制
 - KPI
 - > **お取引先との品質の取り組み**
 - 社内での品質の取り組み
 - お客さまへの対応
 - 非常時の供給体制の確立
- 次世代育成
- 人材育成
- コーポレート・ガバナンス

データ集
 第三者保証
 GRIスタンダード対照表

品質向上セミナー

原材料のお取引先と「品質向上セミナー」を年に1回に開催し、当社の品質保証システムの理解、原料および容器包装の品質維持・向上や衛生環境改善の取り組みについて、情報共有をはかりながら、相互にコミュニケーションをとる機会としています。

品質向上セミナー参加社数

	2015	2016	2017	2018
参加社数(社)	28	23	24	20

お取引先工場への品質監査

高い品質の原材料を供給いただくためには、お取引先さまとの良好なコミュニケーションが重要となります。森永乳業グループでは、コミュニケーションの手段として書類審査の他、お取引先さま工場の品質監査を実施しています。

品質監査では、森永乳業グループの品質方針をご理解いただき、お取引先さまの協力のもと、異物やアレルギー管理など、さまざまな視点で食品安全・品質上の課題がないかを実地で確認します。課題があれば、お取引先さまと相互理解の上で改善していただくことで、より安心・安全で高品質な原料の供給を可能としています。

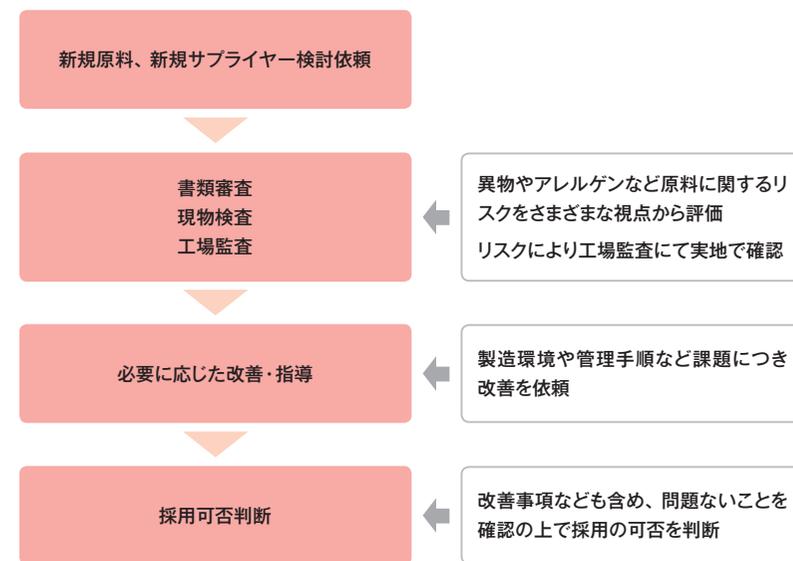
ヨーロッパやオセアニアなど海外からも原料を輸入しているため、必要に応じて海外の現地工場を訪れ、国内と同様に監査を実施します。海外のお取引先さまに対して国内と同様な品質管理レベルを要求することが困難な場合がありますが、森永乳業グループの品質方針をていねいに説明し、理解していただくことで、海外も含めてより高い品質の原料の調達体制を構築しています。2018年度は米国、ヨーロッパのお取引先さまの監査を行い、改善していただいています。

2018年度は著しいリスクを有する問題事象はありませんでした。

監査先

	2016	2017	2018
自社工場(件)	9	28	31
委託先(件)	44	53	40
お取引先(サプライヤー)(件)	56	47	31
合計(件)	109	128	102

新規原料の基本採用フロー



〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

●健康・栄養

●環境

●人権

●供給

基本的な考え方

体制

KPI

＞ お取引先との品質の取り組み

社内での品質の取り組み

お客さまへの対応

非常時の供給体制の確立

●次世代育成

●人財育成

●コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

物流品質向上に向けて

森永乳業グループは、商品物流の輸配送業務および庫内荷役業務を委託している協力会社を対象に、物流品質活動報告や協力会社の取組事例紹介等を行い、情報共有と活発な話し合いを通じて物流品質レベル向上とそのための連携強化をはかるため、「物流勉強会」を実施しています。

2018年は、物流協力46社と、森永乳業グループの全製造工場、本社の生産部門、センターが参加し、商品の品質保持、作業精度、安全に関して、課題の共有や取り組み事例の発表を行いました。森永乳業では、物流の品質保持、作業精度、安全について目標を設けており、事業所間の物流部門の月次定例会や、協力会社との定期的な会議の開催などで進捗を確認し、目標達成に向かって協力会社と一丸となって取り組んでいます。

また、物流協力会社と会議を開催し、クリニコ社の流動食や介護食の食品特性、商品輸送時の注意事項等を学ぶ機会を設け、物流品質向上に努めています。その他にも、物流拠点に出入りする輸配送乗務員を対象とした輸配送乗務員マニュアルの整備や、毎年実施する倉庫チェックのPDCAサイクルを具体化するためにアクションプランシートの作成を運用して、本社と各事業所が連携して商品倉庫の課題改善に取り組む体制を強化するなど、より一層の物流品質の向上を目指しています。

国産良質生乳の安定確保に向けて

全国の酪農事務所員による、管内酪農家への訪問活動

生産本部酪農部では、全国に6カ所ある森永乳業の酪農事務所にて、国産良質生乳の確保のため管内の酪農家を日常的に訪問しています。

乳質の改善技術、生乳の需給に関する情報などを提供することなどを通じて、酪農家の生産意欲の向上をは

かるとともに、直接酪農家から生産拡大の問題点やお悩みをうかがい、一緒に改善策を考えるなどの取り組みを行い、相互に問題解決に取り組んでいます。また、このような酪農生産振興活動を充実させるため、2019年1月から生産本部酪農部に酪農グループを新設し、サポート体制を充実させました。今後も酪農生産者とともにサステナブルな酪農を目指していきます。



生乳生産量の増加のための、酪農生産者との取り組み

乳牛は子牛として生まれてから搾乳を開始するために最低でも2年の育成期間がかかるため、酪農経営の負担となり、国内生乳生産量が伸び悩む一因となっています。そこでグループ会社の森永酪農販売(株)の自社農場では、「健康で丈夫な牛に育てよう」をモットーに、酪農家が生乳生産に注力できるよう、育成牛を委託する「乳用育成牛預託事業」を行っています。

この事業は酪農家から乳牛の跡取りとなる育成牛を預かり、妊娠させ、酪農家へお返しするという事業です。他にも、酪農家の所得向上にも貢献するため受精卵生産・移植の高度な技術を活用し、和牛の受精卵を乳牛に移植することも積極的に取り組んでいます。

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

● 健康・栄養

● 環境

● 人権

● **供給**

基本的な考え方

体制

KPI

> お取引先との品質の取り組み

社内での品質の取り組み

お客さまへの対応

非常時の供給体制の確立

● 次世代育成

● 人材育成

● コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

酪農家を対象とした工場見学会の開催

酪農家をお招きし、森永乳業グループの工場で見学会を実施しています。見学された酪農家からは、自分たちが生産した生乳が実際に製品化されていくところを見ることで、生乳生産意欲の向上と生乳の品質、安全性確保に対する意識向上につながったなどのご意見・ご感想をいただいております。今後もコミュニケーションの場として見学会を開催していきます。

森永酪農振興協会の取り組み

1968年に森永乳業の創立50周年を記念して財団法人森永酪農振興協会が設立されました。同協会ではこれまで50年にわたって、さまざまな形で酪農家を支援してきました（平成23年12月より、公益財団法人森永酪農振興協会に移行）。全国の特徴ある優秀な経営を紹介する酪農経営発表大会の開催や、地域の優秀な酪農家を視察して実地で情報交換するバーン・ミーティングの実施、国内外の優良な酪農技術・知見を紹介する講演会の開催などを行っています。過去には酪農後継者の国内外での研修支援なども行い、酪農の持続的発展に寄与してきました。



乳原料の安定供給への取り組み

森永乳業では、オセアニア、アメリカ、ヨーロッパなどからも乳原料を調達していますが、気候変動や国際情勢に影響を受けるリスクがあることから、できる限り複数の購買ルートを確認することを目指し、つねに適切な価格で安定した品質の乳原料を購入する体制を整えています。

また、将来的な乳原料の不足に備え、新たな乳原料を使いこなせるよう、研究所や工場が協働して配合設計の研究を重ねています。

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

● 健康・栄養

● 環境

● 人権

● **供給**

基本的な考え方

体制

KPI

> お取引先との品質の取り組み

社内での品質の取り組み

お客さまへの対応

非常時の供給体制の確立

● 次世代育成

● 人財育成

● コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

環境や人権に配慮した調達

森永乳業グループは、「調達方針」を策定して、環境・人権に配慮した調達を推進しています。その方針のもと、RSPO 認証、レインフォレスト・アライアンス認証、FSC® 認証など、環境や人権に配慮した原材料を調達するよう努めています。

森永乳業は、2018年3月、RSPO^{*1}に加盟しました。パーム油は、生産の際に大規模な森林伐採を行うため、生物多様性の喪失など自然環境面への影響、さらには農場での労働上の人権問題も指摘されていました。2018年以降、ブックアンドクレーム^{*2}でのパーム油の購入を推進し、2019年度よりブックアンドクレームで100%カバーします。

コーヒー、紅茶などの飲料に関しては、現在「マウントレーニア ディープエスプレッソ」など一部の商品にレインフォレスト・アライアンス認証^{*3}の原材料を使用しています。

また、紙については「MOW(モウ)」の紙スリーブや「ピノ」、「PARM(パルム)」の包装箱でFSC® 認証^{*4}のものを使用しています。アイスクリーム商品では、切り替え可能な紙材について、2020年までにFSC® 認証紙に移行することを目標としています。

こうした環境や人権に配慮した原材料の使用にあたっては、商品の価格や品質、輸送効率などにも影響をおよぼすことから、部署を横断した情報共有を行い、取引先・サプライヤーとも連携・協力して取り組んでいます。

原材料の生産・加工現場での労働環境については、「CSR調達アンケート」などにより定期的に調査しています。設問は、人権をはじめコンプライアンス、環境管理、地域社会との関係、情報セキュリティなど26項目にわたり、サプライヤーに対して詳細で正確な回答を求めています。



(左)レインフォレスト・アライアンス認証のコーヒー豆を使った「マウントレーニア ディープエスプレッソ」(右)FSC® 認証の紙スリーブを使用している「MOW」

※1 RSPO

Roundtable on Sustainable Palm Oil (持続可能なパーム油のための円卓会議)。パーム油の生産が、熱帯林の保全や、そこに生息する生物の多様性、森林に依存する人々の暮らしに深刻な悪影響を及ぼすことのないよう、一定の基準を満たす農場で生産されたパーム油を認証しています。

※2 ブックアンドクレーム

パーム油の生産者が、認証パーム油の生産量に基づいて認証クレジット(証書)を発行。エンドユーザーはその認証クレジットを購入することで、認証パーム油の生産者を支援する仕組みです。

※3 レインフォレスト・アライアンス認証

非営利団体レインフォレスト・アライアンス(Rainforest Alliance)による認証。地球環境保護と人々の持続可能な生活を確保するために、森林や生態系の保護、土壌や水資源の保全、労働環境の向上や生活保障など、厳しい基準を満たした農園のみ与えられます。

※4 FSC® 認証

森を守る国際的な認証制度。環境保全の観点から適切で、社会的な利益にかなない、経済的にも持続可能な森林管理のもとで生産された森林資源を使用していることを、FSC®(Forest Stewardship Council®: 森林管理協議会)の基準で、第三者の認証機関が審査・認証したものにだけ付することができます。



4-1016-18-100-00



実行委員会事務局
03-5561-1111

Topics

「SDGsとFSC® 認証に関するバンクーバー宣言」への署名

2017年10月11日、カナダのバンクーバーで開催されたFSC®の年次総会において、SDGsとFSC®の支持拡大を呼びかける宣言文が発表され、森永乳業はその趣旨に賛同する企業として、国内外の56社とともに署名しました。アイスクリームのMOW、飲料のピクニックなどのおなじみの商品から、徐々に拡大することで、持続可能な森林資源の活用に貢献しています。

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- **供給**

基本的な考え方

体制

KPI

> お取引先との品質の取り組み

> **社内での品質の取り組み**

お客さまへの対応

非常時の供給体制の確立

- 次世代育成
- 人材育成
- コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

Topics

「持続可能なパーム油ネットワーク (JaSPON)」に参加

2019年4月、森永乳業は、パーム油生産における環境面・開発面のさまざまな問題を解決することを目指し、日本市場における持続可能なパーム油の調達と消費を加速させるため、「持続可能なパーム油ネットワーク (JaSPON)」の発足メンバーとして本ネットワークに参加するとともに、理事に就任しました。

森永乳業は、小売、消費財メーカーなど18社／団体が参加する本ネットワークにおいて、持続可能なパーム油の調達と消費の実現に向けて、メンバー間で協働します。



社内での品質の取り組み

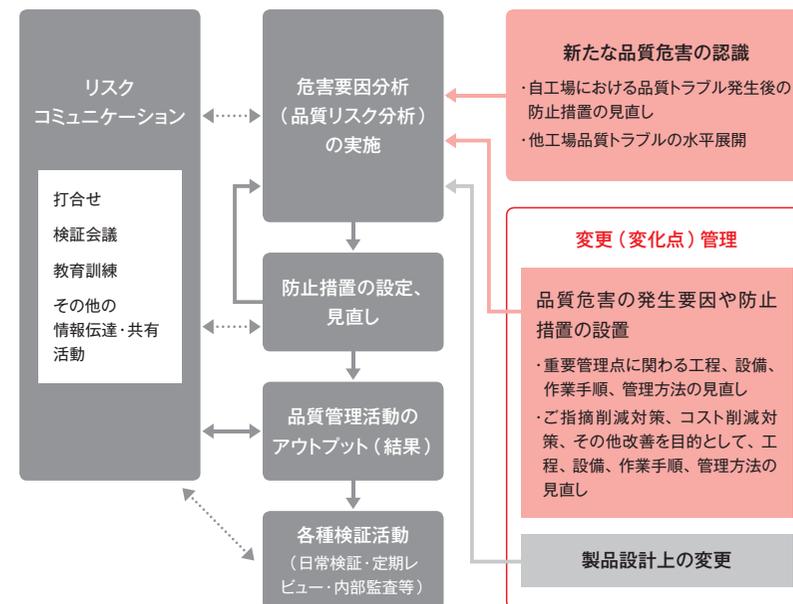
森永乳業独自の品質マネジメントシステム (MACCP)

森永乳業グループでは、独自の品質マネジメント手法である「MACCP」を導入し、運用しています。

「MACCP」は危害要因分析手法を用いて、本来商品に備わっているべき品質を確保するための管理手法であり、お客さまに安心していただける商品を提供すること、安定した製造を行うことを目的としています。

特徴として品質トラブルの未然防止と再発防止を徹底して高品質を実現します。また、内部監査とその検証により品質管理の強化をはかり、品質向上を目指します。

MACCPシステム運用の概念図



〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

● 健康・栄養

● 環境

● 人権

● **供給**

基本的な考え方

体制

KPI

お取引先との品質の取り組み

> **社内での品質の取り組み**

お客さまへの対応

非常時の供給体制の確立

● 次世代育成

● 人財育成

● コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

FSSC22000への取り組み

森永乳業グループは、より高い安全・安心をお届けするため、食品安全マネジメントシステムの国際規格スキームである「FSSC22000^{*}」の全社的な取得を目指しています。

FSSC22000は、森永乳業グループ全体で取り組んでおり、2018年度までに国内の6工場で取得しており、2020年度までに24工場の取得を予定しています。

食品安全は、ある特定の組織だけで可能となるわけではなく、社内はもとよりお取引先さまやお客さまなど関係するすべての組織が取り組んで初めて可能となります。FSSC22000を効果的に活用し、関係する組織間で良好なコミュニケーションをとることで、製品の食品安全と品質を維持していきます。

また、従業員が正しくFSSC22000を理解し、安全・安心な商品をつくりつづけるための社内教育にも力を入れており、FSSC22000の内部監査員養成講習を本社主催で実施しています。

安全・安心な商品をお客さまに提供しつづけるために、一人ひとりが知識・技能に磨きをかけ、品質レベルの維持・向上を目指していきます。

※ FSSC22000

Food Safety System Certification 22000 の略。GFSI (Global Food Safety Initiative) によって承認された食品安全のためのスキーム。ISO22000をベースに、より確実な商品安全管理を実践し、消費者に安全な食品を提供することを目的としています。

風味パネルマイスター制度

品質管理においては、科学的な検査で数値を測定するよりも、人間の舌のほうに感度が高い場合も多くあります。そこで森永乳業では、従業員の中から特に風味感度が高い者を発掘し、「風味パネルマイスター^{*}」として認定。わずかな異常も出荷前に人間の舌で感知できる体制を整えています。

※風味パネルマイスター

毎年、全従業員を対象に認定会を行い、好成績を収めた者が風味パネルマイスターとして認定されます。3年連続でマイスターに認定されると、グランドマイスターと呼ばれます。2019年9月現在、71名のマイスターが活躍しています。

原料チェック（先行ロット検査とトリプルチェック）

森永乳業グループは、高品質で安全な原料だけからしかよい商品はつくりたいと考えています。そのために原料調達段階から「先行ロット検査」による検査体制を築き、商品の品質と安全性を支えています。これは、原料が工場に納入される前に品質管理部においてリスクに応じて指定した原料の納入予定ロットのサンプル検査を実施するもので、検査に合格した原料だけが工場に納入されます。

あらかじめ品質と安全性が確認された原料は、工場に納入された後も原料受入から使用時まで、合計3回の検査（トリプルチェック）が実施されます。

品質を守る環境を整備する

森永乳業グループでは、品質を守る環境整備として、労働安全衛生に力を入れています。

労働安全衛生を企業活動の最も重要な基盤のひとつと捉え、従業員はもちろん、事業所内で働くすべての人たちに対して、「安全衛生基本方針」を制定しています。その基本方針に基づき、安全で健康に業務が遂行できるよう、労働災害ゼロを目標に、安全衛生教育や危険源（危険箇所）の特定と評価を行い、それを低減、除去するための活動を推進しています。

REPORT

▶ 詳細はP.41「人権」参照

品質を守りつづける人を育てる仕組み

森永乳業グループでは、「品質」をつくりあげるのは「人＝従業員」であるとの考えから、2002年に従業員の品質教育を行う、「森永ミルク大学」を開校しました。森永ミルク大学は「技術・技能の伝承」「品質技術の維持向上」を目的とする生産部門の社内教育機関として、さまざまな従業員教育を行っています。

REPORT

▶ 詳細はP.70「人財育成」参照

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

●健康・栄養

●環境

●人権

●供給

基本的な考え方

体制

KPI

お取引先との品質の取り組み

社内での品質の取り組み

> お客さまへの対応

非常時の供給体制の確立

●次世代育成

●人財育成

●コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

お客さまへの対応

森永乳業は、2007年にISO10002（苦情対応マネジメントシステム）の自己適合を宣言しました。

私たちは、ISO10002に則り、「お客さま満足のための基本方針」ならびに「行動指針」を定め、お客さま対応の継続的な改善に積極的に取り組んでまいります。

また、2017年にはさらなる消費者志向経営を推進するため、「消費者志向自主宣言」を、2019年には「消費者志向自主宣言フォローアップ」を発信しました。

お客さま満足のための基本方針

私たちは、ご指摘、ご要望、お問い合わせ等のお客さまの声に対して、お客さまとのコミュニケーションを大切に、「安心」と「喜び」を感じていただけるよう努めてまいります。お客さま起点で考え、行動して、より信頼される企業を目指します。

行動指針

1. お客さまからの声を真摯に受け止め、公平、公正な対応に努め、誠意をもって迅速に行動します。
2. お客さまからいただいた貴重な声を社内で共有し、より良い商品・サービスに活かしてまいります。
3. お客さまに、適切な情報を、積極的に分かりやすく提供するよう努めてまいります。
4. お客さまの権利を尊重し、関連する法規および社員行動規範を遵守いたします。

消費者志向自主宣言

1. 理念

(1) コーポレートスローガン

かがやく“笑顔”のために

(2) 経営理念

乳で培った技術を活かし 私たちならではの商品をお届けすることで 健康で幸せな生活に貢献し 豊かな社会をつくる

(3) 行動指針

- ①お客さまに寄り添い、感動を共有できていますか
- ②感謝の気持ちを持っていますか、伝えていますか
- ③全ての品質に自信が持てますか
- ④本物の安全・安心を追い続けていますか
- ⑤常に挑戦し続けていますか
- ⑥「チーム森永」の輪、築いていますか
- ⑦今、自分も仲間も生き生きしていますか
- ⑧夢を語り合い、未来へ一歩踏み出していますか

2. 取り組み方針

(1) 経営トップのコミットメント

以下のようなトップメッセージをウェブサイトや統合報告書に掲載し、発信しています。

- ①お客さまに満足と共感をいただける価値ある商品、サービスを提供し続けます。
- ②ISO10002に則り、「お客さま満足のための基本方針」並びに「行動指針」を定め、お客さま対応の継続的な改善に積極的に取り組みます。
- ③お客さまのニーズに合った商品、価値を認めてもらえる商品を提供し続けます。

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

● 健康・栄養

● 環境

● 人権

● **供給**

基本的な考え方

体制

KPI

お取引先との品質の取り組み

社内での品質の取り組み

> **お客さまへの対応**

非常時の供給体制の確立

● 次世代育成

● 人財育成

● コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

(2) コーポレート・ガバナンスの確保

- ①お客さま相談受付内容を日々集約し、経営層に届く仕組みを構築しています。
- ②経営層がお客さま対応の状況や課題について確認し、議論を行う場を設けています。

(3) 従業員の積極的活動（企業風土や従業員の意識の醸成）

- ①全従業員にお客さま起点で考え行動するよう、研修を実施し、更なるお客さま起点での活動に取り組んでいきます。
- ②消費生活アドバイザー等の消費生活関連専門資格の取得を奨励していきます。

(4) 社内関連部門の有機的な連携

- ①お客さまの声を吸い上げ、全社的に迅速に共有するシステムを構築していきます。
- ②お客さまの声を分析・解析し、連絡会議等の場を通じて社内ですぐに深く共有していきます。
- ③商品事故が発生、または発生を予見させる兆候が発覚した場合には、経営陣・関連部門へ迅速に連絡する仕組みを構築しています。また、社内の緊急問題処理基準を整備し、それに則って、問題解決にあたります。

(5) 消費者への情報提供の充実・双方向の情報交換

- ①お客さまの選択や使用に役立つ、安全安心や環境等に係る情報をウェブサイト等で掲載します。
- ②商品を安全・安心にご利用いただくために、パッケージへの分かりやすい表記とウェブサイト等様々な手段を通じて、お客さまへの商品情報提供を行います。

(6) 消費者・社会の要望を踏まえた改善・開発

- ①お客さまのご意見、ご要望を商品・サービスの改善に活かした事例をウェブサイト上で定期的に更新して掲載します。
- ②具体的には、容器の素材や形状、表示等を工夫して開封しやすくしたり、持ちやすくしたり、見やすくしたりします。

③乳幼児から高齢者まで、健康・栄養ニーズの高まりに対応した商品の開発を進めます。

④商品の企画・開発段階から、3R（リデュース・リユース・リサイクル）、安全性と使いやすさに配慮した容器包装の開発・改良に努めます。

2017年4月1日

森永乳業株式会社

社長 宮原 道夫



消費者志向自主宣言

▶ https://www.morinagamilk.co.jp/information_morinaga/170116.html

2018年度消費者志向自主宣言 フォローアップ

▶ http://www.morinagamilk.co.jp/archives/005/201810/20180725follow_up.pdf

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方
 編集方針
 会社情報
 コーポレートミッション
 トップコミットメント
 サステナビリティへの取り組みのあゆみ
 森永乳業のCSR
 7つの重要取組課題

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- 供給**

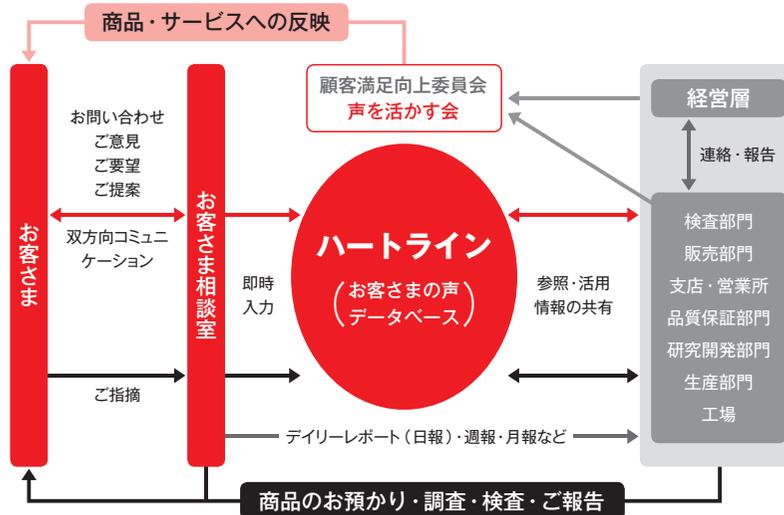
基本的な考え方
 体制
 KPI
 お取引先との品質の取り組み
 社内での品質の取り組み

> **お客さまへの対応**
 非常時の供給体制の確立

- 次世代育成
- 人財育成
- コーポレート・ガバナンス

データ集
 第三者保証
 GRIスタンダード対照表

お客さまの声を活かすシステム



経営層へ声を届ける仕組み

年に3回開催される「顧客満足向上委員会」にて継続的に寄せられるお客さまの声や、お客さまの声を活かした改善事例について、社長をはじめ経営層に提案し議論しています。

また、毎日寄せられるご指摘やご意見などの「お客さまの声」を、デイリーレポートとして社長や経営層、関係部門長へ報告し共有しています。

お客さま相談室

森永乳業は、1972年の「お客さま相談室」開設以来、商品に関するお問い合わせ、ご相談、ご指摘などを全国から承っています。2018年度には、フリーダイヤル、手紙、メールなど合わせて約6万3千件以上の声を頂戴しました。お客さまへの回答が必要な場合は、速やかに関係部署と連携し、迅速かつ誠実な対応に努めています。

お客さまの声を活かす仕組み

森永乳業は「お客さまの声は、貴重な経営資源」と考え、お寄せいただいた声を、当社の「ハートライン（お客さまの声データベース）」に入力し、各従業員が参照して商品やサービスの開発・改良に活かす仕組みを構築しています。2018年度は、「れん乳氷のフタの縁が割れていたり、少し開いていたりすることがあり衛生的に心配。れん乳氷のフタが1回も開いていないか確認できるようにしてほしい」という品質に関するご意見をいただき、キャップ型のフタから、圧着型のフタに変更しました。

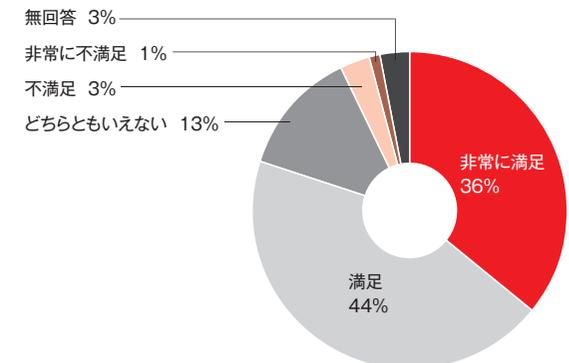


顧客満足度アンケート調査

森永乳業は、「お客さま相談室」にお申し出いただいたお客さまを対象に、1995年から「対応に関する満足度と、そのご意見」についてのアンケート調査を実施しています。「電話対応担当者の対応」、「その後の担当者の対応（訪問含む）」、「今後の森永乳業商品の継続購入の意向」について評価をいただき、その結果をサービスや商品の改善につなげるよう努めています。

2018年は80%のお客さまから、対応に対する総合満足度が「非常に満足・満足」とご回答いただきました。

対応に対する総合満足度



〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- **供給**
 - 基本的な考え方
 - 体制
 - KPI
 - お取引先との品質の取り組み
 - 社内での品質の取り組み
 - > **お客さまへの対応**
 - > **非常時の供給体制の確立**
 - 次世代育成
 - 人財育成
 - コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

顧客満足を高める仕組み（ハートライン研修）

森永乳業では「生のお客さまの声を聞き、感じる」ことで、今後の業務に「顧客志向」を意識し、反映させていくことを目的とした「ハートライン研修」を実施しています。

研修内容は、生のお客さま対応を聞き、お客さまの声を活かすシステムについて学び、お客さまと電話対応しているコミュニケーターと意見交換をしています。

ハートライン研修開催実績

	2015	2016	2017	2018
開催回数(回)	64	62	76	73
参加者数(名)	95	107	143	81



ハートライン研修の様子

キャンペーン自主基準

森永乳業ではお客さま向けキャンペーンを実施するにあたり、お客さまにわかりやすくご理解いただける文言を使用することや書き方の注意などをはじめとする「キャンペーン自主基準」を設けています。

たとえば、事務局への連絡方法の記載をはじめ、ハガキ・インターネットでの応募ごとに注意すべきこと、パッケージへキャンペーンを印刷する場合の印刷の位置など、50項目以上のチェックリストを作成してお客さま目線での確認を徹底しています。

非常時の供給体制の確立

BCP（事業継続計画）

森永乳業グループは、大規模災害などの危機発生時において、社会が求める商品を速やかに判断し、安定供給を復旧・維持するためのBCPを定めています。これは社会公共性の高い食品事業者である当社グループが、緊急時においても重要な事業を中断させない、また中断しても可能な限り短い時間で復旧させ、人々の生活に必要な商品を供給することを目的としています。

これらの実効性を高めるため、災害発生時の安否確認システム構築や訓練、災害用緊急物資の整備、情報システムのバックアップ体制強化など、BCPの見直し・改善に努めています。

森永乳業グループBCPの基本方針

人命の保護：森永乳業グループ従業員およびその家族、ならびにお得意先、近隣社会、関係先、お客さまの人命保護を最優先します。

社会への貢献：食料支援・供給に努めることにより、被災地を含めた社会に貢献します。

事業の継続：従業員の安全に最大限配慮したうえで必要な体制を構築し、お客さま、お得意先および被災地のニーズに応えた当社グループ商品の安定供給に努めます。

〈目次〉

- サステナビリティに関する情報開示の考え方
- 編集方針
- 会社情報
- コーポレートミッション
- トップコミットメント
- サステナビリティへの取り組みのあゆみ
- 森永乳業のCSR
- 7つの重要取組課題
 - 健康・栄養
 - 環境
 - 人権
 - **供給**
 - 基本的な考え方
 - 体制
 - KPI
 - お取引先との品質の取り組み
 - 社内での品質の取り組み
 - お客さまへの対応
- > 非常時の供給体制の確立
 - 次世代育成
 - 人財育成
 - コーポレート・ガバナンス

- データ集
- 第三者保証
- GRIスタンダード対照表

日頃の備え

森永乳業グループでは、地震・火災・台風・洪水などに関して消防計画を作成しています。災害発生時には、指示誘導に従って避難行動をとることとし、定期的な防災訓練でその徹底をはかっています。

防災訓練は、年1回実施しており、避難誘導、消火器操作、負傷者搬送などを行う他、事業所によりAEDの操作訓練も実施し、近隣の消防署の指導を受けて練度を高めています。

生産系事業所（工場）は、消防計画とは別に、「緊急対策業務マニュアル」により、迅速な情報収集や復旧対応を行うことを定めています。年1回の防災訓練の他、防災組織の役割の遂行、消火設備の実地訓練を通して対応力の維持向上をはかるとともに、近隣の消防署と連携、自衛消防隊を編成して地域の大会に参加し操法を高めています。また、建物については耐震化対策を推進していません。

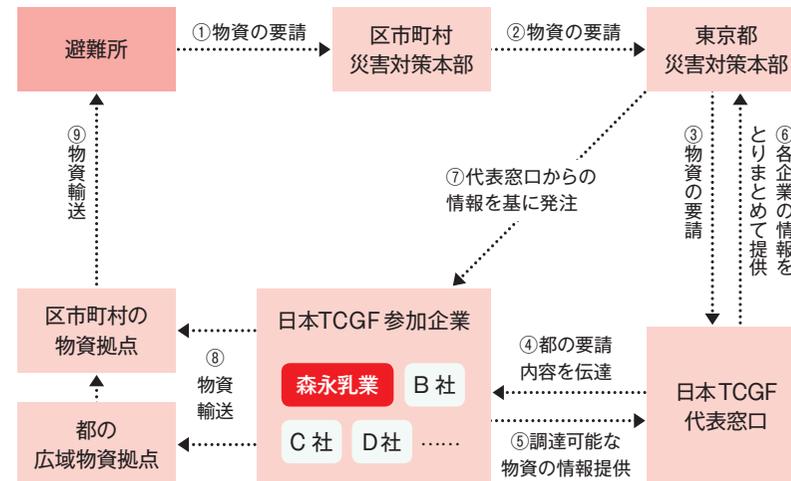


本社での防災訓練の様子

災害発生時の支援体制

森永乳業は、消費財流通業界が主体となって2011年8月に立ち上げた「日本TCGF (The Consumer Goods Forum)」に参加しています。その活動のひとつである「震災対策共有化プロジェクト」では、関係各社と協力し首都直下型地震などの大規模災害時の迅速な支援物資調達体制を構築しています。また、森永乳業は関係省庁や業界団体と連携し、緊急災害時に被災地等へ応急食料として育児用ミルクやロングライフ商品などを供給しています。東日本大震災の発生時には、育児用ミルク8,000缶を日本乳業協会を通じて支援しました。今後もステークホルダーと連携をとりながら災害支援を行っていきます。

東京都との協定*による物資支援体制の概要



*「日本TCGF」と「東京都」との災害時における物資支援協定

〈目次〉

- サステナビリティに関する情報開示の考え方
- 編集方針
- 会社情報
- コーポレートミッション
- トップコミットメント
- サステナビリティへの取り組みのあゆみ
- 森永乳業のCSR
- 7つの重要取組課題
 - 健康・栄養
 - 環境
 - 人権
 - 供給
 - **次世代育成**
 - > 基本的な考え方
 - > 体制
 - > KPI
 - > 森永乳業の次世代育成活動
 - 次世代育成の環境を整える
 - 人財育成
 - コーポレート・ガバナンス
- データ集
- 第三者保証
- GRIスタンダード対照表

次世代育成

基本的な考え方

サステナブルな社会づくりに貢献する子どもたちの健やかな成長を応援します。

森永乳業は社会をつくるのは、「人」であり、「人づくり」は、教育機関だけの仕事ではなく、社会全体が関わらなければならないと考えています。

これからの社会は、急速な情報化、グローバル化に伴い現在の常識の延長にはない社会になることが予想されています。教育面では、学習指導要領も改訂され、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育むことを目指しています。

そのような要望に応えるべく、森永乳業では自社の知見を活かして、次の時代を担う子どもたちを育成するプログラムを用意しました。これからも次世代を応援する企業として次世代育成を応援していきます。

体制

KPIの進捗、確認、報告は年に2回のCSR委員会（委員長：社長）にて行います。また、「重要取組課題：次世代育成」の責任者を関係本部の本部長が担い、KPIの推進責任者を関係部署の部長が担い、PDCAサイクルを回していきます。社内の次世代育成の事務局はCSR推進部が担い、関係部署と連携して推進しています。



KPI

活動の方向性	KPI
健康で豊かな生活の基礎力を獲得するための食文化や栄養を学ぶ場の提供（食育講座、キッズシアター）	2019年から3年間の延べ参加者数：30万人
自然の恵みと、それを活かす技術・研究を学ぶ場の提供（工場見学、森と食の探検隊、キャリア教育）	同上
次世代を育成する環境の整備	エンゼル110番での継続的な育児相談の実施。2020年度で延べ100万人の相談を受け付け

森永乳業の次世代育成活動

工場見学

森永乳業の商品がどのようにつくられているのかを実際にお客さまにご覧いただけるよう、東京多摩工場・中京工場・神戸工場の3工場で行っています。工場見学では、衛生的な製造施設、安全・安心を基本としたものづくりの姿勢など、森永乳業のこだわりを実感いただけます。



〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

●健康・栄養

●環境

●人権

●供給

●次世代育成

基本的な考え方

体制

KPI

▶ 森永乳業の次世代育成活動

次世代育成の環境を整える

●人財育成

●コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

森永リトルエンゼル育成プログラム 森と食の探検隊

「森永リトルエンゼル育成プログラム 森と食の探検隊」は、小学校4～6年生約30名を対象とした、野外教育活動です。自然の中での4泊5日の共同生活で、野菜の収穫体験、酪農、木登り、川遊び、工作、工場見学など、さまざまな「食べる」「創る」「遊ぶ」を通して、仲間たちと協力しながら「生きる上で大切なモノを自ら発見する」ことをめざします。



「キッズニア東京・甲子園」へのパビリオン出展

キッズニアは、子どもたちが憧れの仕事にチャレンジし、楽しみながら社会の仕組みを学ぶことができる「子どもが主役の街」です。リアルな職業・社会体験を通して、未来を生きぬく力を育むことができるというキッズニアの想いに共感し、森永乳業はオフィシャルスポンサーとして2012年からキッズニア東京に、2016年からはキッズニア甲子園にも「ミルクハウス」パビリオンを出展しています。「ミルクハウス」では、ミルクフードマーケターになってお客さまの喜ぶ商品を企画し、完成させます。この仕事を通じて子どもたちに伝えたいことは、①お客さまに新しい「付加価値」を提供する職業の体験・理解、②牛乳・乳製品に親しみを持ってもらうこと、③酪農業界への理解・関心を持つことです。



キャリア教育

小学校向け出前授業

乳で培った技術を活用し、次世代を担う子どもたちが健康で豊かな生活の基礎

力を獲得できるように支援することを目的に、2015年からはじまりました。体づくりに大切な小学生の時期に、身近な食品である牛乳を教材にして、パッケージに掲載されている情報を読み解きながら、毎日給食に牛乳が出る意味を考えるという45分間のプログラムです。

実施実績

	2015	2016	2017	2018
実施回数(回)	1	3	4	5
参加者数(名)	31	80	132	327

中高生向けキャリア教育

子どもたちを取り巻く社会構造や価値観の変容により、望ましい勤労観や職業観の不足が指摘されている中、教育分野の社会的課題の解決に貢献するため、2014年より株式会社トゥワイス・リサーチ・インスティテュートが運営する中・高・大学生を対象としたPBLプログラム(Project Based Learning)に協力しています。

企業が提案する課題に企業の一員となって取り組み、その結果をプレゼンテーションすることで、職業観、勤労観、道徳観の育成など、社会に出たときに必要となる「生きる力」を育むことを目指しています。

当社従業員は学校へ出向く、またはインターネット通信などで参加してアドバイスをを行い、生徒や学生の学びを支援しています。

実施実績

	2015	2016	2017	2018
実施回数(回)	20	23	20	19
参加者数(名)	1,000	1,048	874	774

※企業インターワークは参加企業と選択プログラムの増加に伴い、1社あたりの参加人数が減少

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- 供給
- **次世代育成**
 - 基本的な考え方
 - 体制
 - KPI
 - > 森永乳業の次世代育成活動
 - > **次世代育成の環境を整える**
 - 人財育成
 - コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

ツアーオブバレーボール

元オリンピック選手による技術指導と、当社の商品とサービスを通じて食の大切さを伝えることで、女子中学生アスリートの成長支援につなげることを目的に2016年から全国でバレーボール教室を実施しています。



実施実績

	2016	2017	2018
実施回数(回)	21	22	23
参加者数(名)	2,317	2,277	2,398

次世代育成の環境を整える

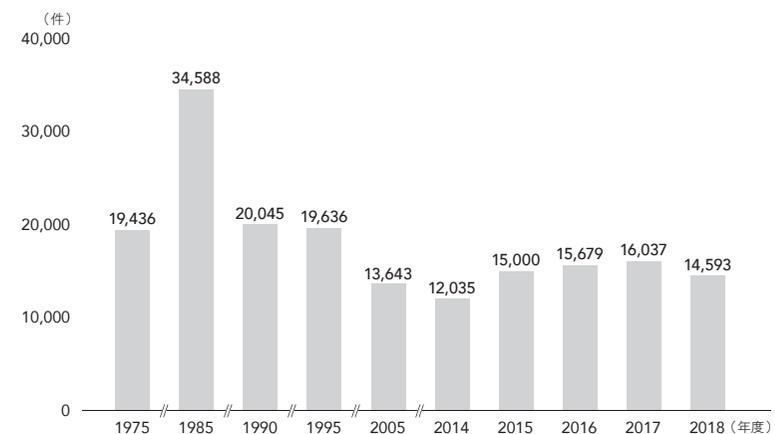
育児に関する無料電話相談 エンゼル110番

1970年代の高度成長期に核家族が急増し育児環境が大きく変化した時代の社会状況を背景に「子育て奮闘中のお母さんたちのお役に立ちたい」という思いから、1975年5月に無料の育児電話相談窓口として開設しました。妊娠中からお子さまが小学校に就学する前までの妊娠・育児に関する相談をお受けしています。これまでにお受けした電話相談は988,318件(2019年3月現在)にのぼります。相談内容は、「何をどれだけ食べさせればよいか」といった“食生活”、「子どもを育てる自信がない」といった“相談者自身”、お子さまの“発育・発達”に関することなど多岐にわたります。

また、地域の子育て応援施設のイベント参加や看護学生の受け入れ、従業員の育児サポートセミナーの開催など電話相談以外の活動にも取り組んでいます。

相談員は、不安・悩み・疑問に耳を傾け、一人ひとりが自分なりに問題を解決できるよう一緒に考え、相談者の不安を取り除くことを基本姿勢としています。これからも妊娠・育児に奮闘する皆さまのサポーターとしてお役に立ちたいと考えています。

「エンゼル110番」相談件数





〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- 供給
- 次世代育成

● **人財育成**

> 基本的な考え方

> 体制

KPI

事業を支える人財を育成するための制度
健康経営の実践

- コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

人財育成

基本的な考え方

「かがやく“笑顔”」を実現する人財の育成に力を入れていきます。

森永乳業は、100年を超える歴史を通して、品質にこだわるよき企業風土を培ってきました。これからの100年に向け、築きあげてきたものを大切にしながら、従業員が活き活きと、一丸となって挑戦しつづける企業風土をこれからも創造していきます。

挑戦しつづける企業風土を育むためには、従業員一人ひとりが自らの能力を高めていくことが不可欠です。自ら課題を設定して行動し、成果へとつなげる人財、すなわち「自律型人財」であることが求められています。

持続可能な成長をめざす企業として従業員一人ひとりが「自ら育つ」という意識を持つと同時に、会社は将来を担う人財を育成する責務を負っているという認識が大切です。さまざまな職場で人を育てる文化が根付き、育成のサイクルが永続的に回っていく。それが、森永乳業が理想とする人財育成です。

人財育成の考え方

- ・ 経営理念や行動指針に基づき、自らの役割と責任を認識し、革新や変革に果敢に挑戦できる人財を育成する。
- ・ 将来を担う中核となる人財を、計画的に育成する。
- ・ 多様性を尊重し、他者と連携し組織に貢献できる人財を育成する。
- ・ 従業員は、自らの成長に対して、主体的・自律的であることを基本とし、会社は、従業員が成長するための機会を付与する。
- ・ 人財を育成する責任を有する上司や先輩の育成指導力の向上を図る。

体制

KPIの進捗、確認、報告は年に2回のCSR委員会（委員長：社長）にて行います。また、「重要取組課題：人財育成」の責任者を関係本部の本部長が担い、KPIの推進責任者を関係部署の部長が担い、PDCAサイクルを回していきます。また、人財育成の主管部署として、人財部を中心に生産本部、営業本部と協力・連携して推進しています。

森永乳業の人財育成は、実務を通じて専門的な知識やスキルを身に付け、さまざまな経験を得ながら業務遂行能力を向上させていく「OJT」を中軸としています。実務を通じて、経験を積み重ねていく中で、先輩や上司から指導やフィードバックを受けながら、技術や技能を磨いていきます。

また、実務を離れて学習することも成長には不可欠です。階層別の集合研修やダイバーシティ支援プログラムなどの「Off-JTプログラム」や、通信教育やeラーニング、ビジネススクールといった自らの意思により自己研鑽を行うための「自己啓発支援」といった、従業員が学習する機会を用意しています。

「OJT」、「Off-JTプログラム」、「自己啓発の支援」の3つを組み合わせ、従業員一人ひとりが主体的に自らを成長させ、革新や変革にチャレンジしていく風土を目指しています。

なお、「Off-JTプログラム」や「自己啓発の支援」の具体的な取組項目は、「年間人財育成計画」として育成体系を毎年見直ししながら、各種育成プログラムの立案と実行を行っています。

さらには、専門性向上をめざす教育は、各部門が担っています。生産技術の伝承を目的に生産本部が主体の「森永ミルク大学」や、営業スキルの向上を目指した営業本部が主体の「森永セールス大学」等で教育を行っています。

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

●健康・栄養

●環境

●人権

●供給

●次世代育成

●**人財育成**

基本的な考え方

> 体制

> KPI

> **事業を支える人財を育成するための制度**

健康経営の実践

●コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

人財育成体系

	1年目 若手社員	2年目 若手社員	3年目	4年目 中堅社員	5年目~	10年目~	15年目~ マネジメント層	20年以上
階層別教育	新入社員 研修	2年目 フォロー 研修	3年目 レベルアップ 研修		主事 昇格者 研修	プレ・ マネジメント 研修	マネジメント 昇格者研修	各種 経営層 研修
	若手社員メンター研修				人財マネジメント研修			
自己啓発支援 プログラム	e-ラーニングライブラリ							
	通信教育							
	講座型社外ビジネススクール研修(異業種交流)				国内大学院 MBA 派遣			
職場教育支援	「学びサポート」による学習費用支援							
ダイバーシティ 支援プログラム					女性リーダー研修		仕事×子育てパワーアップセミナー	
					ライフプランセミナー			
					イントロダクション・プログラム(キャリア採用者向け導入プログラム)			
グローバル 人財育成 プログラム	海外異文化体験チャレンジ研修(選抜)				グローバルビジネス実践力強化プログラム(選抜)			
	海外トレーニング制度(選抜)				オンライン英会話(費用補助)/社内語学教室(英語)			
	TOEIC受験・奨励金制度				短期海外語学スクール派遣(英語)			
	e-ラーニングライブラリ				語学			

KPI

活動の方向性	KPI
経営理念の浸透	従業員公募型フォーラムの毎年開催
ダイバーシティ推進による、従業員一人ひとりの自律的な成長促進	女性リーダー研修 仕事と子育ての両立を促す研修 プレマネジメント研修の継続的な実施と、若手従業員の 人財部による面談実施
グローバルなビジネス環境で活躍できる人財の育成	グローバル人財育成プログラムの推進
健康経営の実践を通じた人財の育成	健康診断の2次検診・再検査受診率の向上: 80% (2023年) メンタルヘルス教育の受講率: 100% (2023年)

事業を支える人財を育成するための制度

経営理念浸透

森永乳業は2017年に創業100周年を迎え、新しい100年に向けて森永乳業グループの新経営理念体系・スローガンを策定しました。

これらが私たちのすべての活動の基礎になっていくためには、従業員が経営理念を理解し、自分事として業務に落とし込んでいくことが重要と考え、経営理念が浸透するよう、さまざまな施策を実施しています。

活き活きサーベイ

活き活きサーベイとは、「従業員が活き活きと働く企業風土」を実現するために、業務への意欲の向上や組織風土活性化に影響を与える主要要因を把握し、明らかになった課題をより効果的な組織風土改善活動や人事諸施策の立案につなげるためのアンケート調査です。

森永乳業が雇用する従業員、森永乳業への出向受入者、森永乳業で勤務する派遣従業員、関係会社が雇用する従業員など、森永乳業に関係する方々を対象として、年に1回実施しています。調査結果は、全社および組織ごとの結果を担当役員および事業所長、組織長へフィードバックしています。結果は組織の状況を把握する貴重なデータであるため、事業所内の活性化のために必ず事業所内で共有するようにしています。

フィードバックが完了した事業所は「職場ワークショップ」を実施し、職場の活性化を推進しています。

「活き活き」実感値(設問:私は活き活きと働けている)

	2016	2017	2018
「活き活き」実感値	4.81	4.91	4.86

※正規従業員からの回答結果

※点数は、6.0以上が理想的な状態、4.0以下は改善が必要な状態

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- 供給
- 次世代育成
- 人財育成**
 - 基本的な考え方
 - 体制
 - KPI

> 事業を支える人財を育成するための制度
健康経営の実践

- コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

夢共創フォーラム

森永乳業グループ全体での理念経営を目指し、企業理念と行動指針への理解を深め、一体感を醸成するため、年に1回夢共創フォーラムを実施しています。毎回開催テーマを変えており、2016年度は「新たな企業理念および行動指針を策定する」として企業理念の策定そのものをワークショップとして開催しました。2017年度は「理念の実現にむけて、行動指針を業務へと具現化する」、2018年度は「理念と行動指針のさらなる社内浸透をはかるため、組織の課題やその改善活動について話し合う」として、毎年100名を超える従業員が参加しています。

参加者からは、「行動指針の実践が、チーム作りに与える効果を体験できた。相互理解が深まり、尊重し合えると感じた。ぜひ職場でも行動してみたいという気持ちになった」「参加前は、全体的に『職場をよくしたいが、自分の力では難しいのかも』という雰囲気があったが、最後には『同じ気持ちを持つ者同士が集まれば変化が起こせるかもしれない』と感ずることができた」などの感想があがりました。

管理職ワークショップ・職場分科会

企業理念に基づく職場の「ありたい姿」を描き、メンバーを牽引できる人財を育成するとともに、各職場での自律的な課題解決につなげることを目的に、「管理職ワークショップ」「職場分科会」を開催しています。管理職ワークショップでは、毎年50名以上の管理職が参加し、メンバーの育成について議論しています。職場分科会では、職場で経営理念をどのように実践していくかを管理職とメンバーと一緒に検討しています。

参加者からは、「各組織が抱える悩みの解決策を考えることで自身の思考が広がり、自部門の課題解決のきっかけを得られた」「マネジメント経験の浅い方から経験のある方まで幅広い層が参加していて、自分にはない視点や考え方に触れることができ大変よい経験となった」などの感想があがりました。

自律的な成長の促進

人財マネジメント制度

森永乳業では、人材は「人的な財産＝人財」と考え、一人ひとりが「能力をフルに発揮して働く」ことを目指し、環境整備をしています。

2007年に、全従業員を対象とした「新人財マネジメント制度」をスタートさせました。この制度では従業員の「自律性」、評価に対する「納得性」、評価の「公平性」を高め、従業員のモチベーションおよび能力の向上を目指しています。具体的には、目標管理制度を導入し、上司と部下の定期的なコミュニケーション面談の中で、目標および難易度の設定や、目標の進捗や行動・能力に関する評価を行い、都度フィードバックをしています。

ダイバーシティ支援プログラム

ダイバーシティ推進の一環として、従業員の多様な働き方を支援する研修・セミナーを各種用意しています。

「女性リーダー研修」は、女性が多様なライフイベントを迎えながらキャリアを考える中で、既成概念に囚われずに自分なりのマネジメントスタイルを築きあげるための研修で、年に1回開催しています。

「仕事×子育てパワーアップセミナー」は、限られた時間の中で質・量ともに実りある仕事の成果を出し、モチベーション高く仕事に向き合える自分のワークスタイルを身につけてもらうセミナーで年に1回開催しています。2016年から累計70名近い従業員が受講しています。

女性リーダー研修参加者数

	2013	2014	2015	2016	2017	2018
参加者数(名)	17	13	17	18	29	24

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- 供給
- 次世代育成
- **人財育成**
 - 基本的な考え方
 - 体制
 - KPI

> 事業を支える人財を育成するための制度

健康経営の実践

- コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

森永ミルク大学

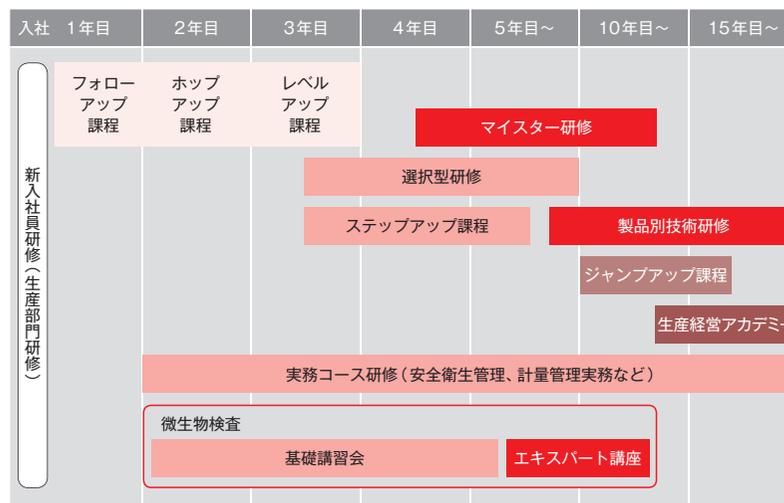
森永ミルク大学は「技術・技能の伝承」「品質技術の維持向上」を目的とする生産部門の社内教育機関として、さまざまな従業員教育を行っています。入社1年目から3年目までの技術系の従業員全員を対象に、安全対策や乳業技術の基礎知識習得を目的として、「フォローアップ課程」「ホップアップ課程」「レベルアップ課程」を実施しています。

その後は選抜型として「ステップアップ課程（製品カテゴリー別研修）」、「ジャンプアップ課程（職場責任者の育成）」「マイスター研修（技術レベルと技能レベル向上）」を実施し、若手技術者育成の一助となっています。

また実務コース研修としては、各種要素技術に対して専門家育成の研修があります。

原料や製品の内容量を正確に管理する技術者育成を目的とした「計量管理実務者研修」や、微生物検査の技術・技能の向上を目的とした「微生物エキスパート講座」など、その他多数の講座があります。これにより各種専門家を育成することで、品質の維持向上に努めています。

研修体系



研修受講者数(名)

研修名称と目的	2015	2016	2017	2018
フォローアップ課程 基礎技術・技能の習得(2018年から設定)	-	-	-	165
ホップアップ課程 基礎技術・技能を習得し、業務遂行力の強化をはかる(2017年までは入社3年目も含む)	48	53	111	103
レベルアップ課程 基礎技術・技能を習得し、業務遂行力の強化をはかる(2018年から設定)	-	-	-	93
ステップアップ課程 製品カテゴリー別にトラブル未然防止のための条件を設定できる人財を育成する(2018年から選抜研修とする)	98	98	111	56
ジャンプアップ課程 自分の期待役割、あるべき姿の自覚を促し職場責任者を育成する	30	33	33	32
合計	176	184	255	449

〈目次〉

- サステナビリティに関する情報開示の考え方
- 編集方針
- 会社情報
- コーポレートミッション
- トップコミットメント
- サステナビリティへの取り組みのあゆみ
- 森永乳業のCSR
- 7つの重要取組課題
 - 健康・栄養
 - 環境
 - 人権
 - 供給
 - 次世代育成
 - 人財育成**
 - 基本的な考え方
 - 体制
 - KPI
- > 事業を支える人財を育成するための制度
 - 健康経営の実践
 - コーポレート・ガバナンス

- データ集
- 第三者保証
- GRIスタンダード対照表

グローバル人財育成

森永乳業は自社の持続的成長のため、今後10年をかけて海外事業の育成・成長に力を入れていきます。そのため経営資源の投入はもちろんのこと、英語を話せるだけでなく、日本人以外（＝自分とバックグラウンドや価値観が異なる人）と人間関係を構築し、自分の要望を正確に相手に伝え、相手と合意形成しビジネスを推進していくスキルをもった人財の育成を推進しています。

グローバルビジネス実践力強化プログラム

異文化理解に代表されるグローバルマインドセットに上乘せするスキルとして、英語でのビジネスコミュニケーションに必要な“グローバルビジネス実践力[※]”の強化を目的として、「英語で言いたいことを、ロジカルに、積極的に伝えられる」ことを目指して2017年より始めました。4～5カ月程度をかけて実施する本プログラムでは、選抜されたメンバーが開始時と終了時にビジネスシミュレーションを行い、会議での発言・交渉・プレゼンテーション等のスキルを測定・点数化しフィードバックを受けます。プログラム期間中はグローバルビジネスにおけるテクニックを学ぶインプット研修の受講に加え、グループレッスンを通じてスキルアップを目指します。

※グローバルビジネス実践力（森永乳業の定義）
日本人以外（＝自分とバックグラウンドや価値観が異なる人）と人間関係を構築し、自分の要望を正確に相手に伝え、相手と合意形成しビジネスを推進していくスキル。

プログラム参加者数

	2017	2018
参加者数（名）	8	8

海外トレーニー制度

将来の駐在に備え、若手従業員に海外での就労および生活の経験を付与する制度です。キャリアの比較的早い段階で経験することで、将来海外駐在員として赴任した際に、極力短い順応期間で能力を発揮できるように備えることを目的としています。赴任期間は2年以内であり、この間に「周囲の人を巻き込み、ビジネス上の成果を出せるようになること」を目指しています。

Topics

海外トレーニー制度参加者のコメント：柴田社員

私は、海外トレーニー制度の第1号として、シンガポールにある乳原料やビフィズス菌株等を販売している会社である「Morinaga Nutritional Foods (Asia Pacific) Pte. Ltd.」に2018年6月から勤務しています。現地では、セールス・マーケティングとして新規食品素材を担当しています。海外での新市場開拓は、各国の味覚の違いや文化的背景を考慮する必要があり、なかなか一筋縄ではいきません。トレーニーとして仕事をする中で、海外での市場の考え方やビジネスの進め方、限られた時間の中で周りを巻き込みながら成果をあげる姿勢などを日々学んでいます。海外を含めどのような環境下でも即戦力になれるよう、引き続き多くのことを吸収していきたいです。海外で働いてみて重要だと感じたことは、さまざまなバックグラウンドがある人がいることを理解し、その上で相手を尊重し、理解しようとする事です。そして、具体的な数値を用いるなど、相手に視点を合わせて話をすることが大切だと感じました。また、過去に取り組んだ経験が無いことでも進んでやってみると、海外ではいろいろなチャンスがあると感じています。

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

●健康・栄養

●環境

●人権

●供給

●次世代育成

●**人財育成**

基本的な考え方

体制

KPI

事業を支える人財を育成するための制度

> **健康経営の実践**

●コーポレート・ガバナンス

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

健康経営の実践

森永乳業グループの経営理念である「乳で培った技術を活かし、私たちならではの商品をお届けすることで、健康で幸せな生活に貢献し豊かな社会をつくる」を実現するために、まずは従業員自らが健康であることを目指して、「森永乳業健康宣言」を発信しました。

森永乳業はこの宣言のもと、「森永乳業健康経営プログラム」を進めており、フィジカルケア、メンタルケア双方の観点において、予防、治療、再発予防の取り組みを進め、従業員のさらなる健康増進活動を推進していきます。

また、健康の基盤となる安全に業務を遂行できる環境づくりを確保することを定めた「安全衛生基本方針」を策定し、公開・周知しています。

森永乳業 健康宣言

森永乳業グループの経営理念は「乳で培った技術を活かし、私たちならではの商品をお届けすることで、健康で幸せな生活に貢献し豊かな社会をつくる」です。この経営理念は社員の皆さんの日々の努力があってこそ実現できるものですが、人々の健康に貢献するために、まず私たちが健康でなくてはなりません。

森永乳業は人々の健康に貢献する企業として、当社で働く社員の皆さんの健康を大切な資産と考え、健康の維持・増進に向けて健康づくりの取り組みを強化し、積極的に取り組む事を宣言します。

具体的には、フィジカルケア、メンタルケアといった2つの観点から、疾病の発症予防、治療、再発予防に関する取り組みを行う『森永乳業健康経営プログラム』を進めています。

プログラムへの参加者は、役員も含む全社員です。健康づくりの主役は自分自身であり、自らの健康は自分でつくるのが基本です。会社はその支援を積極的に行っていきます。

健康であることは、何にも代えがたい「宝」です。

健康であるからこそ私生活を充実させることができ、生き活きと仕事にまい進することができます。

社員の皆さんは会社の支援を積極的に利用しながら、個人の自己責任において、健康の保持、増進に努めてください。社員全員が健康で、生き活きと働くことができるよう、皆で取り組んでいきましょう。

2017年8月1日

森永乳業株式会社

社長 宮原 道夫

森永乳業グループ 安全衛生基本方針

森永乳業グループは、安全衛生は企業経営と企業存立の基盤であり、従業員の協力の下に安全衛生を確保することが経営者の最も重要な責務であると認識し、安全で働きやすい職場環境を確保するよう活動します。

<基本方針>

1. 安全衛生活動を従業員全員で取り組み、「安全第一」、「労災ゼロ」を目指して行動します。
2. 「決められたルールを必ず守る」風土や環境づくりを進め、安全衛生法並びに関係法令や社内規定を遵守します。
3. 心身共に働きやすい労働環境づくりを推進し、産業医と連携して定期健康診断や健康指導を行い従業員の健康づくりと健康増進を図ります。
4. 特に生産部門については以下の安全衛生活動に取り組みます。
 - ① リスクアセスメントによる潜在的な危険性や有害性の除去と低減対策の実施
 - ② 定常、非定常作業における作業標準の整備と従業員への周知及びルール遵守

〈目次〉

- サステナビリティに関する情報開示の考え方
- 編集方針
- 会社情報
- コーポレートミッション
- トップコミットメント
- サステナビリティへの取り組みのあゆみ
- 森永乳業のCSR
- 7つの重要取組課題
 - 健康・栄養
 - 環境
 - 人権
 - 供給
 - 次世代育成
 - **人財育成**
 - 基本的な考え方
 - 体制
 - KPI
 - 事業を支える人財を育成するための制度
- > **健康経営の実践**
 - コーポレート・ガバナンス

- データ集
- 第三者保証
- GRIスタンダード対照表

- ③労働災害の情報共有による再発防止と類似災害の防止活動の推進
特に、「挟まれ巻込まれ」、「転倒」、「火傷」型事故の完全撲滅に向けた、過去の災害教訓に基づく再発防止策の実施
- ④継続的な安全衛生水準の向上に向けた、安全衛生監査（本監査と内部監査）の実施
- ⑤安全知識と安全意識の向上に向けた、安全衛生教育・訓練の実施
- ⑥従業員全員による「ご安全に！」活動の推進

2017年8月1日
森永乳業株式会社
社長 宮原 道夫

フィジカルケア

- ・30歳以上の人間ドック受診率向上のための受診費用補助
- ・20歳代女性の子宮頸がん検診受診率向上のための郵送検診の実施
- ・健康診断2次検診および再検査受診率の向上のため、健康保険組合と健診結果データを共同利用し、健康保険組合による保健指導の他に、会社の産業保健スタッフ（保健師）、事業所健康管理責任者による健康ハイリスク者管理、受診勧奨を行っています。

メンタルケア

事業所ごとに、精神科産業医等によるメンタルヘルス研修を実施している他、管理職向けのラインケア教育（e-ラーニング）を実施しています。

治療と仕事の両立支援策

継続的な治療が必要な従業員が安心して働きつづけられるよう、仕事と療養の両立のための「時差勤務」「短時間勤務（勤務時間を最大2時間短縮）」「短日（週4日）勤務」を制度化しています。

また、休業からの復帰支援策として、以下のプログラムを実施しています。

- ・休業からの復帰時に、短時間ならし勤務を含む「復職支援プログラム」を標準制度化
- ・復職後、定期的な産業医面談（原則6カ月間）を実施

〈目次〉

- サステナビリティに関する情報開示の考え方
- 編集方針
- 会社情報
- コーポレートミッション
- トップコミットメント
- サステナビリティへの取り組みのあゆみ
- 森永乳業のCSR
- 7つの重要取組課題
 - 健康・栄養
 - 環境
 - 人権
 - 供給
 - 次世代育成
 - 人財育成
 - **コーポレート・ガバナンス**
- > コーポレート・ガバナンス
- > **コンプライアンス**
 - 情報セキュリティ

- データ集
- 第三者保証
- GRIスタンダード対照表

コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスについては、コーポレート・ガバナンス報告書および統合報告書にて開示しています。

WEB	コーポレート・ガバナンス報告書 ▶ https://www.morinagamilk.co.jp/ir/management/governance.html
	統合報告書 ▶ https://www.morinagamilk.co.jp/ir/library/annual.html

基本的な考え方

持続的な成長と企業価値の向上の実現に向けて、実効性の高いガバナンス体制の整備および充実に継続的に取り組みます。

KPI

活動の方向性	KPI
取締役会における、多様な価値観に基づいた、透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定	取締役会評価における評価点およびコメントの内容（取締役会の多様性、審議内容）
マネジメント体制の強化	各種定例委員会（人事報酬委員会、内部統制委員会、CSR委員会）の充実

コンプライアンス

基本的な考え方

行動規範に則り、取締役および使用人が、法令および定款、社規社則、社会倫理の遵守を企業活動の前提として、経営理念の実現に向けて職務を遂行することを徹底しています。

コンプライアンス行動基準

森永乳業グループでは、全役員・全従業員がコンプライアンスを日々実践する上での具体的な行動基準を「アクションチェック5カ条」「私たちの勇気」として明示しています。これらの行動基準はコンプライアンスカードとしてまとめられ、全員が携行し、日々の業務において自らに問いかけることを徹底しています。全員がその内容を十分に理解し行動することで、「社会から信頼される森永乳業グループ」になることをめざしています。

【アクションチェック5カ条】

今、自分がやろうとしていることは、

1. 法令に違反していないか？
2. 社会的に非難されないか？
3. 家族や友人、知人に知られても恥ずかしくないか？
4. 森永乳業グループ全体の信用やブランドに傷がつかないか？
5. 自分の良心に背いていないか？

【私たちの勇気】

1. 上司の命令でも断る勇気
2. 隠さない勇気
3. 見て見ぬふりをしない勇気

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- 供給
- 次世代育成
- 人財育成

● **コーポレート・ガバナンス**

コーポレート・ガバナンス

- > **コンプライアンス**
- 情報セキュリティ

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

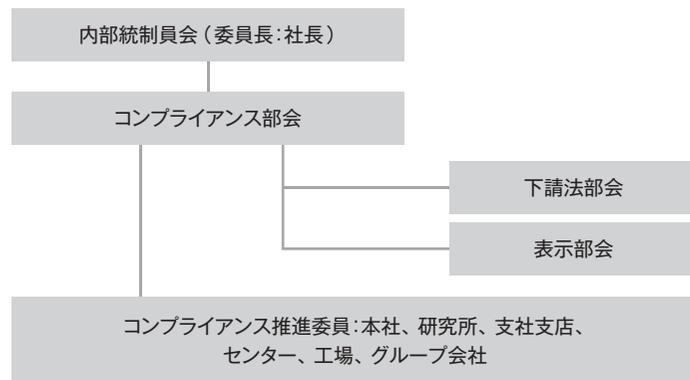
体制

森永乳業グループでは、社長を委員長とする「内部統制委員会」を組織し、下部組織として「コンプライアンス部会」「リスク管理部会」「財務報告部会」および「情報セキュリティ部会」の4部会を設置し、グループ全体の内部統制をはかるとともに、監査を支える体制の整備にも努めています。

コンプライアンスの推進は、主にコンプライアンス部会を中心に実施され、コンプライアンス活動方針の決定、活動の指示、確認が行われます。

また、組織（本社各部、事業所、グループ会社）ごとにコンプライアンス推進委員を配置し、活動を推進する他、相談窓口として組織内の対応にあたり、必要に応じて内部通報制度への橋渡しを行います。

コンプライアンス推進体制



コンプライアンス意識の浸透

コンプライアンス意識の浸透・定着のために、森永乳業グループでは、階層別研修、グループ会社を含む組織別研修、e-ラーニングを実施しています。

コンプライアンス研修

コンプライアンス理解の他、経営理念、意識と行動、マナー・モラル違反、内部通報制度、ハラスメント、交通法規違反、情報漏洩、過重労働、反社勢力対応、メンタルヘルス、表示問題、下請法違反行為など、幅広い項目を取り扱っています。

対象：階層別研修（新入社員、主事・管理職昇格者、キャリア採用者、事務責任者、グループ新任役員）、事業所別研修・グループ会社別研修では組織の関係者（従業員、派遣社員、パートおよび協力会社従業員など職場を同じにする人々）等

コンプライアンス研修実施状況（森永乳業グループ）

	2015	2016	2017	2018
受講者数(名)	2,764	3,985	4,984	5,151

e-ラーニング

対象者と受講内容

森永乳業グループ従業員	短編のe-ラーニング「コンプライアンス教室」
主事昇格者	「企業倫理・コンプライアンス基本コース」
管理職昇格者	「労務管理基本シリーズ」「職場のパワー・ハラスメント」
グループ会社の取締役・管理職	「企業倫理・コンプライアンス基本コース」「セクシュアル・ハラスメント防止コース」「パワー・ハラスメント防止コース」「マネジャーのための職場のメンタルヘルスケア基本コース」「労務管理の基本的な考え方編」「労務管理と職場環境づくり編」「ビジネス・コーチング基本コース」

全グループ従業員対象のe-ラーニング実施状況（2018年度）

	4月	6月	8月	1月
受講者数(名)	5,985	5,408	5,751	5,949
修了率(%)	80	73	77	80

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- 供給
- 次世代育成
- 人財育成

● **コーポレート・ガバナンス**

コーポレート・ガバナンス

> **コンプライアンス**

> **情報セキュリティ**

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

コンプライアンス相談窓口「森乳ヘルプライン（内部通報制度）」

森永乳業グループでは、従業員がコンプライアンスに関する相談をする際の窓口として「森乳ヘルプライン」を設けています。森乳ヘルプラインは、社内相談窓口に加えて、弁護士を情報受領者とする社外相談窓口も設置しています。相談者の氏名、所属、相談内容などは法律や社内規程で守られているので、従業員はだれでも安心して相談をすることができます。不適切な状況については対象部門に通知と改善指示を行い、その後相談者にその改善の確認を行います。通報者自身の業務に関する相談や質問については、必要により弁護士の見解も含め、対処方法などをアドバイスします。

また、コンプライアンス部会へは、四半期毎にヘルプラインの状況を報告し、必要な社内体制の整備を行っています。

「森乳ヘルプライン」相談件数

	2015	2016	2017	2018
相談件数全体（件）	33	53	46	44

情報セキュリティ

基本的な考え方

森永乳業グループは、保有するすべての情報資産に対して、機密性、完全性、可用性を維持・管理し、積極的な活用を行うことで業績の向上を目指すことを基本的な考え方としており、全役員、従業員などに周知しています。

また、外部環境の変化への対応および情報セキュリティ管理をより確実にするため、関係する規程類を取り決め、適宜、見直しています。

体制

森永乳業グループでは、社長を委員長とした内部統制委員会を組織し、下部組織として「情報セキュリティ部会」を設置しています。当社グループの情報セキュリティに関する課題を明らかにし、その対応策の立案と実行および監査を主導することを目的に、月1回開催されています。情報セキュリティ部会では、確実な情報セキュリティ対策を行うための対策案を立案し、実行をしています。

社内の各部門およびグループ会社においては、各組織長が情報セキュリティについて責任を負っています。

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- 供給
- 次世代育成
- 人財育成
- **コーポレート・ガバナンス**
 - コーポレート・ガバナンス
 - コンプライアンス

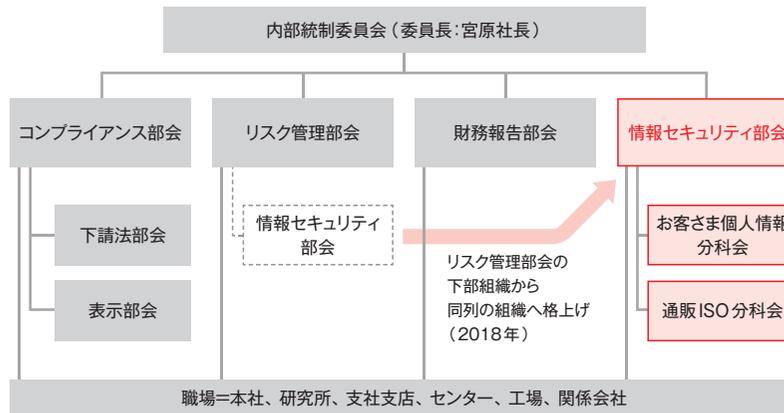
> **情報セキュリティ**

データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

情報セキュリティ体制



情報セキュリティ対策

情報セキュリティに関する重大インシデントの発生

2018年4月に森永乳業グループの通販サイトのサーバーに外部から不正アクセスが行われ、カード情報およびカード情報以外の個人情報の流出が確認されました。本件は第三者機関に調査を依頼し、対策を講じています。多くのお客さまに多大なるご迷惑をおかけする事態になりましたことを、深くお詫びいたします。

WEB 健康食品通販サイトにおけるお客さま情報の流出に関するお詫びと調査結果のお知らせ
 ▶ <https://www.morinagamilk.co.jp/release/newsentry-2899.html>

情報の流出などインシデント発生時の対応

情報流出などのインシデントが確認された場合、緊急問題処理基準に則り、迅速な対応をとってまいります。

インシデント発生時は、社長を本部長とする対策本部の設置や、全役員と関係部署への速やかな情報の周知を行うとともに、緊急問題の解決にあたります。

また、調査の結果、委託先や従業員等の法令違反が確認された場合には、制裁解雇や刑事告発、民事責任の追及等の対応を行います。

情報セキュリティ対策の取り組み

森永乳業では重大インシデントの発生を受け、不正アクセス対策を優先的に進めています。

技術的・物理的対策だけではなく、セキュリティ基準（ルール）の見直しや脆弱性対応のさらなる強化など、体制面でも継続的に対策を行っています。

なお、年々高度化するサイバー攻撃への対策として、全従業員に標準的な攻撃メール訓練、デバイスなどの情報機器のウイルス対策の徹底などを実施しています。

情報セキュリティ管理に関する教育

標的型メール訓練、全社向けのセキュリティ説明会、コンプライアンス研修内での情報セキュリティの知識の普及を行い、森永乳業グループ従業員の情報セキュリティの知識向上を目指しています。

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- 供給
- 次世代育成
- 人財育成
- コーポレート・ガバナンス

〉 データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

データ集

人財関連

各年度末時点の従業員数

	単位	2015	2016	2017	2018
連結従業員数*	名	5,602	5,771	5,987	6,157
単体従業員数	名	3,023	3,035	3,144	3,247

※森永乳業株式会社、森永乳業販売株式会社、東北森永乳業株式会社、株式会社フジレポート、広島森永乳業株式会社、エムケーチーズ株式会社、株式会社クリニコ、株式会社東京デリー、株式会社リザンコーポレーション、森永北陸乳業株式会社、株式会社トワテクノ、株式会社森乳サンワールド、株式会社シェフォーレ、森永酪農販売株式会社、東洋酪農株式会社、森永乳業北海道株式会社、森永乳業九州株式会社、株式会社ナポリアイスクリーム、十勝浦幌森永乳業株式会社、ミライ GmbH、MILEI Plus GmbH、MILEI Protein GmbH & Co.KG、森永ニュートリショナルフーズ Inc.、パンフィック・ニュートリショナルフーズ Inc.、日本製乳株式会社、富士森永乳業株式会社、沖縄森永乳業株式会社、熊本森永乳業株式会社、横浜森永乳業株式会社、森永エンジニアリング株式会社、北海道保証牛乳株式会社、株式会社サンフコ、エム・エム・プロパティ・ファンディング株式会社

各年度末時点の男女別従業員数（森永乳業のみ）

	単位	2015	2016	2017	2018
男性	名	2,444	2,455	2,556	2,629
女性	名	579	580	588	618
合計	名	3,023	3,035	3,144	3,247

※正規従業員のみ

正規従業員の男女別新規雇用者数（森永乳業のみ）

	単位	2015	2016	2017	2018
男性	名	47	47	98	103
女性	名	17	17	29	42
合計	名	64	64	127	145

※新卒入社者のみ

離職者数と離職率（定年退職含む／森永乳業のみ）

	単位	2015	2016	2017	2018
離職者数	名	127	107	99	85
離職率	%	3.5	3.0	2.7	2.3

障がい者雇用者数と雇用率（森永乳業のみ）

	単位	2015	2016	2017	2018
障がい者雇用者数	名	84	84	89	94
雇用率	%	2.18	2.14	2.22	2.20

女性管理職比率（森永乳業のみ）

	単位	2015	2016	2017	2018
女性管理職比率	%	4.2	4.5	4.5	4.8

シニア（60歳以上）の再雇用者数と再雇用率（森永乳業のみ）

	単位	2015	2016	2017	2018
再雇用者数	名	45	50	36	30
再雇用率	%	91.8	96.2	87.8	96.8

男女別育児休暇取得者数（森永乳業のみ）

	単位	2015	2016	2017	2018
男性	名	9	14	18	27
女性	名	32	37	49	54
合計	名	41	51	67	81

男女別育児休暇からの復帰率（森永乳業のみ）

	単位	2015	2016	2017	2018
男性	%	100.0	100.0	100.0	100.0
女性	%	97.0	94.6	100.0	100.0

総労働時間数と平均有給休暇取得日数（森永乳業のみ）

	単位	2015	2016	2017	2018
総労働時間数	時間	1,974	1,965	1,965	1,974
取得日数	日	11.6	12.0	12.2	12.0

※総労働時間数は組合員のみ

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- 供給
- 次世代育成
- 人財育成
- コーポレート・ガバナンス

〉 データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

リターンジョブでの採用者数（森永乳業のみ）

	単位	2015	2016	2017	2018
採用者数	名	1	3	0	1

基本給と報酬総額の男女比（森永乳業のみ）

非公開

従業員 1 人あたりの年間研修時間と研修コスト（森永乳業のみ）

非公開

ダイバーシティ&インクルージョンの目標指標と実績（森永乳業のみ）

目標項目	単位	2017	2018	2027 目標
働き方				
在宅勤務・サテライト勤務制度の利用者数	名	67	205	1,000
年次有給休暇取得率	%	62.8	64.9	85
性別役割分担意識の排除				
新卒採用時の女性比率*	%	40.0	44.9	50
女性管理職数	名	38	42	100
配偶者出産休暇取得率	%	68.0	76.5 (124名取得)	100
男性育児休業取得率	%	9.3	16.7 (27名取得)	100
介護支援				
介護による離職者数	名	6	0	0

※事務営業職と研究開発職の合計

環境関連

* : 第三者保証を受けた実績には「*」を付記しています

** : 「**」を付記した実績の集計対象範囲は次の通りです。森永乳業株式会社の生産事業所、北海道保証牛乳株式会社、十勝浦幌森永乳業株式会社、日本製乳株式会社、横浜森永乳業株式会社、富士森永乳業株式会社、森永北陸乳業株式会社（福井工場、富山工場）、広島森永乳業株式会社、熊本森永乳業株式会社、沖縄森永乳業株式会社、エムケーチーズ株式会社、株式会社シェフォーレ、株式会社フリジポート（熊本工場）、東北森永乳業株式会社（仙台工場、秋田工場）、東洋醸造株式会社

原料使用量

	単位	2015	2016	2017	2018
原料使用量	千トン	1,219	1,181	1,169	1,118

包材使用量 集計対象：容器包装リサイクル法の対象となる商品

	単位	2015	2016	2017	2018
無色ガラス	千トン	27.7	26.3	24.3	22.0
茶色ガラス	千トン	0.7	0.1	0.0	0.0
その他ガラス	千トン	0.0	0.0	0.0	0.0
PET	千トン	0.0	0.1	0.1	0.2
プラスチック	千トン	21.0	20.5	20.3	18.8
紙製容器	千トン	11.7	12.0	12.3	11.8
紙パック	千トン	20.8	20.6	17.7	18.1
スチール缶（粉乳）	千トン	1.1	1.1	0.8	0.9
アルミ缶	千トン	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	千トン	83	81	76	72

製品生産量

	単位	2015	2016	2017	2018
製品生産量	千トン	1,489	1,452	1,420	1,360

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- 供給
- 次世代育成
- 人財育成
- コーポレート・ガバナンス

〉 データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

エネルギー使用量**

	単位	2015	2016	2017	2018
燃料※1	TJ	4,602	4,478	4,505	4,376*
電力量(購入)※2	TJ	738	713	691	715*
合計	TJ	5,340	5,191	5,197	5,091*
原単位	GJ/トン-生産量	3.6	3.6	3.7	3.7

※1 燃料は化石燃料使用量。

バイオマスエネルギーなどの再生可能エネルギーは含まない
燃料は、灯油(3TJ)、A重油(766TJ)、軽油(3TJ)、LPG(34TJ)、LNG(108TJ)、都市ガス(3,763TJ)の合計から販売した副生エネルギー(302TJ)を引いた総和。()内は2018年度実績

※2 電力量は、1,000kWh = 3.6GJとして算出。昼間電力(442TJ)と夜間電力(273TJ)の総和。()内は2018年度実績

エネルギー使用量(原油換算)**

	単位	2015	2016	2017	2018
燃料※	千kL	119	116	116	113
電力量(購入)※	千kL	51	50	48	50
合計	千kL	170	165	164	163
原単位	kL/トン-生産量	0.114	0.114	0.116	0.120

※省エネ法に基づき算出。原油換算量は、発熱量に0.0258(省エネ法施行規則より)を乗じて算出

※燃料は、灯油(0.08千kL)、A重油(19.77千kL)、軽油(0.09千kL)、LPG(0.88千kL)、LNG(2.78千kL)、都市ガス(97.10千kL)から販売した副生エネルギー(7.80千kL)を引いた総和。電力量(購入)は昼間電力量(32千kL)、夜間電力量(18千kL)の総和。()内は2018年度実績

CO₂排出量**

	単位	2015	2016	2017	2018
スコープ1※1,2	千トン-CO ₂	248	241	242	233*
スコープ2※1	千トン-CO ₂	118	111	106	107*
合計	千トン-CO ₂	366	353	348	341
原単位	トン-CO ₂ / トン-生産量	0.246	0.243	0.245	0.250

※1 スコープ1,2の区分は、GHGプロトコルに準拠

※2 販売した副生エネルギーにともなうCO₂排出量は除く

CO₂排出量(スコープ3)

	集計範囲	単位	2015	2016	2017	2018
上流の輸送・配送(カテゴリ4)※1	森永乳業	千トン-CO ₂	48.8	48.0	47.5	45.6
雇用の通勤(カテゴリ7)※2	森永乳業	千トン-CO ₂	1.37	1.47	1.51	1.51

※1 仕入原料および商品輸送、倉庫でのエネルギー使用、倉庫フロン漏えい量におけるCO₂換算量の合計値

※2 従業員の通勤手段毎の通勤距離から、手段別の算定係数を乗じて算出
係数は環境省のグリーン・バリューチェーンプラットフォーム排出原単位値を使用

算定基準

項目	算定基準
燃料(灯油使用量、A重油使用量、軽油使用量、LPG使用量、LNG使用量、都市ガス使用量)	エネルギーの使用の合理化等に関する法律(省エネ法)、地球温暖化対策の推進に関する法律(温対法)
電力量(購入)	エネルギー資源使用量(灯油・A重油・軽油・LPG・LNG・都市ガス)に対する排出量(算定は省エネ法、温対法による)
スコープ1	エネルギー資源使用量(灯油・A重油・軽油・LPG・LNG・都市ガス)に対する排出量(算定は省エネ法、温対法による)
スコープ2	エネルギー資源使用量(購入電力)に対する排出量(算定は省エネ法、温対法による)

CO₂取り組み削減量**

	単位	2015	2016	2017	2018
削減量	千トン-CO ₂	9.2	8.8	8.6	8.1

※設備投資と生産効率改善活動によるCO₂削減効果の積み上げ値

フロン類算定漏えい量(CO₂換算)**

	単位	2015	2016	2017	2018
漏えい量	千トン-CO ₂	7.2	13.8	11.2	12.0

※フロン排出抑制法に基づき算出
GWP(地球温暖化係数)は、フロン排出抑制法で規定された数値を使用

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- 供給
- 次世代育成
- 人財育成
- コーポレート・ガバナンス

> データ集

第三者保証

GRIスタンダード対照表

SOx、NOx、その他の重大な大気排出物**

	単位	2015	2016	2017	2018
SOx	千トン	0.17	0.22	0.22	0.17
NOx	千トン	0.44	0.43	0.38	0.31

用水使用量**

	単位	2015	2016	2017	2018
合計	千m ³	18,385	17,637	17,098	17,337
原単位	m ³ /トン・生産量	12.3	12.1	12.0	12.8

排水量**

種類	単位	2015	2016	2017	2018
海域放流	千m ³	1,467	1,399	1,383	1,440
河川放流	千m ³	13,951	13,232	12,869	12,883
下水放流	千m ³	1,088	1,134	1,163	1,026
合計	千m ³	16,505	15,765	15,415	15,349
原単位	m ³ /トン・生産量	11.1	10.9	10.9	11.3

廃棄物発生量**

	単位	2015	2016	2017	2018
外部委託処理					
産業廃棄物* ¹	千トン	30.0	30.4	24.4	25.9
特別管理産業廃棄物	千トン	0.005	0.0004	0.015	0.027
有価物・専ら物	千トン	11.9	11.4	10.9	11.6
内部処理（場内処理）	千トン	17.6	18.9	12.4	12.1
廃棄物発生量合計	千トン	59.5	60.6	47.7	49.6
食品廃棄物	千トン	23.8	22.4	19.1	19.2
埋立廃棄物量* ²	千トン	0.6	0.4	0.4	1.3
廃棄物発生量原単位	トン/トン・生産量	0.040	0.042	0.034	0.036
産業廃棄物原単位	トン/トン・生産量	0.020	0.021	0.017	0.019
食品廃棄物原単位	トン/トン・生産量	0.016	0.015	0.013	0.014

2018年度の集計方法と整合させるため、過去の実績値（2015～2017）を再集計し、修正しました。

※1 産業廃棄物排出量：事業活動に伴って生じた廃棄物のうち、外部の業者で委託処理を行った廃棄物の量。有価で引き取られたものは含まない

※2 埋立廃棄物量：廃棄物のうち、埋立処理される廃棄物の量

〈目次〉

サステナビリティに関する情報開示の
考え方

編集方針

会社情報

コーポレートミッション

トップコミットメント

サステナビリティへの取り組みのあゆみ

森永乳業のCSR

7つの重要取組課題

- 健康・栄養
- 環境
- 人権
- 供給
- 次世代育成
- 人財育成
- コーポレート・ガバナンス

データ集

> 第三者保証

GRIスタンダード対照表

第三者保証



Building a better
working world

森永乳業株式会社
代表取締役社長
宮原 道夫 殿

独立した第三者保証報告書

2019年9月19日

EY新日本有限責任監査法人
東京都千代田区有楽町一丁目1番2号

業務責任者 **沢味 健司**

当法人は、森永乳業株式会社(以下、「会社」という。)からの依頼に基づき、会社が作成した「サステナビリティレポート 2019 データ集」(以下、「レポート」という。)に記載されている2018年4月1日から2019年3月31日までを対象とする会社及び主要子会社の重要な環境情報(以下、「指標」という。)について限定的保証業務を実施した。保証の対象とし、手続を実施した指標については、レポートの該当箇所にマーク(*)を付した。

- 1. 会社の責任**

会社は、日本の環境法令等に準拠した基準(レポートの80頁「算定基準」)に従いレポートに記載されている指標を算定する責任を負っている。なお、温室効果ガスの排出量の算定には、排出係数を用いており、当該排出係数の基となる科学的知識が確立されておらず、また、温室効果ガス排出量の算定の過程で使用される測定装置固有の機能上の特質及びパラメータの推定的特質から固有の不確実性の影響下にある。
- 2. 当法人の独立性と品質管理**

当法人は、誠実性、公正性、職業的専門家としての能力及び正当な注意、守秘義務、及び職業的専門家としての行動に関する基本原則に基づく、「職業会計士に対する倫理規程(Code of Ethics for Professional Accountants)」(国際会計士倫理基準審議会^{*1} 2018年7月)に定める独立性を遵守した。また当法人は、「国際品質管理基準第1号(International Standard on Quality Control 1)」(国際監査・保証基準審議会^{*2} 2009年4月)に準拠しており、倫理規則、職業的専門家としての基準及び適用される法令及び規則の遵守に関する文書化した方針と手続を含む、包括的な品質管理システムを維持している。
- 3. 当法人の責任**

当法人の責任は、実施した手続及び入手した証拠に基づいて、レポートに記載されている指標に対する限定的保証の結論を表明することにある。当法人は、「国際保証業務基準3000(改訂)過去財務情報の監査又はレビュー以外の保証業務(Assurance Engagements Other than Audits or Reviews of Historical Information)」(国際監査・保証基準審議会^{*2} 2013年12月)、「サステナビリティ情報審査実務指針」(一般社団法人サステナビリティ情報審査協会 2014年12月)及び温室効果ガス報告に関しては、「国際保証業務基準3410 温室効果ガス報告に対する保証業務(Assurance Engagements on Greenhouse Gas Statements)」(国際監査・保証基準審議会^{*2} 2013年12月)に準拠し、限定的保証業務を実施した。

当法人の実施した手続は、職業的専門家としての判断に基づいており、質問、文書の閲覧、分析的手続、レポートに記載されている指標の基礎となる記録との一致であり、以下を含んでいる。

 - ・ 日本の環境法令等に準拠した基準に関する質問及び適切性の評価
 - ・ レポートに記載されている指標に関する内部統制の整備状況に関する本社及び工場(1か所)における質問、資料の閲覧
 - ・ レポートに記載されている指標に対する本社及び工場(1か所)における分析的手続の実施
 - ・ レポートに記載されている指標に対する本社及び工場(1か所)における調査による根拠資料との照合、再計算

限定的保証業務で実施する手続は、合理的保証業務で実施する手続と比べて、その種類、時期、範囲において限定されている。その結果、当法人が行った限定的保証業務は、合理的保証業務ほどには高い水準の保証を与えるものではない。
- 4. 結論**

当法人が実施した手続及び入手した証拠に基づいて、レポートに記載されている指標が日本の環境法令等に準拠した基準に従って算定、開示されていないと信じさせる事項はすべての重要な点において認められなかった。

以 上

^{*1} International Ethics Standards Board for Accountants
^{*2} International Auditing and Assurance Standards Board

GRIスタンダード対照表

本レポートはGRIスタンダードを参照しています。

本レポート以外で開示事項を掲載しているツールを案内しています。

●統合報告書

URL <https://www.morinagamilk.co.jp/ir/library/annual.html>

●コーポレート・ガバナンス報告書

URL <https://www.morinagamilk.co.jp/ir/management/governance.html>

GRI スタンダード	開示事項	ページまたはURL
GRI 101:基礎 2016		
一般開示事項		
GRI 102:一般開示事項 2016		
組織のプロフィール		
102-1	組織の名称	会社情報(5)
102-2	活動、ブランド、製品、サービス	会社情報(5, 6, 7, 8)
102-3	本社の所在地	会社情報(5)
102-4	事業所の所在地	会社情報(5)
102-5	所有形態および法人格	会社情報(5)
102-6	参入市場	会社情報(5)
102-7	組織の規模	会社情報(5, 9)
102-8	従業員およびその他の労働者に関する情報	会社情報(5)、人権(41)、人財育成(67)、データ集(78)
102-9	サプライチェーン	会社情報(5)、7つの重要取組課題(19)
102-10	組織およびそのサプライチェーンに関する重大な変化	会社情報(5)
102-11	予防原則または予防的アプローチ	7つの重要取組課題(19)
102-12	外部イニシアティブ	森永乳業のCSR(15)
102-13	団体の会員資格	森永乳業のCSR(15)、健康・栄養(23)、環境(39)、供給(56)
戦略		
102-14	上級意思決定者の声明	トップコミットメント(11)
102-15	重要なインパクト、リスク、機会	7つの重要取組課題(17, 19)
倫理と誠実性		
102-16	価値観、理念、行動基準・規範	コーポレートミッション(10)
102-17	倫理に関する助言および懸念のための制度	コンプライアンス(74)
ガバナンス		
102-18	ガバナンス構造	統合報告書、コーポレートレポート・ガバナンス報告書
102-19	権限移譲	統合報告書、コーポレートレポート・ガバナンス報告書
102-20	経済、環境、社会項目に関する役員レベルの責任	森永乳業のCSR(13)
102-21	経済、環境、社会項目に関するステークホルダーとの協議	森永乳業のCSR(13)
102-22	最高ガバナンス機関およびその委員会の構成	統合報告書、コーポレートレポート・ガバナンス報告書
102-23	最高ガバナンス機関の議長	統合報告書、コーポレートレポート・ガバナンス報告書
102-24	最高ガバナンス機関の指名と選出	統合報告書、コーポレートレポート・ガバナンス報告書
102-25	利益相反	コンプライアンス(74)、コーポレートレポート・ガバナンス報告書
102-26	目的、価値観、戦略の設定における最高ガバナンス機関の役割	統合報告書、コーポレートレポート・ガバナンス報告書
102-27	最高ガバナンス機関の集会的知見	統合報告書、コーポレートレポート・ガバナンス報告書
102-28	最高ガバナンス機関のパフォーマンスの評価	統合報告書、コーポレートレポート・ガバナンス報告書
102-29	経済、環境、社会へのインパクトの特定とマネジメント	森永乳業のCSR(13)
102-30	リスクマネジメント・プロセスの有効性	統合報告書、コーポレートレポート・ガバナンス報告書
102-31	経済、環境、社会項目のレビュー	統合報告書、コーポレートレポート・ガバナンス報告書

102-32	サステナビリティ報告における最高ガバナンス機関の役割	
102-33	重大な懸念事項の伝達	
102-34	伝達された重大な懸念事項の性質と総数	
102-35	報酬方針	統合報告書、コーポレートレポート・ガバナンス報告書
102-36	報酬の決定プロセス	統合報告書、コーポレートレポート・ガバナンス報告書
102-37	報酬に関するステークホルダーの関与	統合報告書、コーポレートレポート・ガバナンス報告書
102-38	年間報酬総額の比率	統合報告書、コーポレートレポート・ガバナンス報告書
102-39	年間報酬総額の比率の増加率	統合報告書、コーポレートレポート・ガバナンス報告書
ステークホルダー・エンゲージメント		
102-40	ステークホルダー・グループのリスト	森永乳業のCSR(14, 46)
102-41	団体交渉協定	人権(41, 50)
102-42	ステークホルダーの特定および選定	森永乳業のCSR(13, 14)、人権(41, 46)
102-43	ステークホルダー・エンゲージメントへのアプローチ方法	森永乳業のCSR(13, 14)、人権(41, 46)
102-44	提起された重要な項目および懸念	7つの重要取組課題(17, 19)
報告実務		
102-45	連結財務諸表の対象になっている事業体	会社情報(5)、統合報告書、有価証券報告書
102-46	報告書の内容および項目の該当範囲の確定	編集方針(4)
102-47	マテリアルな項目のリスト	7つの重要取組課題(17)
102-48	情報の再記述	
102-49	報告における変更	
102-50	報告期間	編集方針(4)
102-51	前回発行した報告書の日付	編集方針(4)
102-52	報告サイクル	編集方針(4)
102-53	報告書に関する質問の窓口	編集方針(4)
102-54	GRI スタンダードに準拠した報告であることの主張	編集方針(4)
102-55	GRI 内容索引	GRI スタンダード対照表(83)
102-56	外部保証	第三者保証(82)

GRI スタンダード	開示事項	ページまたはURL
GRI スタンダード 200 シリーズ(経済項目)		
経済パフォーマンス		
GRI 103: マネジメント手法 2016		
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	
103-2	マネジメント手法とその要素	
103-3	マネジメント手法の評価	
GRI 201: 経済パフォーマンス 2016		
201-1	創出、分配した直接的経済価値	会社情報(9)
201-2	気候変動による財務上の影響、その他のリスクと機会	
201-3	確定給付型年金制度の負担、その他の退職金制度	
201-4	政府から受けた資金援助	
地域経済での存在感		
GRI 103: マネジメント手法 2016		
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	
103-2	マネジメント手法とその要素	
103-3	マネジメント手法の評価	
GRI 202: 地域経済での存在感 2016		
202-1	地域最低賃金に対する標準新人給与の比率(男女別)	
202-2	地域コミュニティから採用した上級管理職の割合	
間接的な経済的インパクト		

GRI 103: マネジメント手法 2016			
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明		
103-2	マネジメント手法とその要素		
103-3	マネジメント手法の評価		
GRI 203: 間接的な経済的インパクト2016			
203-1	インフラ投資および支援サービス		
203-2	著しい間接的な経済的インパクト		健康・栄養(28)
調達慣行			
GRI 103: マネジメント手法 2016			
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明		供給(51)
103-2	マネジメント手法とその要素		供給(51)
103-3	マネジメント手法の評価		供給(51)
GRI 204: 調達慣行 2016			
204-1	地元サプライヤーへの支出の割合		
腐敗防止			
GRI 103: マネジメント手法 2016			
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明		コンプライアンス(74)
103-2	マネジメント手法とその要素		コンプライアンス(74)
103-3	マネジメント手法の評価		コンプライアンス(74)
GRI 205: 腐敗防止 2016			
205-1	腐敗に関するリスク評価を行っている事業所		
205-2	腐敗防止の方針や手順に関するコミュニケーションと研修		コンプライアンス(74)
205-3	確定した腐敗事例と実施した措置		
反競争的行為			
GRI 103: マネジメント手法 2016			
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明		コンプライアンス(74)
103-2	マネジメント手法とその要素		コンプライアンス(74)
103-3	マネジメント手法の評価		コンプライアンス(74)
GRI 206: 反競争的行為 2016			
206-1	反競争的行為、反トラスト、独占的慣行により受けた法的措置		

GRI スタンダード	開示事項	ページまたはURL
GRI スタンダード 300 シリーズ(環境項目)		
原材料		
GRI 103: マネジメント手法 2016		
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	7つの重要取組課題(17)、環境(31)
103-2	マネジメント手法とその要素	7つの重要取組課題(17)、環境(31)
103-3	マネジメント手法の評価	7つの重要取組課題(17)、環境(31)
GRI 301: 原材料 2016		
301-1	使用原材料の重量または体積	環境(31, 36, 37)、データ集(79)
301-2	使用したリサイクル材料	環境(31, 36, 37)、データ集(79)
301-3	再生利用された製品と梱包材	環境(31, 36, 37)、データ集(79)
エネルギー		
GRI 103: マネジメント手法 2016		
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	7つの重要取組課題(17)、環境(31)
103-2	マネジメント手法とその要素	7つの重要取組課題(17)、環境(31)
103-3	マネジメント手法の評価	7つの重要取組課題(17)、環境(31)
GRI 302: エネルギー 2016		
302-1	組織内のエネルギー消費量	環境(31, 35)、データ集(80)

302-2	組織外のエネルギー消費量	環境(31, 35)、データ集(80)
302-3	エネルギー原単位	環境(31, 35)、データ集(80)
302-4	エネルギー消費量の削減	環境(31, 35)、データ集(80)
302-5	製品およびサービスのエネルギー必要量の削減	環境(31, 35)、データ集(80)
水		
GRI 103: マネジメント手法 2016		
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	7つの重要取組課題(17)、環境(31)
103-2	マネジメント手法とその要素	7つの重要取組課題(17)、環境(31)
103-3	マネジメント手法の評価	7つの重要取組課題(17)、環境(31)
GRI 303: 水 2016		
303-1	水源別の取水量	環境(31)、データ集(81)
303-2	取水によって著しい影響を受ける水源	
303-3	リサイクル・リユースした水	環境(31)、データ集(81)
生物多様性		
GRI 103: マネジメント手法 2016		
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	7つの重要取組課題(17)、環境(31)
103-2	マネジメント手法とその要素	7つの重要取組課題(17)、環境(31)
103-3	マネジメント手法の評価	7つの重要取組課題(17)、環境(31)
GRI 304: 生物多様性 2016		
304-1	保護地域および保護地域ではないが生物多様性価値の高い地域、もしくはそれらの隣接地域に所有、賃借、管理している事業サイト	
304-2	活動、製品、サービスが生物多様性に与える著しいインパクト	環境(34)
304-3	生息地の保護・復元	
304-4	事業の影響を受ける地域に生息するIUCN レッドリストならびに国内保全種リスト対象の生物種	
大気への排出		
GRI 103: マネジメント手法 2016		
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	7つの重要取組課題(17)、環境(31)
103-2	マネジメント手法とその要素	7つの重要取組課題(17)、環境(31)
103-3	マネジメント手法の評価	7つの重要取組課題(17)、環境(31)
GRI 305: 大気への排出 2016		
305-1	直接的な温室効果ガス(GHG)排出量(スコープ1)	環境(31, 35)、データ集(80)
305-2	間接的な温室効果ガス(GHG)排出量(スコープ2)	環境(31, 35)、データ集(80)
305-3	その他の間接的な温室効果ガス(GHG)排出量(スコープ3)	データ集(80)
305-4	温室効果ガス(GHG)排出原単位	環境(31, 35)、データ集(80)
305-5	温室効果ガス(GHG)排出量の削減	環境(31, 35)、データ集(80)
305-6	オゾン層破壊物質(ODS)の排出量	
305-7	窒素酸化物(NOx)、硫黄酸化物(SOx)、およびその他の重大な大気排出物	環境(31)、データ集(81)
排水および廃棄物		
GRI 103: マネジメント手法 2016		
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	7つの重要取組課題(17)、環境(31)
103-2	マネジメント手法とその要素	7つの重要取組課題(17)、環境(31)
103-3	マネジメント手法の評価	7つの重要取組課題(17)、環境(31)
GRI 306: 排水および廃棄物 2016		
306-1	排水の水質および排出先	環境(31, 38)、データ集(81)
306-2	種類別および処分方法別の廃棄物	環境(31, 36)、データ集(81)
306-3	重大な漏出	環境(31)、データ集(81)
306-4	有害廃棄物の輸送	
306-5	排水や表面流水によって影響を受ける水域	
環境コンプライアンス		

GRI 103: マネジメント手法 2016		
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	環境(31)
103-2	マネジメント手法とその要素	環境(31)
103-3	マネジメント手法の評価	環境(31)
GRI 307: 環境コンプライアンス 2016		
307-1	環境法規制の違反	環境(31, 33)
サプライヤーの環境面のアセスメント		
GRI 103: マネジメント手法 2016		
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	環境(31)、供給(51)
103-2	マネジメント手法とその要素	環境(31)、供給(51)
103-3	マネジメント手法の評価	環境(31)、供給(51)
GRI 308: サプライヤーの環境面のアセスメント		
308-1	環境基準により選定した新規サプライヤー	
308-2	サプライチェーンにおけるマイナスの環境インパクトと実施した措置	

GRI スタンダード	開示事項	ページまたはURL
GRI スタンダード 400 シリーズ(社会項目)		
雇用		
GRI 103: マネジメント手法 2016		
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	人権(41)、人財育成(41)
103-2	マネジメント手法とその要素	人権(41)、人財育成(41)
103-3	マネジメント手法の評価	人権(41)、人財育成(41)
GRI 401: 雇用 2016		
401-1	従業員の新規雇用と離職	データ集(78)
401-2	正社員には支給され、非正規社員には支給されない手当	
401-3	育児休暇	データ集(78)
労使関係		
GRI 103: マネジメント手法 2016		
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	人権(50)
103-2	マネジメント手法とその要素	人権(50)
103-3	マネジメント手法の評価	人権(50)
GRI 402: 労使関係 2016		
402-1	事業上の変更に係る最低通知期間	人権(50)
労働安全衛生		
GRI 103: マネジメント手法 2016		
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	7つの重要取組課題(17)、人権(41)
103-2	マネジメント手法とその要素	7つの重要取組課題(17)、人権(41)
103-3	マネジメント手法の評価	7つの重要取組課題(17)、人権(41)
GRI 403: 労働安全衛生 2016		
403-1	正式な労使合同安全衛生委員会への労働者代表の参加	人権(41, 50)
403-2	傷害の種類、業務上傷害・業務上疾病・休業日数・欠勤および業務上の死亡者数	人権(41, 44)
403-3	疾病の発症率あるいはリスクが高い業務に従事している労働者	人権(41)
403-4	労働組合との正式協定に含まれている安全衛生条項	人権(41, 50)
研修と教育		
GRI 103: マネジメント手法 2016		
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	7つの重要取組課題(17)、人財育成(41)
103-2	マネジメント手法とその要素	7つの重要取組課題(17)、人財育成(41)
103-3	マネジメント手法の評価	7つの重要取組課題(17)、人財育成(41)
GRI 404: 研修と教育 2016		

404-1	従業員一人あたりの年間平均研修時間	非公開
404-2	従業員スキル向上プログラムおよび移行支援プログラム	人財育成(67, 68, 70)
404-3	業績とキャリア開発に関して定期的なレビューを受けている従業員の割合	人財育成(67)
ダイバーシティと機会均等		
GRI 103: マネジメント手法 2016		
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	7つの重要取組課題(17)、人権(41, 47)
103-2	マネジメント手法とその要素	7つの重要取組課題(17)、人権(41, 47)
103-3	マネジメント手法の評価	7つの重要取組課題(17)、人権(41, 47)
GRI 405: ダイバーシティと機会均等2016		
405-1	ガバナンス機関および従業員のダイバーシティ	コーポレート・ガバナンス(74)、データ集(78)
405-2	基本給と報酬総額の男女比	非公開
非差別		
GRI 103: マネジメント手法 2016		
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	7つの重要取組課題(17)、人権(41)
103-2	マネジメント手法とその要素	7つの重要取組課題(17)、人権(41)
103-3	マネジメント手法の評価	7つの重要取組課題(17)、人権(41)
GRI 406: 非差別 2016		
406-1	差別事例と実施した救済措置	
結社の自由と団体交渉		
GRI 103: マネジメント手法 2016		
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	7つの重要取組課題(17)、人権(41)
103-2	マネジメント手法とその要素	7つの重要取組課題(17)、人権(41)
103-3	マネジメント手法の評価	7つの重要取組課題(17)、人権(41)
GRI 407: 結社の自由と団体交渉 2016		
407-1	結社の自由や団体交渉の権利がリスクにさらされる可能性のある事業所およびサプライヤー	
児童労働		
GRI 103: マネジメント手法 2016		
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	7つの重要取組課題(17)、人権(41, 46)
103-2	マネジメント手法とその要素	7つの重要取組課題(17)、人権(41, 46)
103-3	マネジメント手法の評価	7つの重要取組課題(17)、人権(41, 46)
GRI 408: 児童労働 2016		
408-1	児童労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	人権(46)
強制労働		
GRI 103: マネジメント手法 2016		
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	7つの重要取組課題(17)、人権(41)
103-2	マネジメント手法とその要素	7つの重要取組課題(17)、人権(41)
103-3	マネジメント手法の評価	7つの重要取組課題(17)、人権(41)
GRI 409: 強制労働 2016		
409-1	強制労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	
保安慣行		
GRI 103: マネジメント手法 2016		
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	7つの重要取組課題(17)、人権(41)
103-2	マネジメント手法とその要素	7つの重要取組課題(17)、人権(41)
103-3	マネジメント手法の評価	7つの重要取組課題(17)、人権(41)
GRI 410: 保安慣行 2016		
410-1	人権方針や手順について研修を受けた保安要員	人権(42)
先住民族の権利		
GRI 103: マネジメント手法 2016		
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	7つの重要取組課題(17)、人権(41)

	103-2	マネジメント手法とその要素	7つの重要取組課題(17)、人権(41)
	103-3	マネジメント手法の評価	7つの重要取組課題(17)、人権(41)
GRI 411: 先住民族の権利 2016			
	411-1	先住民族の権利を侵害した事例	
人権アセスメント			
GRI 103: マネジメント手法 2016			
	103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	7つの重要取組課題(17)、人権(41)
	103-2	マネジメント手法とその要素	7つの重要取組課題(17)、人権(41)
	103-3	マネジメント手法の評価	7つの重要取組課題(17)、人権(41)
GRI 412: 人権アセスメント 2016			
	412-1	人権レビューやインパクト評価の対象とした事業所	人権(41)
	412-2	人権方針や手順に関する従業員研修	人権(41, 42)
	412-3	人権条項を含むもしくは人権スクリーニングを受けた重要な投資協定および契約	
地域コミュニティ			
GRI 103: マネジメント手法 2016			
	103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	7つの重要取組課題(17)、次世代育成(64)
	103-2	マネジメント手法とその要素	7つの重要取組課題(17)、次世代育成(64)
	103-3	マネジメント手法の評価	7つの重要取組課題(17)、次世代育成(64)
GRI 413: 地域コミュニティ 2016			
	413-1	地域コミュニティとのエンゲージメント、インパクト評価、開発プログラムを実施した事業所	
	413-2	地域コミュニティに著しいマイナスのインパクト(顕在的、潜在的)を及ぼす事業所	
サプライヤーの社会面のアセスメント			
GRI 103: マネジメント手法 2016			
	103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	7つの重要取組課題(17)、供給(51)
	103-2	マネジメント手法とその要素	7つの重要取組課題(17)、供給(51)
	103-3	マネジメント手法の評価	7つの重要取組課題(17)、供給(51)
GRI 414: サプライヤーの社会面のアセスメント2016			
	414-1	社会的基準により選定した新規サプライヤー	
	414-2	サプライチェーンにおけるマイナスの社会的インパクトと実施した措置	人権(46)、供給(53)
公共政策			
GRI 103: マネジメント手法 2016			
	103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	
	103-2	マネジメント手法とその要素	
	103-3	マネジメント手法の評価	
GRI 415: 公共政策 2016			
	415-1	政治献金	
顧客の安全衛生			
GRI 103: マネジメント手法 2016			
	103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	7つの重要取組課題(17)、供給(51)
	103-2	マネジメント手法とその要素	7つの重要取組課題(17)、供給(51)
	103-3	マネジメント手法の評価	7つの重要取組課題(17)、供給(51)
GRI 416: 顧客の安全衛生 2016			
	416-1	製品およびサービスのカテゴリーに対する安全衛生インパクトの評価	7つの重要取組課題(17)、供給(51)
	416-2	製品およびサービスの安全衛生インパクトに関する違反事例	
マーケティングとラベリング			
GRI 103: マネジメント手法 2016			
	103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	供給(51)
	103-2	マネジメント手法とその要素	供給(51)
	103-3	マネジメント手法の評価	供給(51)

GRI 417: マーケティングとラベリング 2016		
417-1	製品およびサービスの情報とラベリングに関する要求事項	
417-2	製品およびサービスの情報とラベリングに関する違反事例	
417-3	マーケティング・コミュニケーションに関する違反事例	
顧客プライバシー		
GRI 103: マネジメント手法 2016		
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	情報セキュリティ(76)
103-2	マネジメント手法とその要素	情報セキュリティ(76)
103-3	マネジメント手法の評価	情報セキュリティ(76)
GRI 418: 顧客プライバシー 2016		
418-1	顧客プライバシーの侵害および顧客データの紛失に関して具体化した不服申立	情報セキュリティ(76, 77)
社会経済面のコンプライアンス		
GRI 103: マネジメント手法 2016		
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	コンプライアンス(74)
103-2	マネジメント手法とその要素	コンプライアンス(74)
103-3	マネジメント手法の評価	コンプライアンス(74)
GRI 419: 社会経済面のコンプライアンス 2016		
419-1	社会経済分野の法規制違反	コンプライアンス(74)

